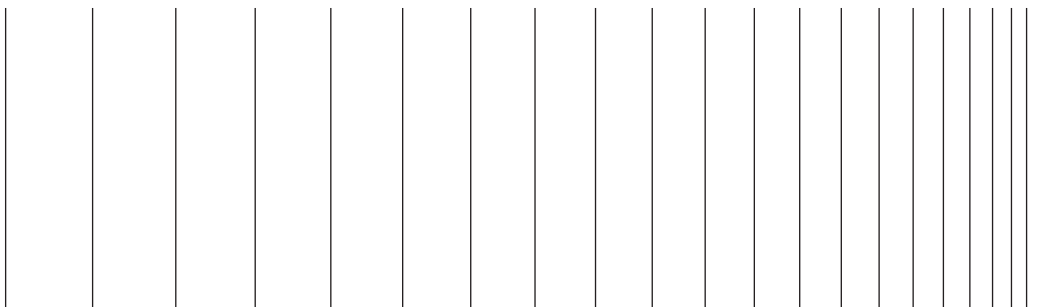




HF-W7500モデル40

セッティングガイド

- ・ 操作を行う前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。
- ・ このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近なところに保管してください。

ユーザーズ マニュアル

この製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。
なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

2014年 9月 (第1版) WIN-3-0091 (廃版)
2014年11月 (第2版) WIN-3-0091-01 (廃版)
2015年 3月 (第3版) WIN-3-0091-02 (廃版)
2015年 4月 (第4版) WIN-3-0091-03

- このマニュアルの一部または全部を無断で転写したり複写したりすることは、固くお断りいたします。
- このマニュアルの内容を、改良のため予告なしに変更することがあります。



安全にお取り扱いいただくために

装置を操作する前に、以下に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

- 操作は、このマニュアル内の指示、手順に従って操作してください。
- 装置やマニュアルに表示されている安全に関する注意事項は特に注意を払い、必ず守ってください。これを怠ると、人身上の傷害や装置を含む財産の破損を引き起こす恐れがあります。
- 安全に関する注意事項は、下に示す見出しによって表示されます。これは安全警告記号と「危険」、「警告」、「注意」、および「通知」という見出し語を組み合わせたものです。



これは安全警告記号です。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用いられます。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルの後に続く安全に関するメッセージに従ってください。



危 険：死亡または重大な傷害を引き起こす可能性が高い差し迫った危険の存在を示すのに用いられます。



警 告：死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用いられます。



注 意：軽度の傷害または中程度の傷害を引き起こす恐れのある潜在的な危険の存在を示すのに用いられます。

通 知：これは、人身傷害とは関係のない損害をひき起すおそれのある危険の存在を示すのに用いられます。

なお、「留意事項」という見出し語は、装置の取扱いおよび操作上の注意書きを示すのに用いられます。

- マニュアルに記載されている以外の操作は行わないでください。装置について何か問題がある場合は、保守員をお呼びください。
- 装置を操作する前に、このマニュアルをよく読み、書かれている指示や注意を十分に理解してください。
- このマニュアルは、必要なときにすぐ参照できるよう、使いやすい場所に保管してください。
- 装置やマニュアルに表示されている注意事項は、十分に検討されたものでありますが、それでも、予測を超えた事態が起こることが考えられます。操作に当たっては、指示に従うだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。



安全にお取り扱いいただくために（続き）

1. 共通的な注意事項

以下に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

1. 1 警告

- この装置は、人命に直接関わる安全性を要求されるシステムに適用する目的で製造されたものではありません。このような用途に使用する可能性がある場合には、弊社営業窓口へ相談してください。
- 万一、発煙・異臭などがあった場合は、装置への給電を遮断し、電源ケーブルをコンセントから抜いて、ご購入先または保守員に連絡してください。故障状態のままお使いになると火災や感電の原因になります。
- この装置は磁気ディスク装置を内蔵しています。故障の原因になりますので、打撃、衝撃、振動を与えないよう取り扱いってください。万一、この装置を落としたりケースを破損した場合は、電源ケーブルをコンセントから抜いてから、保守員に連絡してください。そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。また、開梱時および持ち運ぶ時は衝撃を与えないでください。
- 火災や感電の原因になりますので、この装置を改造しないでください。また、改造により発生した結果については、一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。



安全にお取り扱いいただくために（続き）

1. 2 注意

- 装置が落下または転倒するとけがをする恐れがあります。装置の運搬時には十分注意してください。
- この装置を開梱する時や持ち運ぶ時に指をはさんだり、ぶついたりしてけがをしないように注意してください。



安全にお取り扱いいただくために（続き）

1. 3 通知

- この装置単独ではシステムの安全は確保できません。この装置が万一故障したり誤動作やプログラムに欠陥があった場合でも、ご使用されるシステムの安全が十分に確保されるよう、人身事故・重大な災害に対する安全対策のための保護・安全回路を外部に設けるなど、システムの保護処置を施した設計としてください。
- 弊社指定の基本ソフトウェアを使用してください。それ以外の基本ソフトウェアを使用した場合の動作は、保証できません。
- 故障の原因になりますので、この装置をじんあいの多い所や、腐食性ガスのある環境で使用することは避けてください。
- この装置の前面および背面には、吸排気孔のためのスペースを必ず確保してください。温度上昇による故障または短寿命の原因になります。また、保守作業のための保守スペースが必要です。
- 非常遮断（OSのシャットダウン処理を行わずに電源ケーブルをコンセントから抜いたり、ブレーカを切ったりすること）をすると、OSやアプリケーションが正常に動作しなくなったり、保存データの安全性に問題が生じたりすることがあります。何らかの異常が発生し緊急に遮断しなければならないとき以外は、絶対に実施しないでください。
- 電源の供給元で電源を遮断した場合、システムを自動で復旧できないことがありますので、注意してください。
- ディスク（CD、DVD）の挿入やアクセスによって、システム負荷が上昇し、動作中のアプリケーションに影響を与えることがありますので、オンライン運転中（システム稼働中）はディスクの挿入やアクセスを行わないでください。
- ディスク（CD、DVD）へのアクセス終了後は、ディスクをDVDドライブから取り出してください。
DVDドライブ内へ放置すると、障害の原因となります。
- ディスクトレイを出したままにしておくと障害の原因となります。
使わないときは、ディスクトレイをDVDドライブに収納しておいてください。



安全にお取り扱いいただくために（続き）

2. このマニュアル内の警告表示

2. 1 「通知」と表示されているもの

- この装置は、障害の種類によって大切なファイルを消失することがあります。また、この装置の障害だけでなく、使用中の停電、誤操作などによってファイルを消失することがあります。このような状態になった場合には、ファイルの回復はできません。そのような事態に備えて日常業務の中にファイルのセーブ作業を組み入れ、計画的にファイルのバックアップをお取りください。

(iページ)

- リカバリDVDは、出荷時のハードウェア構成で作成したイメージファイルを保存したDVDです。そのため、ハードウェア構成が出荷時と異なる場合、復元作業を行ってもOSが正常に起動しない可能性があります。リカバリDVDを使用した復元は、外部記憶装置をすべて取り外し、出荷時のハードウェア構成で行ってください。

また、リカバリDVDを使用した場合にはシステムドライブのすべてのデータが消去されますので、必要に応じて事前にバックアップを行ってください。

(3-2ページ)

このページは白紙です。

はじめに

このマニュアルは、日立産業用コンピュータHF-W7500モデル40のOSに関するセットアップ手順について記述したものであり、下記のプレインストールOSを対象としています。

- Windows® 7 Professional
- Windows Server® 2008 R2 Standard
- Windows Server® 2012 R2 Standard

＜マニュアルの構成＞

このマニュアルは、次のような構成となっています。

第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順

第2章 OSセットアップ後の基本設定

第3章 リカバリDVDによる出荷状態への復元

第4章 特記事項

付録A Windows XP Modeを使用する場合のセットアップ手順（Windows® 7の場合のみ）

付録B 仮想環境を構築する場合のセットアップ手順（Windows Server® 2008 R2の場合）

付録C 仮想環境を構築する場合のセットアップ手順（Windows Server® 2012 R2の場合）

＜マニュアルで使用する用語＞

このマニュアルで使用する用語について、以下のとおり定義します。

- インストール：ソフトウェアをコンピュータのハードディスクに組み込むことです。
- セットアップ：ソフトウェアがコンピュータで使用できるように環境を設定することです。
- 仮想マシン：Virtual PCやHyper-V®より提供される仮想ハードウェア環境です。
- ホストOS：仮想マシンを動作させる基盤のオペレーティングシステムです。
- ゲストOS：仮想マシン上で動作するオペレーティングシステムです。

通 知

この装置は、障害の種類によって大切なファイルを消失することがあります。また、この装置の障害だけでなく、使用中の停電、誤操作などによってファイルを消失することがあります。このような状態になった場合には、ファイルの回復はできません。そのような事態に備えて日常業務の中にファイルのセーブ作業を組み入れ、計画的にファイルのバックアップをお取りください。

<記憶容量の計算値についての注意>

- 2ⁿ計算値の場合（メモリ容量・所要量、ファイル容量・所要量など）

1KB（キロバイト）＝1,024バイトの計算値です。

1MB（メガバイト）＝1,048,576バイトの計算値です。

1GB（ギガバイト）＝1,073,741,824バイトの計算値です。

1TB（テラバイト）＝1,099,511,627,776バイトの計算値です。

- 10ⁿ計算値の場合（ディスク容量など）

1KB（キロバイト）＝1,000バイトの計算値です。

1MB（メガバイト）＝1,000²バイトの計算値です。

1GB（ギガバイト）＝1,000³バイトの計算値です。

1TB（テラバイト）＝1,000⁴バイトの計算値です。

<商標について>

- ・ Microsoft®、Windows®、Windows Server®、Internet Explorer®、Hyper-V®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ 上記以外にこのマニュアルに記載されている他社製品名（ソフトウェア、ハードウェア）は、各社の登録商標、商標、または商品です。

<用語の読み替えについて>

このマニュアルでWindows®を操作する手順を説明していますが、Windows® 7やWindows Server® 2008 R2で「ログオン」、「ログオフ」と呼んでいた操作は、Windows Server® 2012 R2ではそれぞれ「サインイン」、「サインアウト」に変更されています。使用するOSがWindows Server® 2012 R2の場合は、必要に応じて読み替えてください。

目次

 安全にお取り扱いいただくために	S-1
第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順	1-1
1. 1 Windows® 7のセットアップ	1-2
1. 1. 1 セットアップの準備	1-2
1. 1. 2 Windows® 7 Professionalのセットアップ手順	1-3
1. 2 Windows Server® 2008 R2のセットアップ	1-5
1. 2. 1 セットアップの準備	1-5
1. 2. 2 Windows Server® 2008 R2 Standardのセットアップ手順	1-6
1. 3 Windows Server® 2012 R2のセットアップ	1-8
1. 3. 1 セットアップの準備	1-8
1. 3. 2 Windows Server® 2012 R2 Standardのセットアップ手順	1-9
第2章 OSセットアップ後の基本設定	2-1
2. 1 Windows® 7の基本設定	2-2
2. 1. 1 基本設定手順の概要	2-2
2. 1. 2 自動更新の設定	2-3
2. 1. 3 ネットワーク環境の設定	2-5
2. 1. 4 ハードディスクの空き領域のフォーマット	2-7
2. 2 Windows Server® 2008 R2の基本設定	2-10
2. 2. 1 基本設定手順の概要	2-10
2. 3 Windows Server® 2012 R2の基本設定	2-11
2. 3. 1 基本設定手順の概要	2-11
第3章 リカバリDVDによる出荷状態への復元	3-1
3. 1 復元手順の概要	3-1
3. 2 事前の準備	3-2
3. 3 システムドライブの出荷状態への復元	3-3
3. 3. 1 出荷状態への復元手順	3-3
3. 3. 2 復元操作時のエラーと対処方法	3-11
第4章 特記事項	4-1
4. 1 セットアップ中のイベントログ記録について	4-1
4. 2 OS動作中のイベントログ記録について	4-1
4. 3 コマンドプロンプト多用に伴う描画異常について	4-3
4. 4 既定でスケジューリングされる機能について	4-3

4. 5	セキュリティ強化機能について	4-12
4. 6	ファイル共有に伴うSTOPエラー (0x7e) について	4-20
4. 7	装置出荷時のネットワーク設定について	4-20
4. 8	シャットダウン時におけるアプリケーションエラーについて	4-22

付録A	Windows XP Modeを使用する場合のセットアップ手順 (Windows® 7の場合のみ)	A-1
-----	--	-----

付録B	仮想環境を構築する場合のセットアップ手順 (Windows Server® 2008 R2の場合)	B-1
-----	--	-----

付録C	仮想環境を構築する場合のセットアップ手順 (Windows Server® 2012 R2の場合)	C-1
-----	--	-----

第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順

この章では、以下のセットアップ手順について説明します。

- ・装置を購入して初めて電源を投入した場合のセットアップ手順

プレインストールOS	説明
Windows® 7 Professional	「1. 1 Windows® 7のセットアップ」を参照して、セットアップを行ってください。
Windows Server® 2008 R2 Standard	「1. 2 Windows Server® 2008 R2のセットアップ」を参照して、セットアップを行ってください。
Windows Server® 2012 R2 Standard	「1. 3 Windows Server® 2012 R2のセットアップ」を参照して、セットアップを行ってください。

第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順

1. 1 Windows® 7のセットアップ

この節では、プレインストールされたWindows® 7 Professionalのセットアップ手順を示します。

- Windows® 7 Professionalの基本項目を設定します。
- RAS機能のセットアップは自動で行われます。
- 所要時間は約20分です。

1. 1. 1 セットアップの準備

下記の項目は、セットアップ作業中に必要となる項目です。セットアップ作業を開始する前にあらかじめ決めて（確認して）おいてください。

項目	内容
ライセンス証書	この装置本体にライセンス証書が貼り付いていることを確認してください。
ユーザー名	コンピュータの管理者アカウントのユーザー名 後からコントロールパネルで変更可能です。
パスワード	ユーザー名のパスワード 後からコントロールパネルで変更可能です。
コンピューター名	ネットワークでコンピュータを識別するための名称 ・ネットワーク内でコンピュータを識別するための名称です。ネットワークで固有な名称にしてください。 後からコントロールパネルで変更可能です。

1. 1. 2 Windows® 7 Professionalのセットアップ手順

以下の手順でWindows® 7 Professionalのセットアップを行ってください。

- ① この装置の電源を入れます。

Windowsが起動してセットアップの準備が行われます。

その後、デバイスドライバのインストールが行われていることを示す「Setup is installing devices. Please wait...」のメッセージが表示されます。

- ・これらの処理には数分かかることがあります、そのままお待ちください。

再起動後しばらくすると、Windows® 7 Professionalのセットアップ画面が表示されます。

- ② ユーザー名の入力画面が表示されます。

- ・ユーザー名およびコンピューター名を入力して **【次へ】 ボタン** をクリックします。

- ③ パスワードの入力画面が表示されます。

- ・ **【パスワードを入力してください】** および **【パスワードをもう一度入力してください】** にパスワードを入力します。
- ・ **【パスワードのヒントを入力してください】** にパスワードのヒントを入力します。
- ・ **【次へ】 ボタン** をクリックします。

- ④ ライセンス契約画面が表示されます。

- ・表示内容を確認し、**「ライセンス条項に同意します」** チェックボックスをオンにします。
- ・ **【次へ】 ボタン** をクリックします。

- ⑤ コンピューターの保護とWindowsの機能の向上が自動的に行われるように設定する画面が表示されます。

- ・ **【後で確認します】 ボタン** をクリックします。

- ⑥ 日付と時刻の設定画面が表示されます。

- ・タイムゾーンおよび日付と時刻を設定します。
- ・ **【次へ】 ボタン** をクリックします。

- ⑦ しばらくすると、メモリダンプのための領域を確保するための処理を実行していることを示す「Setup program is configuring memory dump file. Please wait...」のメッセージが表示されます。

- ・この処理には数分かかることがあります、そのままお待ちください。

- ⑧ **【Windows セキュリティ】** 画面が表示されます。

- ・ **「“Hitachi, Ltd.” からのソフトウェアを常に信頼する**」 チェックボックスをオンにします。
- ・ **【インストール】 ボタン** をクリックします。

- ⑨ セットアップが完了後、自動的にログオンします。

- ⑩ ログオン後、再起動を促すメッセージが表示されます。

- ・ **【今すぐ再起動する】 ボタン** をクリックして再起動します。

以上で、Windows® 7 Professionalのセットアップは終了です。これ以降は「第2章 OSセットアップ後の基本設定」に記載の手順に従い、OSの基本設定を実施してください。

留意事項

この装置では、より確実な障害解析を行うために、システムエラー（ブルースクリーン）発生時に完全メモリダンプを収集するように設定しています。この設定は、⑩のシステムの再起動後に有効になります。

1. 2 Windows Server® 2008 R2のセットアップ

この節では、プレインストールされたWindows Server® 2008 R2 Standardのセットアップ手順を示します。

- Windows Server® 2008 R2 Standardの基本項目を設定します。
- RAS機能のセットアップは自動で行われます。
- 所要時間は約20分です。

1. 2. 1 セットアップの準備

下記の項目は、セットアップ作業中に必要となる項目です。セットアップ作業を開始する前にあらかじめ決めて（確認して）おいてください。

項目	内容
ライセンス証書	この装置本体にライセンス証書が貼り付いていることを確認してください。
Administratorのパスワード	Administratorのパスワード 後からコントロールパネルで変更可能です。

1. 2. 2 Windows Server® 2008 R2 Standardのセットアップ手順

以下の手順でWindows Server® 2008 R2 Standardのセットアップを行ってください。

- ① この装置の電源を入れます。

Windowsが起動してセットアップの準備が行われます。

その後、デバイスドライバのインストールが行われていることを示す「Setup is installing devices. Please wait...」のメッセージが表示されます。

- ・これらの処理には数分かかることがあります、そのままお待ちください。

再起動後しばらくすると、Windows Server® 2008 R2 Standardのセットアップ画面が表示されます。

- ② ライセンス契約画面が表示されます。

- ・表示内容を確認し、「ライセンス条項に同意します」チェックボックスをオンにします。

- ・[開始] ボタンをクリックします。

- ③ しばらくすると、メモリダンプのための領域を確保するための処理を実行していることを示す「Setup program is configuring memory dump file. Please wait...」のメッセージが表示されます。

- ・この処理には数分かかることがあります、そのままお待ちください。

- ④ [Windows セキュリティ] 画面が表示されます。

- ・「“Hitachi, Ltd.”からのソフトウェアを常に信頼する」チェックボックスをオンにします。

- ・[インストール] ボタンをクリックします。

- ⑤ Administratorのパスワード変更を要求する画面が表示されます。

- ・[OK] ボタンをクリックします。

- ⑥ パスワードの入力画面が表示されます。

[新しいパスワード] および [パスワードの確認入力] にパスワードを入力して
[Enter] キーを押すか [→] をクリックします。

留意事項

Administratorのパスワードを設定する際、以下の条件を満たす必要があります。

- ・6文字以上であること。
 - ・半角英文字の大文字および小文字、数字、記号の4種類から3種類以上を使用すること。
 - ・ユーザーアカウント名やユーザー名として使用されている3文字以上連続する文字列を使用しないこと。
-

- ⑦ パスワード変更完了の画面が表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。

- ⑧ セットアップが完了後、自動的にログオンします。

- ⑨ ログオン後、再起動を促すメッセージと初期構成タスク画面が表示されます。
- ・次回起動時に初期構成タスク画面を表示しない場合は、[初期構成タスク] 画面の「ログオン時にこのウィンドウを表示しない」チェックボックスをオンにします。
 - ・[初期構成タスク] 画面右上の[×] ボタンをクリックして画面を終了します。
 - ・再起動を促すメッセージが表示されますので[今すぐ再起動する] ボタンをクリックして再起動します。

以上で、Windows Server® 2008 R2 Standardのセットアップは終了です。これ以降は「第2章 OSセットアップ後の基本設定」に記載の手順に従い、OSの基本設定を実施してください。

留意事項

この装置では、より確実な障害解析を行うために、システムエラー（ブルースクリーン）発生時に完全メモリダンプを収集するように設定しています。この設定は、⑨のシステムの再起動後に有効になります。

第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順

1. 3 Windows Server® 2012 R2のセットアップ

この節では、プレインストールされたWindows Server® 2012 R2 Standardのセットアップ手順を示します。

- Windows Server® 2012 R2 Standardの基本項目を設定します。
- RAS機能のセットアップは自動で行われます。
- 所要時間は約20分です。

1. 3. 1 セットアップの準備

下記の項目は、セットアップ作業中に必要となる項目です。セットアップ作業を開始する前にあらかじめ決めて（確認して）おいてください。

項目	内容
ライセンス証書	この装置本体にライセンス証書が貼り付いていることを確認してください。
Administratorのパスワード	Administratorのパスワード 後からコントロールパネルで変更可能です。

1. 3. 2 Windows Server® 2012 R2 Standardのセットアップ手順

以下の手順でWindows Server® 2012 R2 Standardのセットアップを行ってください。

- ① この装置の電源を入れます。

Windowsが起動してセットアップの準備が行われます。

その後、デバイスドライバのインストールが行われていることを示す「Setup is installing devices. Please wait...」のメッセージが表示されます。

・これらの処理には数分かかることがあります、そのままお待ちください。

- ② 再起動後しばらくすると、ライセンス契約画面が表示されます。

・表示内容を確認し、**【同意します】 ボタン**をクリックします。

- ③ Administratorのパスワードを設定する画面が表示されます。

【パスワード】 および **【パスワードの確認入力】** にパスワードを入力して **【完了】 ボタン**をクリックします。

留意事項

Administratorのパスワードを設定する際、以下の条件を満たす必要があります。

- ・6文字以上であること。
- ・半角英文字の大文字および小文字、数字、記号の4種類から3種類以上を使用すること。
- ・ユーザーアカウント名やユーザー名として使用されている3文字以上連続する文字列を使用しないこと。

- ④ しばらくすると、メモリダンプのための領域を確保するための処理を実行していることを示す「Setup program is configuring memory dump file. Please wait...」のメッセージが表示されます。

・この処理には数分かかることがあります、そのままお待ちください。

- ⑤ セットアップが完了後、サインイン画面が表示されます。

・ **【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キー**を押します。

- ⑥ Administratorのパスワードを入力する画面が表示されます。

・ **パスワード**を入力して **【Enter】 キー**を押すか **【→】** をクリックします。

・サインインが行われ、サーバーマネージャーが起動します。

- ⑦ システムを再起動してください。これによりRAS機能が有効になります。

以上で、Windows Server® 2012 R2 Standardのセットアップは終了です。これ以降は「第2章 OSセットアップ後の基本設定」に記載の手順に従い、OSの基本設定を実施してください。

留意事項

この装置では、より確実な障害解析を行うために、システムエラー（ブルースクリーン）発生時に完全メモリダンプを収集するように設定しています。この設定は、⑦のシステムの再起動後に有効になります。

このページは白紙です。

第2章 OSセットアップ後の基本設定

この章では、以下の設定手順について説明します。

- OSセットアップ後の基本設定手順

この手順は、OSのセットアップを実施した後に必要に応じて実施してください。

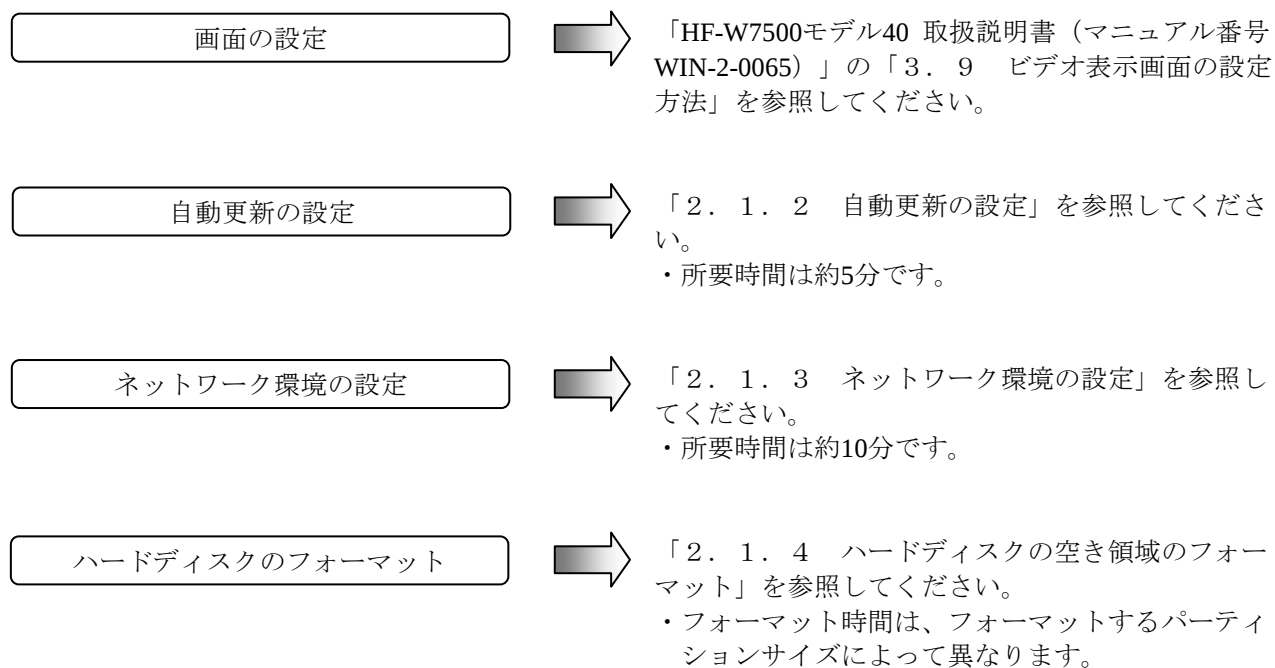
プレインストールOS	説明
Windows® 7 Professional	「2. 1 Windows® 7の基本設定」を参照して、各設定を行ってください。
Windows Server® 2008 R2 Standard	「2. 2 Windows Server® 2008 R2の基本設定」を参照して、各設定を行ってください。
Windows Server® 2012 R2 Standard	「2. 3 Windows Server® 2012 R2の基本設定」を参照して、各設定を行ってください。

2. 1 Windows® 7の基本設定

この節では、プレインストールされたWindows® 7 Professionalの基本設定手順を示します。

この手順は、「第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順」を参照してOSのセットアップを実施した後に必要に応じて実施してください。

2. 1. 1 基本設定手順の概要



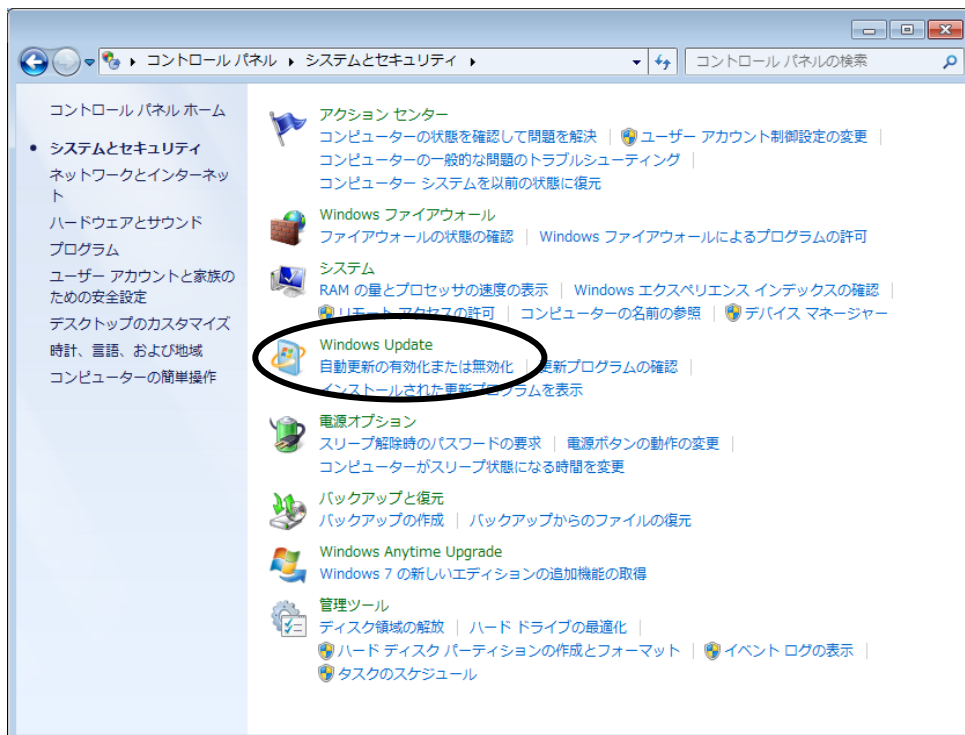
2. 1. 2 自動更新の設定

不具合修正モジュールの自動更新機能は、マイクロソフト社のWebサイトに不具合修正モジュールが公開された場合、それを自動でダウンロードおよびインストールする機能です。

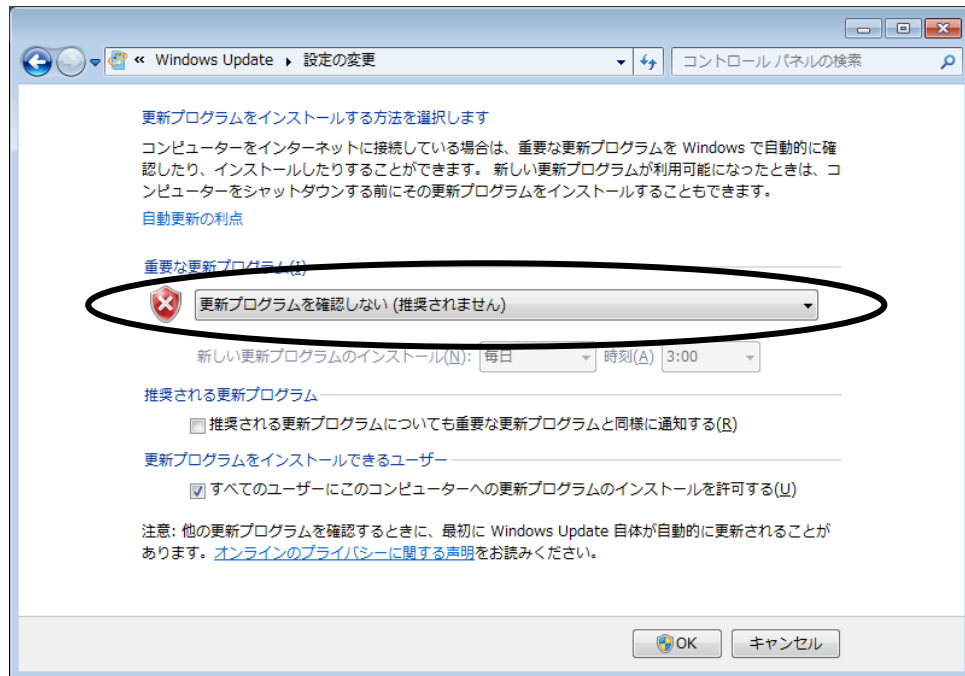
ただし、この機能が動作することによって実行中のプログラムに影響を与えることがあります。また、自動更新した修正モジュールが実行中のプログラムに影響を与える恐れもあります。したがって、この機能は“無効”にしてください。

以下に自動更新機能を無効にするための設定手順を示します。

- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- ③ [コントロールパネル] 画面が表示されますので、[システムとセキュリティ] をクリックします。
- ④ 続いてWindows Updateにある[自動更新の有効化または無効化] をクリックします。



- ⑤ 更新プログラムをインストールする方法を選択する画面が表示されますので、「更新プログラムを確認しない（推奨されません）」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。



- ⑥ [システムとセキュリティ] 画面の右上の [×] ボタンをクリックします。

2. 1. 3 ネットワーク環境の設定

ローカルエリアネットワークの設定は、デフォルトではDHCPを使用する設定（「IPアドレスを自動的に取得する」）になっています。DHCPを使用しないでIPアドレスを設定する場合には、以下の手順で設定してください。

なお、ここで説明するのはインターネットプロトコルバージョン4（TCP/IPv4）を使用する場合の手順です。インターネットプロトコルバージョン6（TCP/IPv6）を使用する場合は、手順⑧で「インターネットプロトコルバージョン6（TCP/IPv6）」を選択して設定してください。

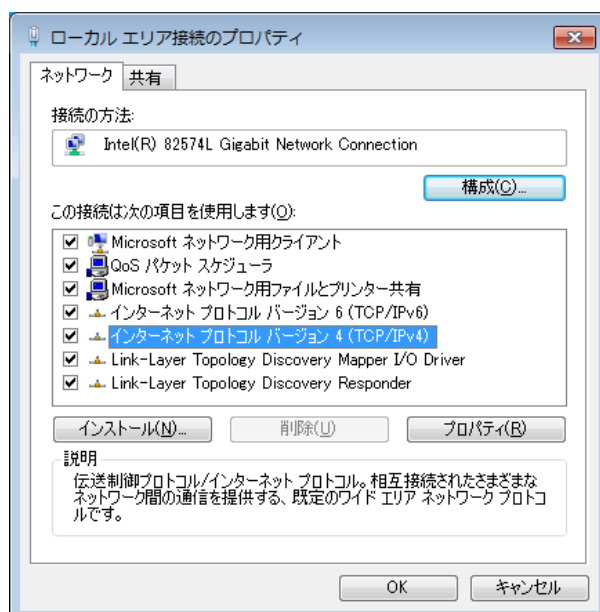
- ① コンピュータの管理者でログオンしていない場合には、コンピュータの管理者でログオンします。
- ② **【スタート】ボタン**をクリックし、**【コントロールパネル】**をクリックします。
- ③ ネットワークとインターネットにある**【ネットワークの状態とタスクの表示】**をクリックします。
- ④ ネットワークと共有センターが表示されますので、左の項目から**【アダプターの設定の変更】**をクリックします。
- ⑤ **【ネットワーク接続】画面**が表示されます。
- ⑥ **【ローカルエリア接続】アイコン**をダブルクリックします。
- ⑦ **【ユーザーアカウント制御】画面**が表示される場合は、**【はい】ボタン**をクリックします。

留意事項

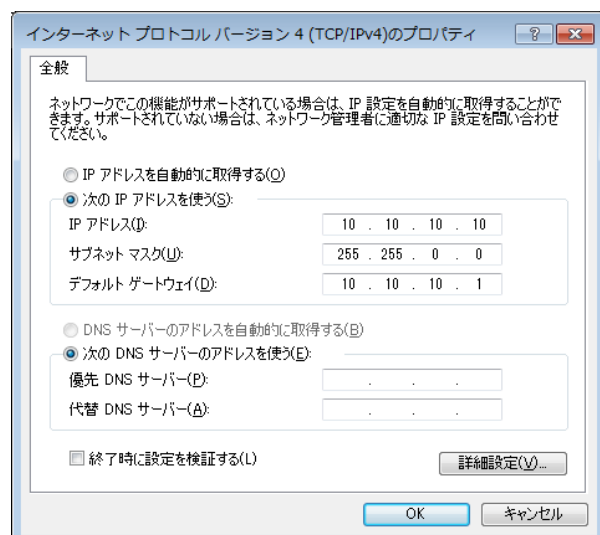
【ローカルエリア接続】アイコンが複数ある場合には、以下の手順でアイコンとイーサアダプタのポートを対応付けてください。

- ・ **【ローカルエリア接続】アイコン**を右クリックしてポップアップメニューを表示し、**【プロパティ】**をクリックします。
 - ・ **【構成】ボタン**をクリックし、表示された画面の**【リンク速度】タブ**をクリックします。
 - ・ **【アダプターの識別】ボタン**をクリックし、**【アダプターの識別】画面**の**【開始】ボタン**をクリックします。
 - ・ 選択した**【ローカルエリア接続】アイコン**に対応したイーサアダプタのポートのLEDが点滅します。
-

- ⑧ [ローカルエリア接続のプロパティ] 画面が表示されます。
- ・「インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)」を選択して、[プロパティ] ボタンをクリックします。



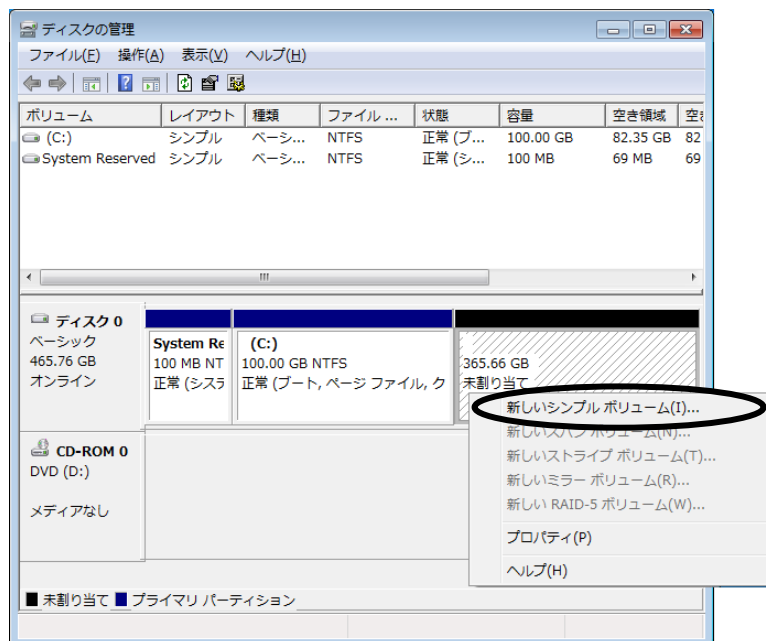
- ⑨ [インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4) のプロパティ] 画面が表示されます。
- ・「次のIPアドレスを使う」を選択して、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。
 - ・[OK] ボタンをクリックします。



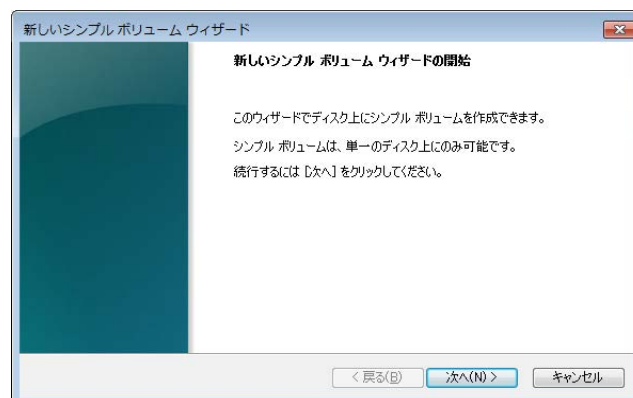
- ⑩ 開いている画面を閉じます。
- ・[ローカルエリア接続のプロパティ] 画面の[閉じる] ボタンをクリックします。
 - ・[ネットワーク接続] 画面右上の[×] ボタンをクリックします。

2. 1. 4 ハードディスクの空き領域のフォーマット

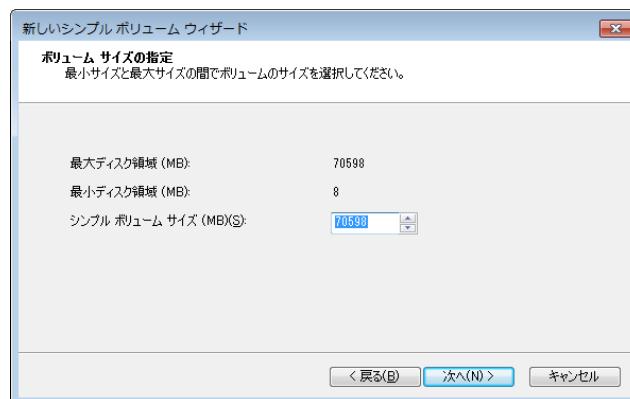
- ① コンピュータの管理者でログオンしていない場合には、コンピュータの管理者でログオンします。
- ② [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- ③ [システムとセキュリティ] をクリックし、管理ツールの [ハードディスク パーティションの作成とフォーマット] をクリックします。
- ④ [ユーザーアカウント制御] 画面が表示される場合は、[はい] ボタンをクリックします。
- ⑤ [ディスクの管理] 画面が表示されますので、「未割り当て」と表示されている部分でマウスを右クリックし、表示されたメニューから [新しいシンプルボリューム] をクリックします。



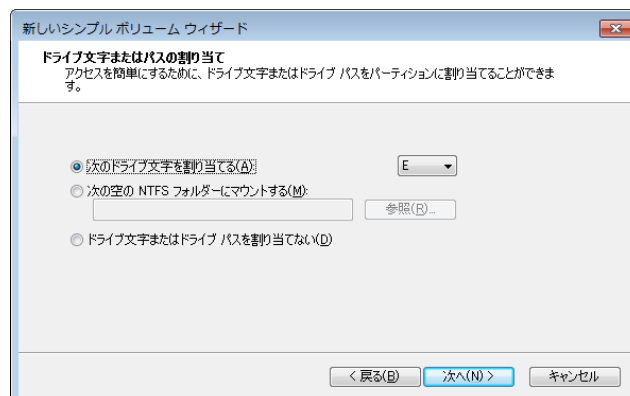
- ⑥ 新しいシンプルボリュームウィザードが起動されますので [次へ] ボタンをクリックします。



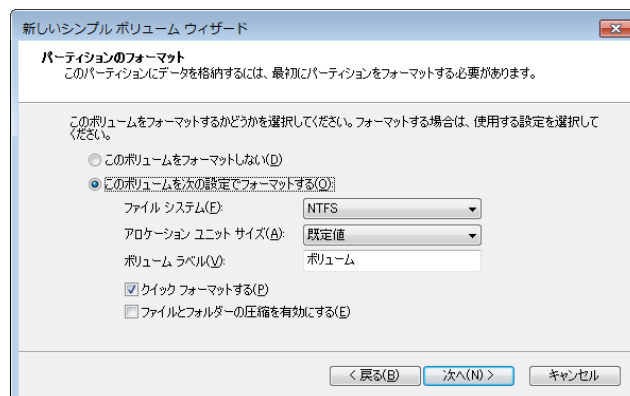
- ⑦ ボリュームのサイズを指定する画面が表示されますので、任意のボリュームサイズをMB単位で指定して【次へ】ボタンをクリックします。



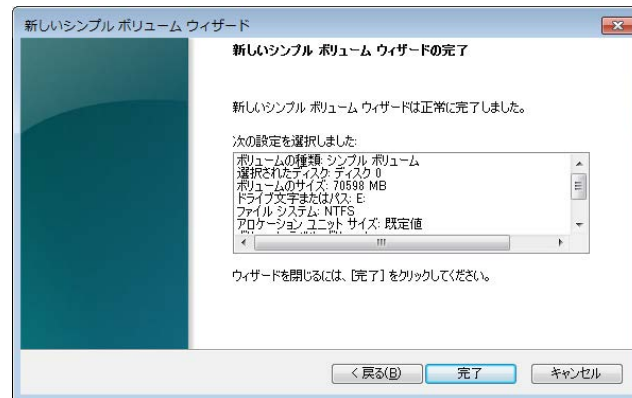
- ⑧ ドライブ文字またはパスの割り当てをする画面が表示されますので、「次のドライブ文字を割り当てる」を選択してドライブ文字を割り当て（変更する必要がない場合は、デフォルトのままで可）【次へ】ボタンをクリックします。



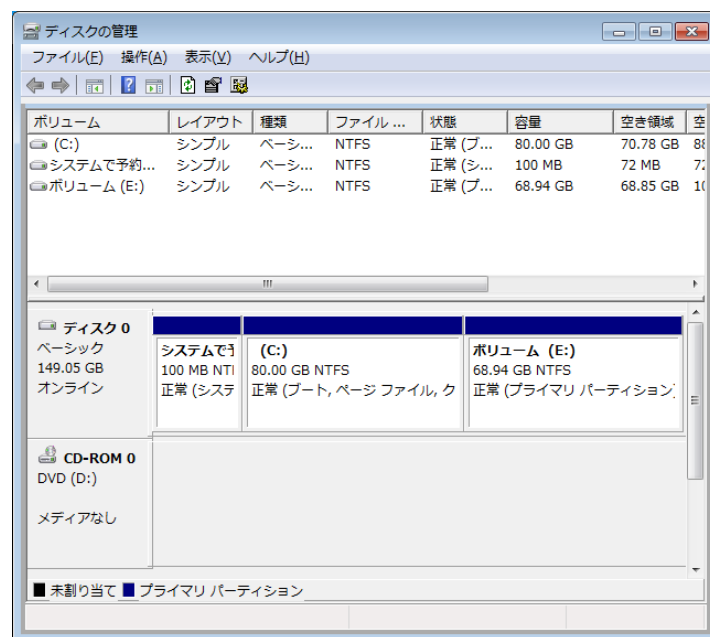
- ⑨ パーティションのフォーマットを設定する画面が表示されますので、「このボリュームを次の設定でフォーマットする」を選択し、「ファイルシステム」を「NTFS」として【次へ】ボタンをクリックします。



- ⑩ 「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」画面が表示されますので「完了」ボタンをクリックします。
- ・ディスクのフォーマットが始まります。



- ⑪ パーティションのフォーマットが完了すると作成したパーティションに「正常」と表示されます。



- ⑫ 「ディスクの管理」画面右上の「×」ボタンをクリックし、画面を閉じます。
- ・「自動再生」画面が表示された場合は、画面右上の「×」ボタンをクリックし、画面を閉じます。

2. 2 Windows Server® 2008 R2の基本設定

この節では、プレインストールされたWindows Server® 2008 R2 Standardの基本設定手順を示します。

この手順は、「第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順」を参照してOSのセットアップを実施した後に必要に応じて実施してください。

2. 2. 1 基本設定手順の概要

画面の設定	➡ 「HF-W7500モデル40 取扱説明書（マニュアル番号WIN-2-0065）」の「3. 9 ビデオ表示画面の設定方法」を参照してください。
自動更新の設定	設定手順はWindows® 7の場合と同じです。 「2. 1. 2 自動更新の設定」を参照してください（画面イメージは異なります）。 ・所要時間は約5分です。
ネットワーク環境の設定	設定手順はWindows® 7の場合と同じです。 「2. 1. 3 ネットワーク環境の設定」を参照してください（画面イメージは異なります）。 ・所要時間は約10分です。
ハードディスクのフォーマット	設定手順はWindows® 7の場合と同じです。 「2. 1. 4 ハードディスクの空き領域のフォーマット」を参照してください（画面イメージは異なります）。 ・フォーマット時間は、フォーマットするパーティションサイズによって異なります。

2. 3 Windows Server® 2012 R2の基本設定

この節では、プレインストールされたWindows Server® 2012 R2 Standardの基本設定手順を示します。

この手順は、「第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順」を参照してOSのセットアップを実施した後に必要に応じて実施してください。

2. 3. 1 基本設定手順の概要

画面の設定	➡ 「HF-W7500モデル40 取扱説明書（マニュアル番号WIN-2-0065）」の「3. 9 ビデオ表示画面の設定方法」を参照してください。
自動更新の設定	設定手順はWindows® 7の場合と同じです。 「2. 1. 2 自動更新の設定」を参照してください（画面イメージは異なります）。 ・所要時間は約5分です。
ネットワーク環境の設定	設定手順はWindows® 7の場合と同じです。 「2. 1. 3 ネットワーク環境の設定」を参照してください（画面イメージは異なります）。 ・所要時間は約10分です。 ・「ローカルエリア接続」は「イーサネット」に読み替えてください。 ・Windows Server® 2012 R2の場合、[アダプターの識別] ボタンを使用することによる、アイコンとイーサアダプタのポートの対応付けはできません。ネットワークケーブルをイーサアダプタのポートに接続し、リンク状態にすることでアイコンと対応付けてください。
ハードディスクのフォーマット	設定手順はWindows® 7の場合と同じです。 「2. 1. 4 ハードディスクの空き領域のフォーマット」を参照してください（画面イメージは異なります）。 ・フォーマット時間は、フォーマットするパーティションサイズによって異なります。

このページは白紙です。

第3章 リカバリDVDによる出荷状態への復元

この章では、以下の手順について説明します。

- ・構築してあるシステムを破棄してシステムドライブを出荷時の状態へ復元する手順

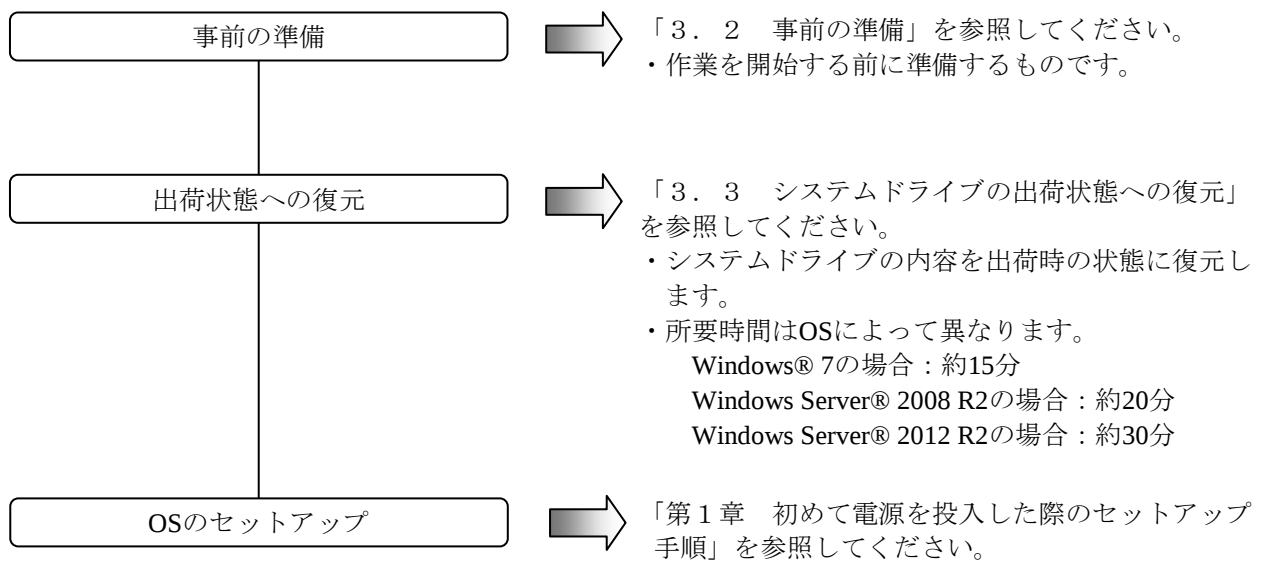
留意事項

この章の手順を行うには、リカバリDVDが必要となります。リカバリDVDは、リカバリDVD付きのHF-Wをご購入された場合に同梱されます。

3. 1 復元手順の概要

この節では、現在構築してあるシステムを破棄して出荷時の状態へ復元する手順の概要を説明します。リカバリDVDを使用してシステムドライブの内容を出荷時の状態に復元した後は、「第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順」に記載の手順に従ってOSのセットアップを実施してください。

以下に手順の概略フローを示します。



留意事項

以下の状態でリカバリDVDを使用して復元作業を行った場合、DVDドライブのドライブ文字が出荷時と異なることがあります。

- ・Aモデルの場合：ドライブベイ2やドライブベイ3にドライブが搭載された状態
- ・Dモデルの場合：ドライブベイ3にドライブが搭載された状態

このような場合、必要に応じてセットアップ終了後にドライブ文字の変更を行ってください。

通 知

リカバリDVDは、出荷時のハードウェア構成で作成したイメージファイルを保存したDVDです。そのため、ハードウェア構成が出荷時と異なる場合、復元作業を行ってもOSが正常に起動しない可能性があります。リカバリDVDを使用した復元は、外部記憶装置をすべて取り外し、出荷時のハードウェア構成で行ってください。

また、リカバリDVDを使用した場合にはシステムドライブのすべてのデータが消去されますので、必要に応じて事前にバックアップを行ってください。

3. 2 事前の準備

リカバリDVDによる出荷状態への復元作業を開始する前に、下記のリカバリDVDを準備してください。

HF-W専用リカバリ DVD	HITACHI <u>HJ-7540*****</u> Product Recovery DVD (下線部にはご購入頂いたHF-W7500モデル40の型式が記載されています。)
-------------------	---

3. 3 システムドライブの出荷状態への復元

3. 3. 1 出荷状態への復元手順

以下の手順に従い、リカバリDVDを使用してHF-W7500モデル40のシステムドライブを出荷時の状態に復元します。

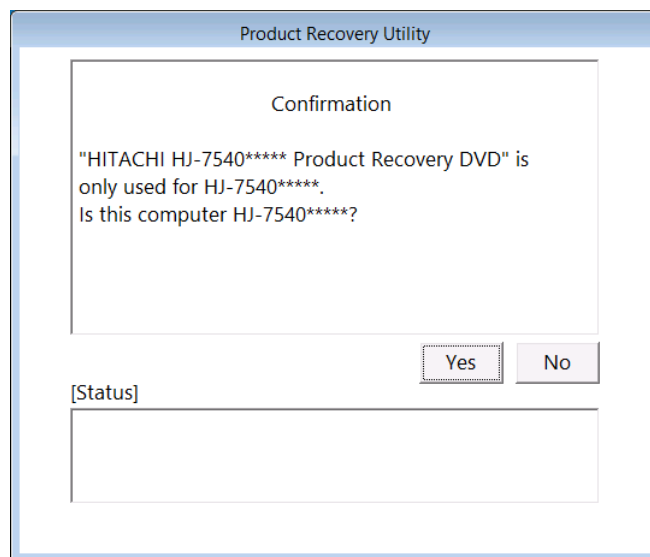
ここでは、リカバリDVDが2枚組の場合を例に復元手順を説明しています。

(注) リカバリDVDが3枚組の場合は、手順⑨と⑩を繰り返し実施してください。また、リカバリDVDはディスク番号：1/3、2/3、3/Eの順で使用してください。

- ① 装置の電源を入れ、リカバリDVD「HITACHI HJ-7540***** Product Recovery DVD」の1枚目（ディスク番号：1/2）をDVDドライブにセットします（下線部は、ご購入頂いたHF-W7500モデル40の型式が記載されるため、モデルごとに * の内容異なります。以降の手順において同様の記載がされている部分に関しては、ご購入のHF-W7500モデル40の型式に読み替えてください）。
- ② リカバリDVDから起動すると、以下の認証画面が表示されます。

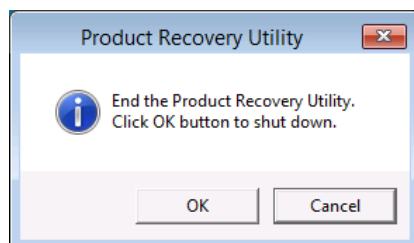
(注) リカバリDVDから起動できなかった場合は、装置の電源を切った後、再び電源を入れてください。

 - ・お使いの装置がHF-W7500モデル40である場合は、[Yes] ボタンをクリックしてください。
 - ・お使いの装置がHF-W7500モデル40でない場合は、[No] ボタンをクリックしてください。



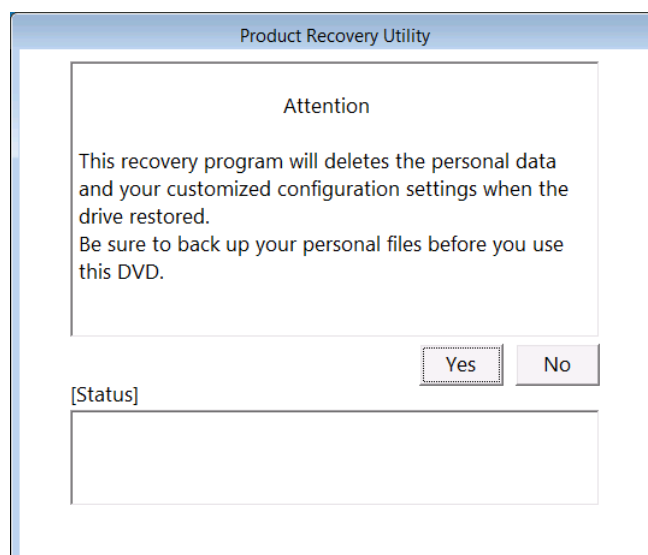
【No】 ボタンをクリックした場合は、以下のメッセージボックスが表示されますので、【OK】 ボタンをクリックしてください。リカバリDVDが自動で排出された後、装置がシャットダウンされます。

認証画面へ戻る場合は、【Cancel】 ボタンをクリックしてください。



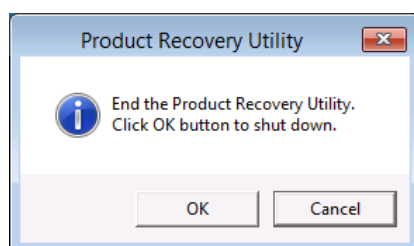
③ 認証画面で【Yes】 ボタンをクリックすると、留意内容の確認画面が表示されます。

- ・画面の表示内容に同意する場合は、【Yes】 ボタンをクリックしてください。
- ・画面の表示内容に同意しない場合は、【No】 ボタンをクリックしてください。



【No】 ボタンをクリックした場合は、以下のメッセージボックスが表示されますので、【OK】 ボタンをクリックしてください。リカバリDVDが自動で排出された後、装置がシャットダウンされます。

留意内容の確認画面へ戻る場合は、【Cancel】 ボタンをクリックしてください。



- ④ 留意内容の確認画面で **[Yes]** ボタンをクリックすると、ドライブ復元方法の選択画面が表示されます。

- ・出荷状態への復元を行う場合は、復元方法を選択して **[Next]** ボタンをクリックしてください。

[Entire drive] :

システムドライブを出荷状態へ復元する場合やドライブ交換後の新規ドライブに対して復元を行う場合に選択してください。

選択後、**[Next]** ボタンをクリックすると、手順⑤へ進みます。

[Only the system and boot partition] :

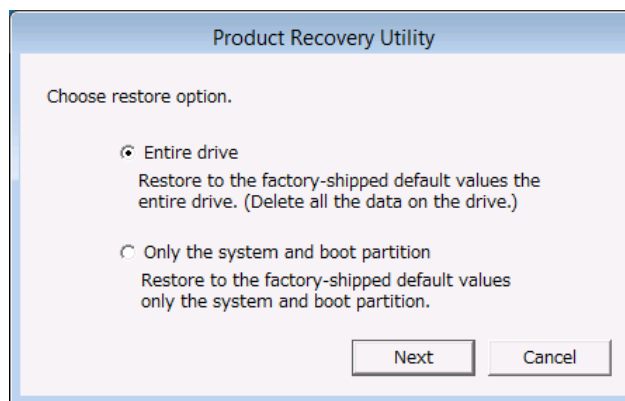
ブートパーティション（Windowsがインストールされているパーティション）以外にデータ格納用パーティションなどが存在し、それを残したままシステムドライブを出荷状態へ復元する場合に選択してください。ブートパーティションのみを対象として復元します。

選択後、**[Next]** ボタンをクリックすると、手順⑦へ進みます。

なお、以下の場合は選択できません。

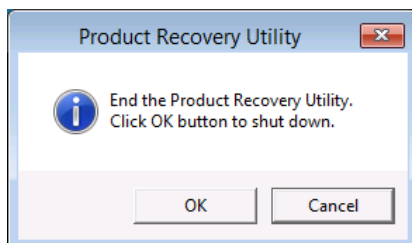
- ブートパーティションが存在しない場合
- ブートパーティションが複数ある場合
- ブートパーティションの容量がこの装置で規定する最小容量未満の場合
(HF-W7500モデル40の場合、最小容量は80GBです。)

- ・出荷状態への復元を中止する場合は、**[Cancel]** ボタンをクリックしてください。



【Cancel】 ボタンをクリックした場合は、以下のメッセージボックスが表示されますので、【OK】 ボタンをクリックしてください。リカバリDVDが自動で排出された後、装置がシャットダウンされます。

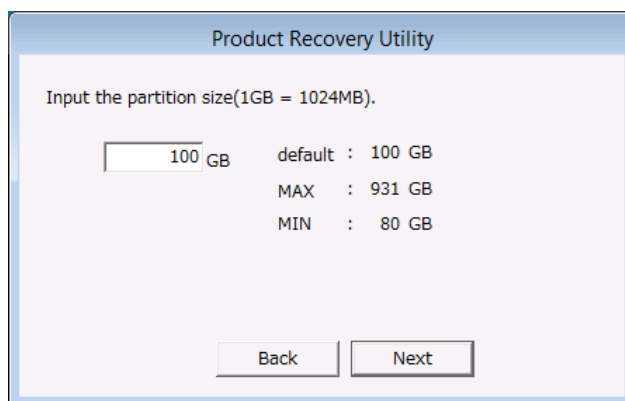
ドライブ復元方法の選択画面へ戻る場合は、【Cancel】 ボタンをクリックしてください。



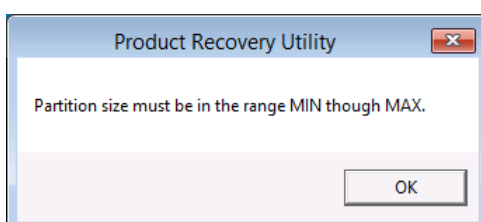
<ドライブ復元方法の選択画面で【Entire drive】を選択した場合>

- ⑤ ドライブ復元方法の選択画面で【Entire drive】を選択すると、パーティション容量の入力画面が表示されます。
- ・装置出荷時（default）および入力可能な範囲の最小値（MIN）と最大値（MAX）の容量が表示されますので、パーティション容量をGB単位（1GB=1,073,741,824バイト）で入力し、【Next】 ボタンをクリックしてください。
 - ・ドライブ復元方法の選択画面へ戻る場合は、【Back】 ボタンをクリックしてください。

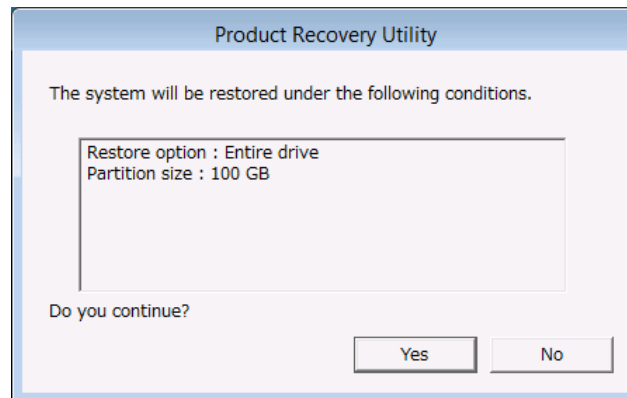
（注）メインメモリが32GBの場合は、装置出荷時（default）以上の容量を入力してください。装置出荷時（default）未満の容量を入力した場合、OSのセットアップにおいて、メモリダンプのための領域を確保できない場合があります。



【Next】 ボタンをクリックした際に、入力可能範囲外の数値が入力されていた場合は以下のメッセージボックスが表示されますので、【OK】 ボタンをクリックし、パーティション容量を再入力してください。

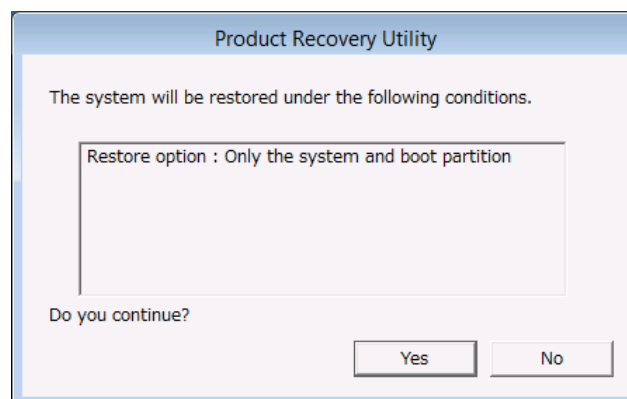


- ⑥ パーティション容量の入力画面で容量を入力して **[Next]** ボタンをクリックすると、ドライブ復元内容の確認画面が表示されます。
- ・表示されたパーティション容量で復元することに同意する場合は、**[Yes]** ボタンをクリックしてください。手順⑧へ進みます。
 - ・表示されたパーティション容量で復元することに同意しない場合は、**[No]** ボタンをクリックしてください。ドライブ復元方法の選択画面へ戻ります。

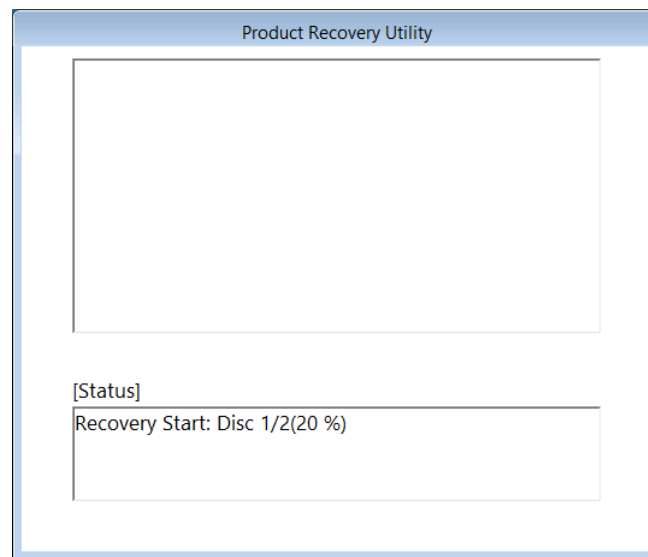


<ドライブ復元方法の選択画面で **[Only the system and boot partition]** を選択した場合>

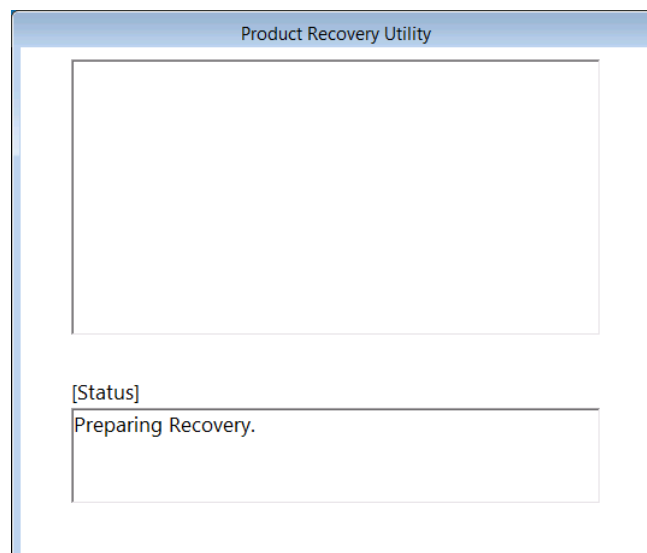
- ⑦ ドライブ復元方法の選択画面で **[Only the system and boot partition]** を選択すると、ドライブ復元内容の確認画面が表示されます。
- ・ブートパーティションのみを対象として復元することに同意する場合は、**[Yes]** ボタンをクリックしてください。手順⑧へ進みます。
 - ・ブートパーティションのみを対象として復元することに同意しない場合は、**[No]** ボタンをクリックしてください。ドライブ復元方法の選択画面へ戻ります。



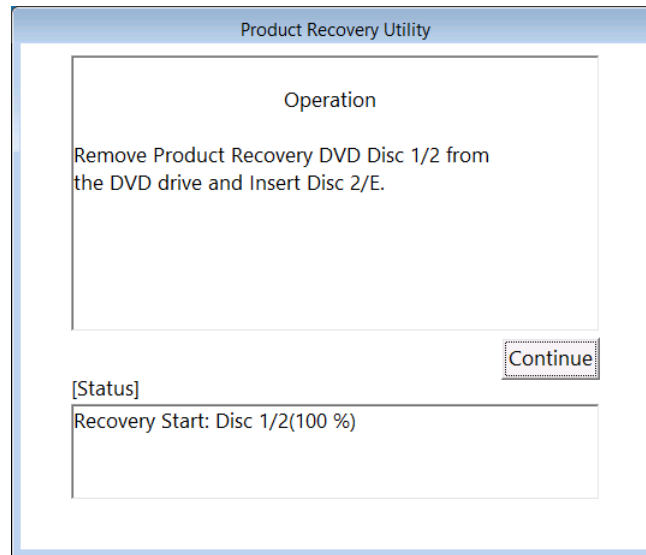
- ⑧ ドライブの復元内容の確認画面で **【Yes】 ボタン** をクリックすると、出荷状態への復元が開始され、**【Status】** 欄に進捗状況が表示されます。



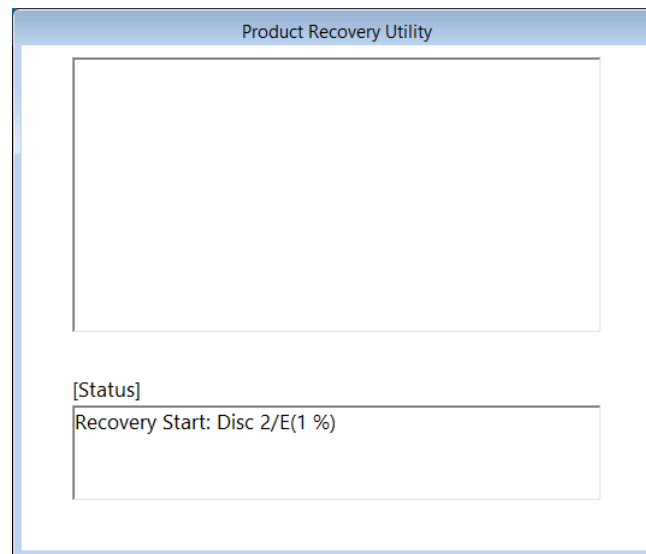
- (注) ドライブ復元方法の選択画面で **【Only the system and boot partition】** を選択した場合は、復元の前にブートパーティションのフォーマットが行われます。この処理には数分かかることがあります（所要時間はブートパーティションの容量によって異なります）。フォーマット中は **【Status】** 欄に “Preparing Recovery.” が表示されます。



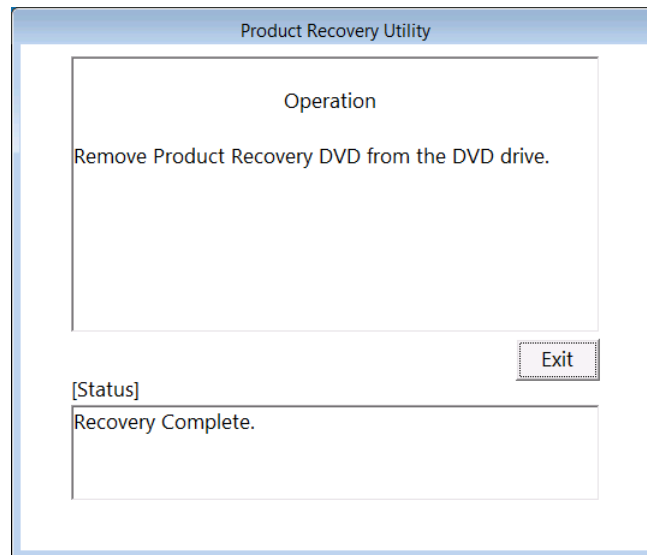
- ⑨ 1枚目のリカバリDVD（ディスク番号：1/2）による出荷状態への復元が完了すると、以下のメッセージが表示され、リカバリDVDが自動で排出されます。DVDドライブからリカバリDVDを取り出し、次のリカバリDVD（ディスク番号：2/E）をセットします。



- ⑩ [Continue] ボタンをクリックすると出荷状態への復元が再開され、[Status] 欄に進捗状況が表示されます。



- ⑪ リカバリDVDによる出荷状態への復元が完了すると、[Status] 欄に “Recovery Complete.” が表示され、リカバリDVDが自動で排出されます。DVDドライブからリカバリDVDを取り出して [Exit] ボタンをクリックしてください。装置がシャットダウンされます。



リカバリDVDによって、HF-W7500モデル40のシステムドライブは出荷時の状態に復元されました。

これ以降は「第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順」に記載の手順に従い、OSのセットアップを実施してください。

3. 3. 2 復元操作時のエラーと対処方法

復元操作時にエラーが発生した場合は、表示されたエラーメッセージおよびエラーコードを記録したうえで、下表に示す内容に従い対処してください。なお、対処の内容を実施しても正常に動作しない場合やNo.8のエラーメッセージが表示された場合は、弊社担当営業に連絡してください。

No.	エラーメッセージ	対処
1	Retry time out. Please refer to the SETUP GUIDE.	システムドライブの健全性を確認してください。（リード／ライトテストなど）
2	Image file is not found. Please refer to the SETUP GUIDE.	- 復元操作を再度実施してください。 - リカバリDVDの健全性を確認してください。（リードテストなど） - DVDドライブの健全性を確認してください。（リードテストなど）
3	Drive failed or not connected. Please refer to the SETUP GUIDE.	システムドライブが正しく接続されていることを確認してください。
4	Failed to access the drive. Please refer to the SETUP GUIDE.	システムドライブの健全性を確認してください。（リード／ライトテストなど）
5	Failed to assign drive letter. Please refer to the SETUP GUIDE.	不要なデバイスを接続していないか確認し、接続している場合は取り外してください。
6	Failed to read from Product Recovery DVD. Please refer to the SETUP GUIDE.	- DVDドライブが正しく接続されていることを確認してください。 - リカバリDVDの健全性を確認してください。（リードテストなど） - DVDドライブの健全性を確認してください。（リードテストなど）
7	Recovery failed. Please refer to the SETUP GUIDE.	復元操作を再度実施してください。
8	Recovery invalid. Please refer to the SETUP GUIDE.	弊社担当営業に連絡してください。
9	Drive capacity is not enough. Please refer to the SETUP GUIDE.	システムドライブの容量を確認してください。

このページは白紙です。

第4章 特記事項

4. 1 セットアップ中のイベントログ記録について

この装置では、OSのセットアップ中に以下のイベントログが記録されることがありますが、システムの動作に影響はありません。

● Windows® 7の場合

ソース	イベントID	種類
Service Control Manager	7022 または 7023	エラー
Search	1008	警告
e1qexpress または e1rexpress	27	警告

● Windows Server® 2008 R2の場合

ソース	イベントID	種類
Service Control Manager	7023	エラー
Winlogon	6004	警告
e1qexpress または e1rexpress	27	警告

● Windows Server® 2012 R2の場合

ソース	イベントID	種類
Service Control Manager	7023	エラー
volmgr	46	エラー
eliexpress	27	警告
Windows Remote Management	10149	警告
Security-SPP	1058	警告

4. 2 OS動作中のイベントログ記録について

この装置では、OSの動作中に以下のイベントログが記録されることがありますが、システムの動作に影響はありません。

● Windows® 7の場合

ソース	イベントID	種類
WMI	10	エラー
User Profiles Service	1530	警告
Search	3036	警告
Time-Service	134 または 36	警告
e1qexpress または e1rexpress	27	警告

● Windows Server® 2008 R2の場合

ソース	イベントID	種類
WMI	10	エラー
User Profiles Service	1530	警告
Time-Service	134 または 36	警告
e1qexpress または e1rexpress	27	警告

● Windows Server® 2012 R2の場合

ソース	イベントID	種類
DistributedCOM	10010	エラー
WMI	63	警告
Time-Service	134	警告
Kernel-PnP	219	警告
winlogon	6004	警告
e1iexpress	27	警告

また、USB機器の接続または切り離しを行ったとき、またはストレージデバイスを増設したときの初回起動時に、USB機器やストレージデバイスに問題がないにも関わらず以下のイベントログが記録されることがあります。これについても、OSの仕様によって記録されるものであり、システムの動作に影響はありません。

ソース	イベントID	種類
Disk	11 または 153	エラー

4. 3 コマンドプロンプト多用に伴う描画異常について

Windows® 7やWindows Server® 2008 R2では、OSを再起動することなくコマンドプロンプトを数百回起動すると、デスクトップ画面の描画が正常に行えなくなる現象が発生します。これは、コマンドプロンプトを起動するたびにエクスプローラ（プロセス名：explorer.exe）が描画リソースを消費するためです。

コマンドプロンプトを頻繁に起動する場合（バッチファイルを繰り返し実行する場合など）は、定期的にOSを再起動するようにしてください。万が一、この現象が発生した場合は、OSを再起動してください。

4. 4 既定でスケジューリングされる機能について

Windows®では、様々な機能が既定でスケジューリングされており、定期的にバックグラウンドで実行されます。これらの機能の中で、Windows Defender（スパイウェア対策機能）やディスクデフラグ（またはドライブの最適化）は、動作するとシステムに負荷が掛かり、業務を行うアプリケーションの動作に影響を与える可能性があります。

（1）Windows Defender（スパイウェア対策機能）（Windows® 7のみ）

必要に応じて、業務を行うアプリケーションの稼働スケジュールと重ならないようにスケジュール時刻を変更することを推奨します。

なお、スケジュールの初期設定は以下のとおりです。

- ・ 頻度：毎日
- ・ おおよその時刻：2:00

（2）ディスクデフラグツール（Windows® 7、Windows Server® 2008 R2の場合）

この装置では、ディスクデフラグツールのスケジュールを無効としています。ディスクデフラグツールを使用してディスクの最適化を行いたい場合は、以下の方法で実施することができます。

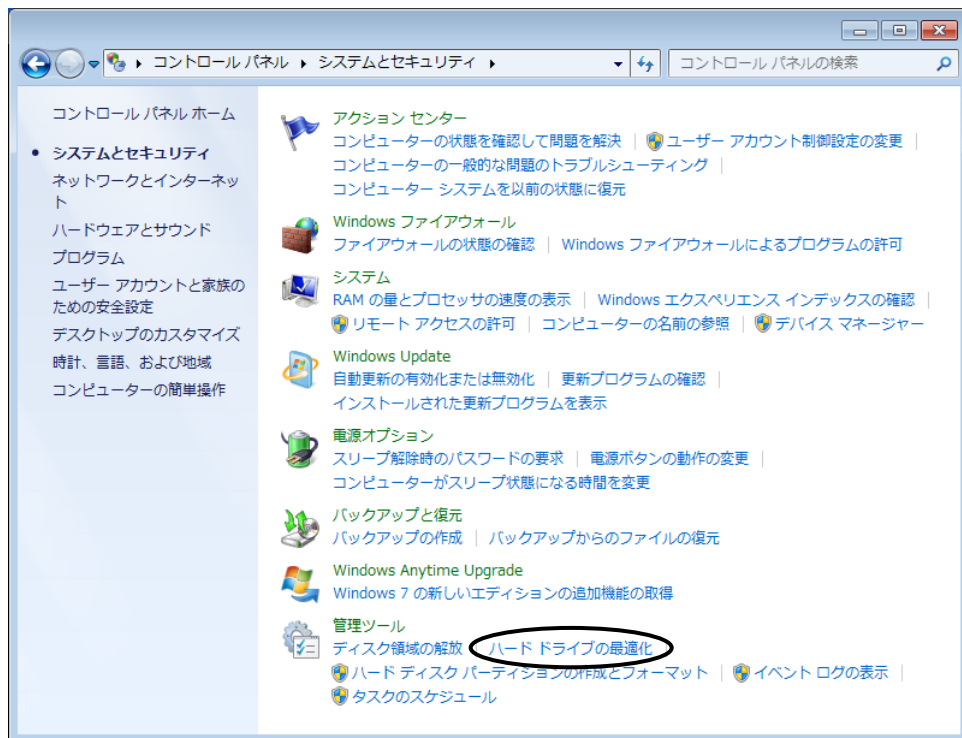
- （a）ディスクデフラグツールのスケジュールを有効にする
- （b）ディスクデフラグツールを手動で実行する

以下に、各手順を示します（画面イメージはWindows® 7ですが、Windows Server® 2008 R2も同様です）。ドライブの最適化（Windows Server® 2012 R2の場合）については、（3）を参照してください。

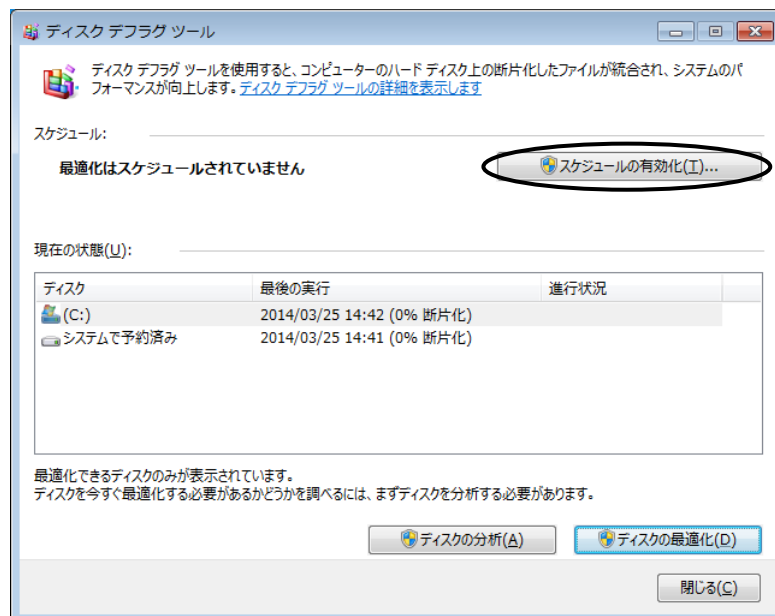
（a）ディスクデフラグツールのスケジュールを有効にする

- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② **【スタート】** ボタンをクリックし、**【コントロールパネル】** をクリックします。
- ③ **【コントロールパネル】** 画面が表示されますので、**【システムとセキュリティ】** をクリックします。

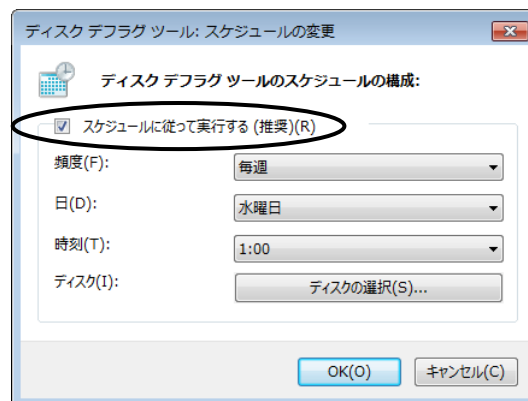
- ④ 続いて管理ツールにある「ハード ドライブの最適化」をクリックします。



- ⑤ 「ディスクデフラグ ツール」画面が表示されます。
- ・ 「スケジュール」にある「スケジュールの有効化(I)...」ボタンをクリックします。



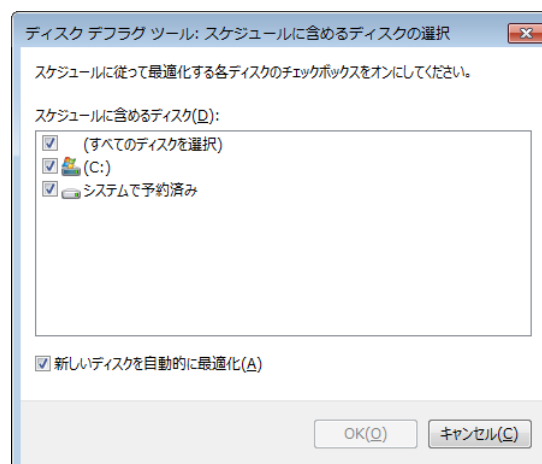
- ⑥ [ディスクデフラグツール：スケジュールの変更] 画面が表示されますので、「スケジュールに従って実行する（推奨）」チェックボックスをオンにします。



- ⑦ 必要に応じてデフラグを実行する頻度、日、時刻を設定します。業務を行うアプリケーションの稼動スケジュールと重ならないようにスケジュール時刻に設定することを推奨します。なお、スケジュールの初期設定は以下のとおりです。

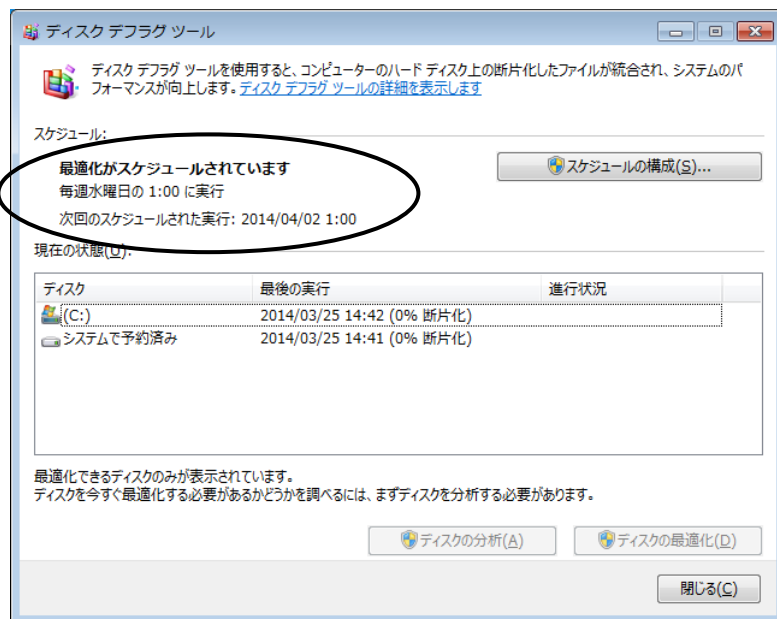
- ・ 頻度：毎週
- ・ 日：水曜日
- ・ 時刻：1:00

- ⑧ [ディスクの選択] ボタンをクリックします。
- ⑨ [ディスクデフラグツール：スケジュールに含めるディスクの選択] 画面が表示されますので、必要に応じて最適化を行うドライブを選択します。
- ・ [OK] ボタンをクリックします。



- ⑩ [ディスクデフラグツール：スケジュールの変更] 画面が表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。

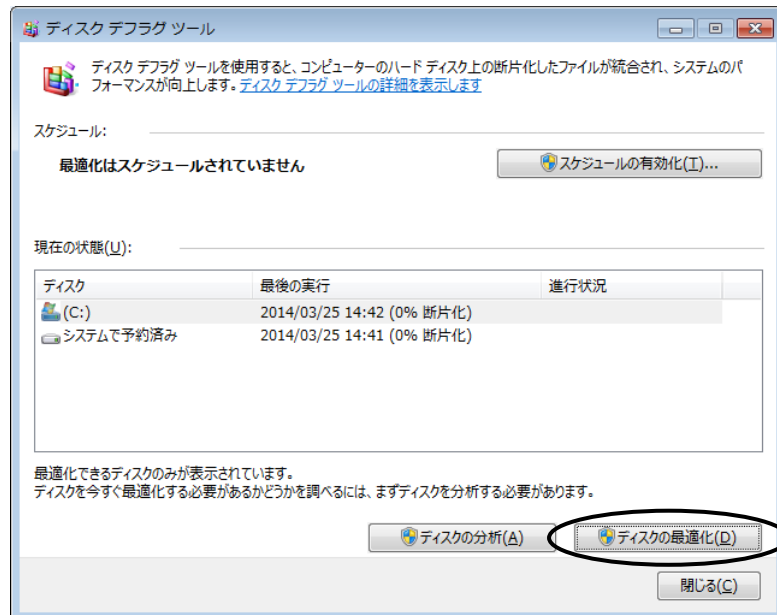
- ⑪ 設定したスケジュールが【スケジュール】欄に表示されますので、内容を確認してから【閉じる】ボタンをクリックして画面を閉じます。



(b) ディスクデフラグを手動で実行する

- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② 【スタート】ボタンをクリックし、【コントロールパネル】をクリックします。
- ③ 【コントロールパネル】画面が表示されますので、【システムとセキュリティ】をクリックします。
- ④ 続いて管理ツールにある【ハード ドライブの最適化】をクリックします。

- ⑤ [ディスクデフラグ ツール] 画面が表示されます。
- ・ [現在の状態] から最適化を行うドライブを選択し、[ディスクの最適化] ボタンをクリックします。



- ・ 最適化が終了すると、[最後の実行] に最適化を実行した日時が表示されます。
- ⑥ [閉じる] ボタンをクリックして画面を閉じます。

(3) ドライブの最適化 (Windows Server® 2012 R2の場合)

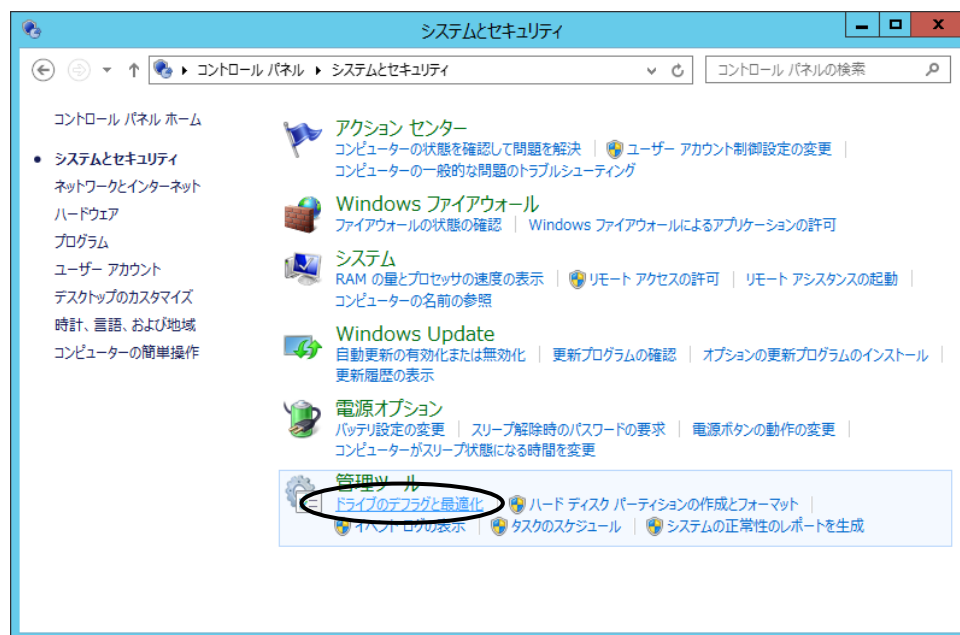
この装置ではドライブの最適化のスケジュールを無効としています。ドライブの最適化を行いたい場合は、以下の方法で実施することができます。

- (a) ドライブの最適化のスケジュールを有効にする
- (b) ドライブの最適化を手動で実行する

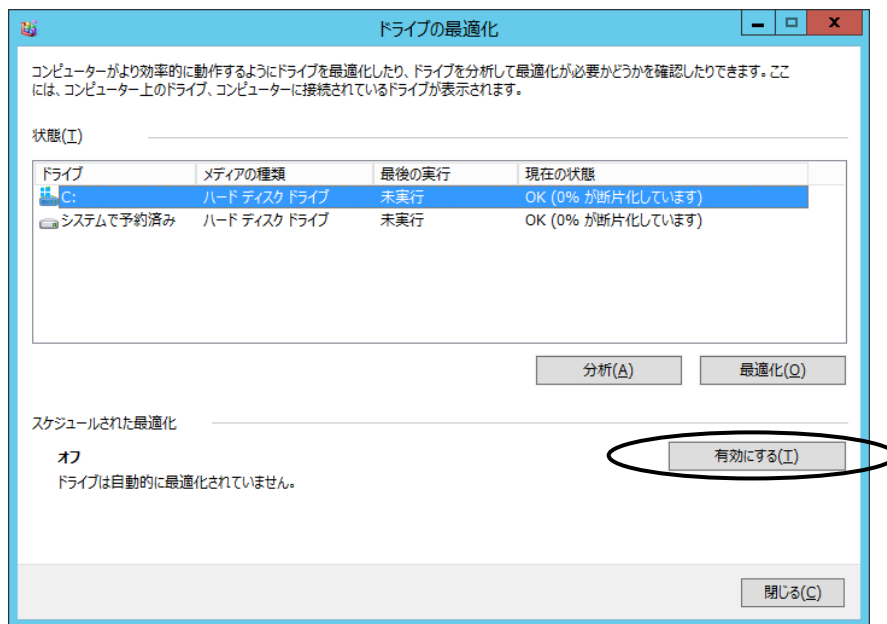
以下に、各手順を示します。

(a) ディスクデフラグツールのスケジュールを有効にする

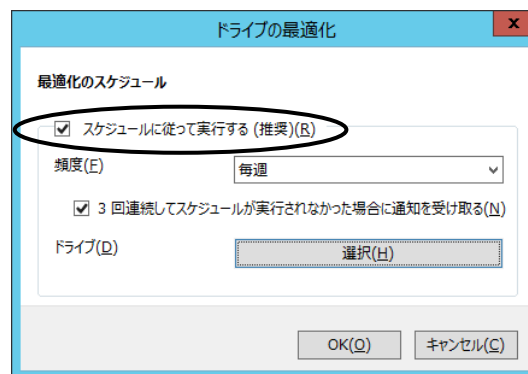
- ① コンピュータの管理者アカウントでサインインしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでサインインします。
- ② **【スタート】ボタン**を右クリックし、表示されるメニューから**【コントロールパネル】**をクリックします。
- ③ **【コントロールパネル】**画面が表示されますので、**【システムとセキュリティ】**をクリックします。
- ④ 続いて管理ツールにある**【ドライブのデフラグと最適化】**をクリックします。



- ⑤ 「[ドライブの最適化]」画面が表示されます。
- ・ 「[スケジュールされた最適化]」にある「有効にする」ボタンをクリックします。



- ⑥ 「[最適化のスケジュール]」画面が表示されますので、「スケジュールに従って実行する（推奨）」チェックボックスをオンにします。

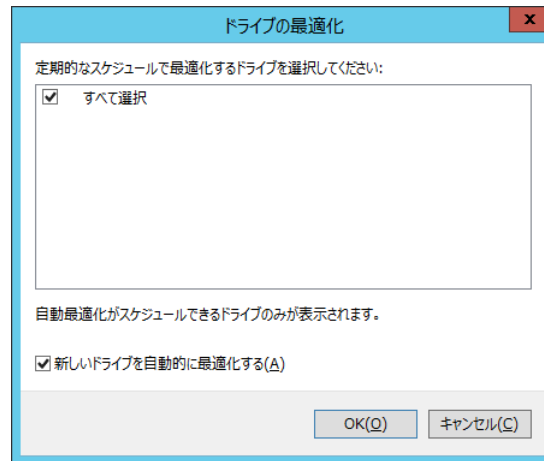


- ⑦ 必要に応じてドライブの最適化を実行する頻度を設定します。なお、スケジュールの初期設定は以下のとおりです。

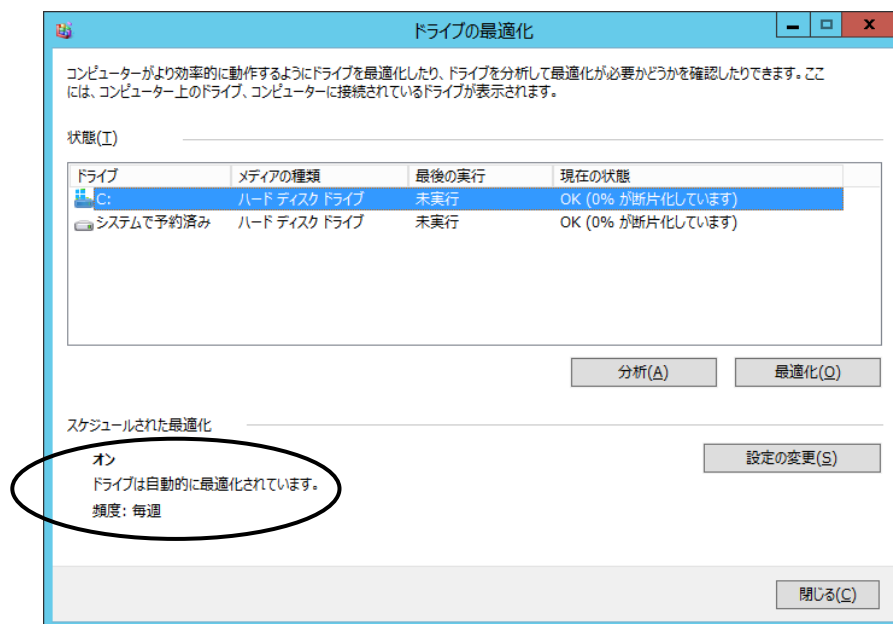
- ・ 頻度：毎週

- ⑧ 「[選択]」ボタンをクリックします。

- ⑨ [定期的なスケジュールで最適化するドライブを選択してください] 画面が表示されますので、必要に応じて最適化を行うドライブを選択します。
- ・ [OK] ボタンをクリックします。

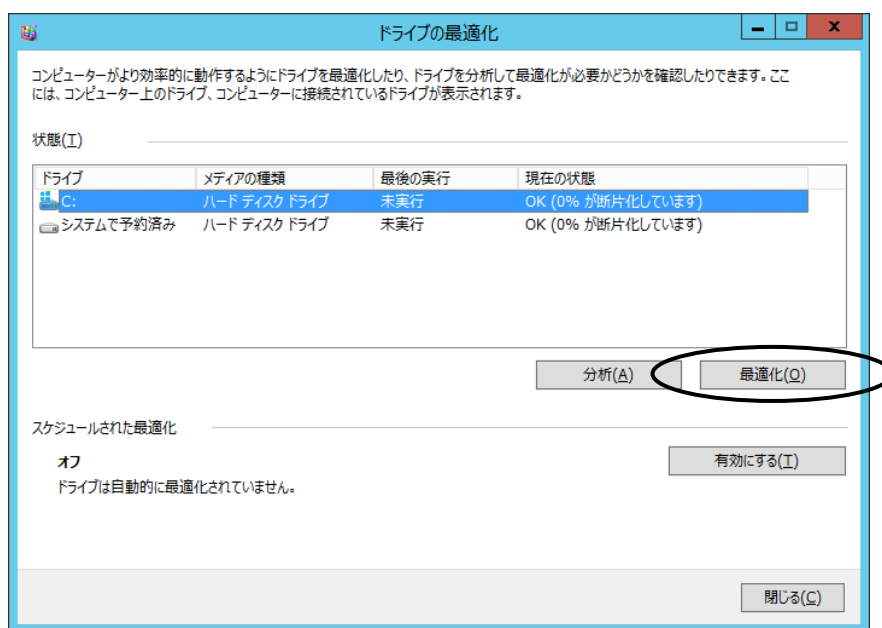


- ⑩ [最適化のスケジュール] 画面が表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。
- ⑪ 設定したスケジュールが [スケジュールされた最適化] に表示されますので、内容を確認してから [閉じる] ボタンをクリックして画面を閉じます。



(b) ドライブの最適化を手動で実行する

- ① コンピュータの管理者アカウントでサインインしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでサインインします。
- ② **「スタート」ボタン**を右クリックし、表示されるメニューから**「コントロールパネル」**をクリックします。
- ③ **「コントロールパネル」**画面が表示されますので、**「システムとセキュリティ」**をクリックします。
- ④ 続いて管理ツールにある**「ドライブのデフラグと最適化」**をクリックします。
- ⑤ **「ドライブの最適化」**画面が表示されます。
 - ・ **「状態」** から最適化を行うドライブを選択し、**「最適化」** ボタンをクリックします。



- ・ 最適化が終了すると、**「最後の実行」** に最適化を実行した日時が表示されます。

- ⑥ **「閉じる」** ボタンをクリックして画面を閉じます。

4.5 セキュリティ強化機能について

(1) Windows ファイアウォールによるブロックの解除

Windows ファイアウォールは既定で有効になっています。これによって、ネットワークを使用するプログラムのネットワーク接続がブロックされ、プログラムが動作しない場合があります。この場合、以下の3つの方法でWindows ファイアウォールによるブロックを解除することができます。

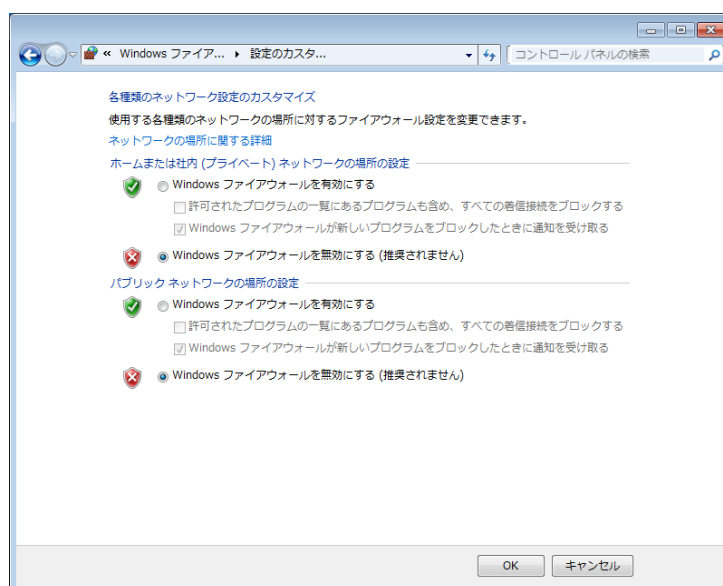
- (a) Windows ファイアウォールを無効にする
- (b) 対象のプログラムを例外として登録する
- (c) 使用するポートを例外として登録する

以下に、各設定手順を示します（画面イメージはWindows® 7ですが、Windows Server® 2008 R2、Windows Server® 2012 R2も同様です）。

(a) Windows ファイアウォールを無効にする

以下の手順を実施することで、Windows ファイアウォールが無効になります。これによって、すべてのプログラムのネットワーク接続がブロックされなくなります。

- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- ③ [コントロールパネル] 画面から[システムとセキュリティ] をクリックします。
- ④ [システムとセキュリティ] 画面が表示されます。
 - ・ [Windows ファイアウォール] をクリックします。
- ⑤ [Windows ファイアウォール] 画面が表示されます。
 - ・ [Windows ファイアウォールの有効化または無効化] をクリックします。
- ⑥ [設定のカスタマイズ] 画面が表示されます。
 - ・ 「Windows ファイアウォールを無効にする（推奨されません）」チェックボックスをオンにします。
 - ・ [OK] ボタンをクリックします。



- ⑦ [Windows ファイアウォール] 画面を閉じます。

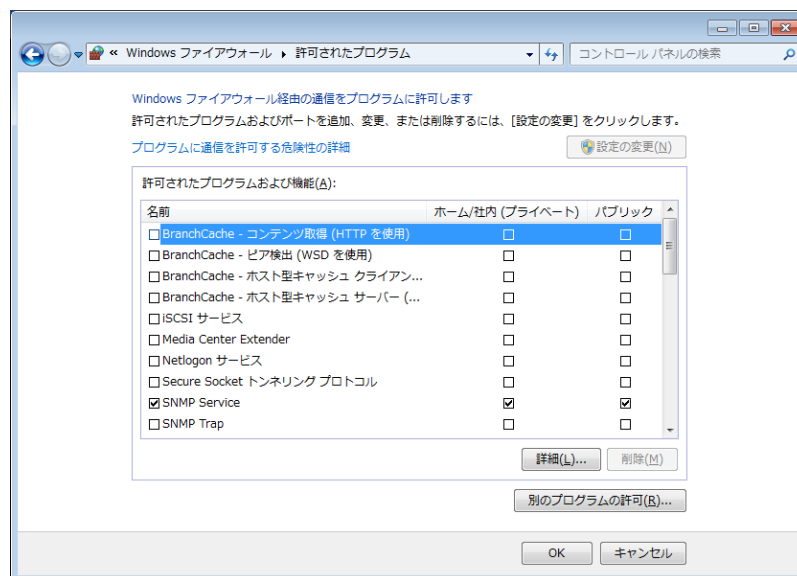
(b) 対象のプログラムを例外として登録する

以下の手順で対象のプログラムをWindows ファイアウォールの例外として登録することができます。例外として登録されたプログラムはネットワーク接続をブロックされなくなります。

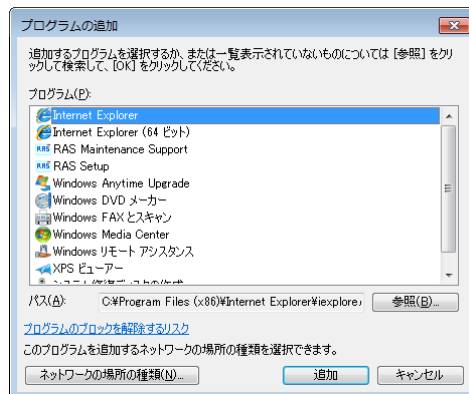
(Windows Server® 2012 R2の場合、「プログラム」の表記を「アプリ」に読み替えてください。)

- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- ③ [コントロールパネル] 画面から[システムとセキュリティ] をクリックします。
- ④ [システムとセキュリティ] 画面が表示されます。
 - ・ [Windows ファイアウォール] をクリックします。
- ⑤ [Windows ファイアウォール] 画面が表示されます。
 - ・ [Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する] をクリックします。
- ⑥ [許可されたプログラム] 画面が表示されます。
 - ・ [別のプログラムの許可] ボタンをクリックします。

※ [別のプログラムの許可] ボタンがクリックできない場合は、[設定の変更] ボタンをクリックしてください。[別のプログラムの許可] ボタンがクリックできるようになります。

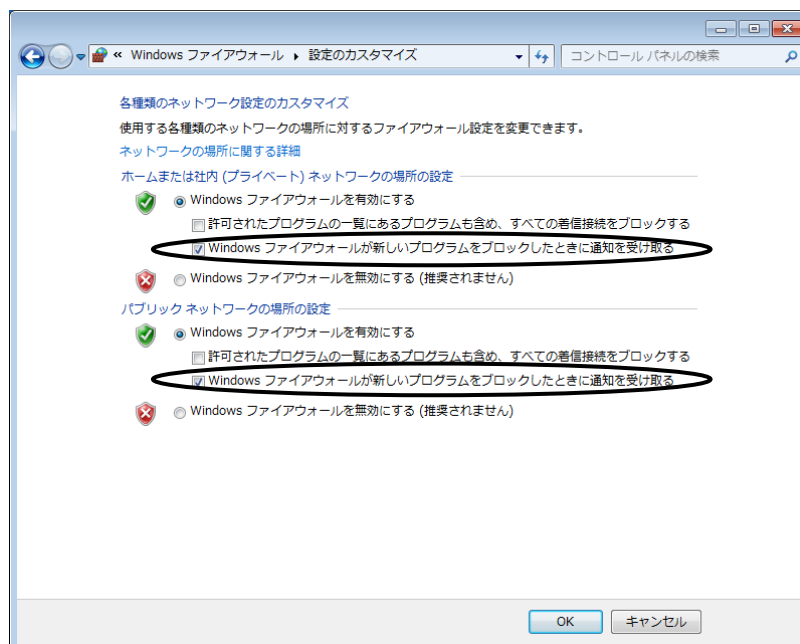


- ⑦ [プログラムの追加] 画面が表示されます。
- ・ブロックを解除したいプログラムを選択します。一覧に表示されていないプログラムは [参照] ボタンをクリックしてファイルを選択します。
 - ・ [追加] ボタンをクリックします。



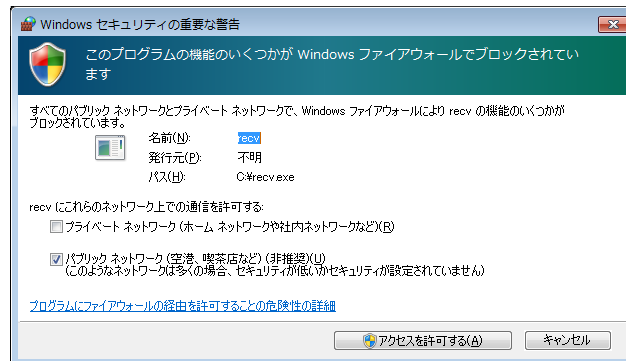
- ⑧ [許可されたプログラム] 画面の [許可されたプログラムおよび機能] に選択したプログラムが登録されたことを確認して、[OK] ボタンをクリックします。
- ⑨ [Windows ファイアウォール] 画面を閉じます。

また、Windows ファイアウォールの設定において [Windows ファイアウォールが新しいプログラムをブロックしたときに通知を受け取る] の設定が有効な場合、プログラムの着信接続時にダイアログボックスが表示され、例外に登録することができます。



- ① 起動したプログラムの着信接続がブロックされると [Windows セキュリティの重要な警告] 画面が表示されます。

・ [アクセスを許可する] ボタンをクリックします。



- ② このプログラムが例外として登録されます。

(c) 使用するポートを例外として登録する

以下の手順で使用するポートを例外として登録することができます。例外として登録したポートによるネットワーク接続はブロックされなくなります。

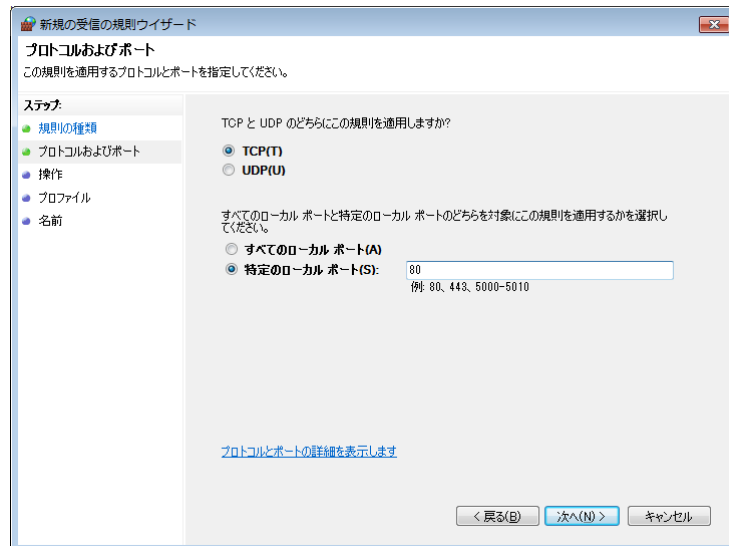
- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- ③ [コントロールパネル] 画面から[システムとセキュリティ] をクリックします。
- ④ [システムとセキュリティ] 画面が表示されます。
 - ・ [Windows ファイアウォール] をクリックします。
- ⑤ [Windows ファイアウォール] 画面が表示されます。
 - ・ [詳細設定] をクリックします。
- ⑥ [セキュリティが強化された Windows ファイアウォール] 画面が表示されます。
 - ・ [受信の規則] または [送信の規則] をクリックします。
 - ・ [操作] 枠内の [新しい規則] をクリックします。

※登録するポートの用途によって [受信の規則] または [送信の規則] を選択してください。以降に [受信の規則] を選択した場合の手順を示します。

- ⑦ [新規の受信の規則ウィザード] の [規則の種類] 画面が表示されます。
 - ・ [ポート] を選択して [次へ] ボタンをクリックします。



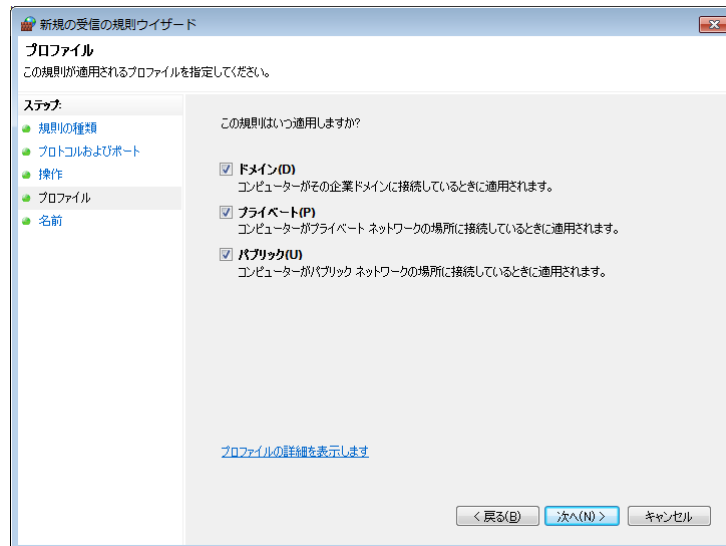
- ⑧ 「新規の受信の規則ウィザード」の「プロトコルおよびポート」画面が表示されます。
- ・プロトコルの種類を選択します。
 - ・「すべてのローカルポート」または「特定のローカルポート」のどちらかを選択します。
 - ・「特定のローカルポート」を選択した場合、ポート番号を入力します。
 - ・「次へ」ボタンをクリックします。



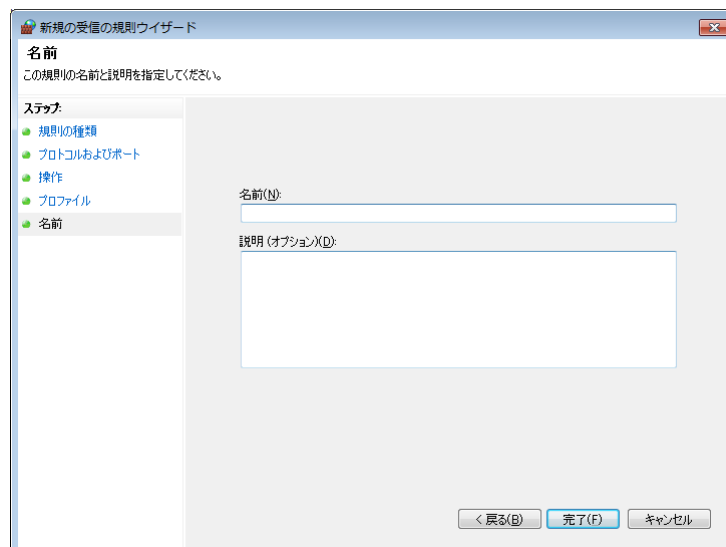
- ⑨ 「新規の受信の規則ウィザード」の「操作」画面が表示されます。
- ・「接続を許可する」を選択します。
 - ・「次へ」ボタンをクリックします。



- ⑩ 「新規の受信の規則ウィザード」の「プロファイル」画面が表示されます。
- ・ 規則が適用されるプロファイルを指定します。
 - ・ 「次へ」ボタンをクリックします。



- ⑪ 「新規の受信の規則ウィザード」の「名前」画面が表示されます。
- ・ 「名前」ボックスにポートの名前を入力します。
 - ・ 「完了」ボタンをクリックします。



- ⑫ 「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」画面の「受信の規則」に作成した規則が登録されたことを確認して画面を閉じます。
- ⑬ 「Windows ファイアウォール」画面を閉じます。

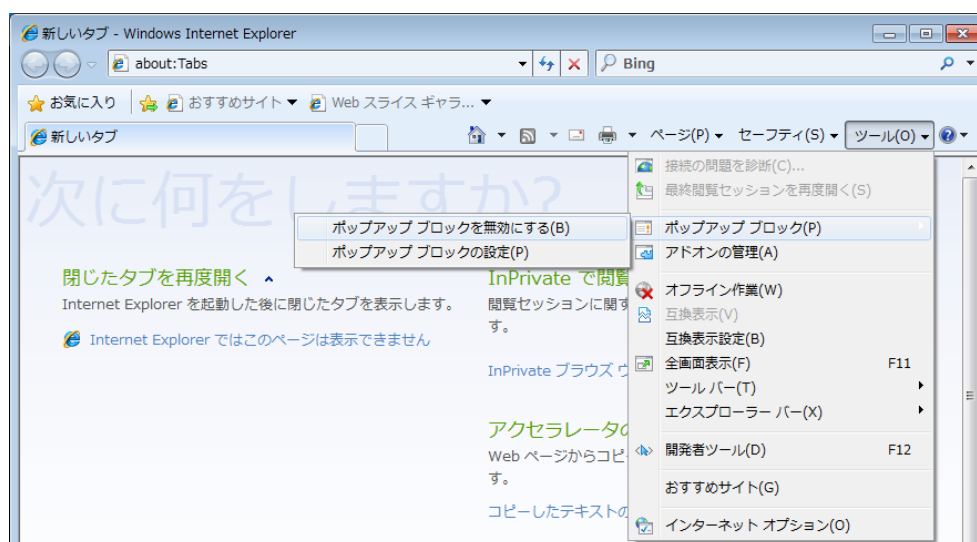
(2) Internet Explorer®のポップアップを無効にする

Internet Explorer®には、Internet Explorer®のポップアップウィンドウをブロックする機能が備わっています。

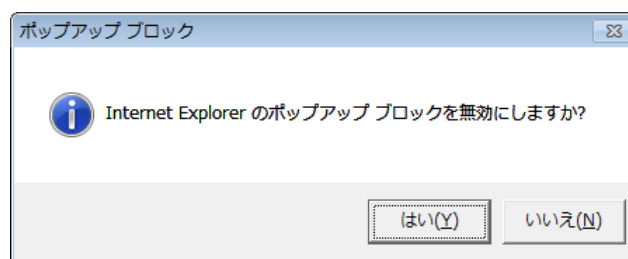
これによって、お使いのWebアプリケーションがポップアップウィンドウを使用する場合、ポップアップがブロックされ、正常に動作しないことがあります。以下の手順でポップアップブロック機能を無効にすることができます。

- ① Internet Explorer®を起動します。
- ② [メニューバー] または [コマンドバー] から [ツール] - [ポップアップ ブロック] - [ポップアップ ブロックを無効にする] をクリックします。

※ [メニューバー] または [コマンドバー] が表示されていない場合、ウィンドウのタイトル部を右クリックし、表示されたメニューから [メニューバー] または [コマンドバー] をクリックして表示させてください。



- ③ [ポップアップ ブロック] 画面が表示された場合、[はい] ボタンをクリックします。



4. 6 ファイル共有に伴うSTOPエラー（0x7e）について

Windows® 7またはWindows Server® 2008 R2をファイルサーバとしたネットワーク経由によるファイル共有を利用中に、STOPエラー（0x7e）が発生する場合があります。ファイル共有を利用する際には、詳細内容および回避策につきまして、マイクロソフト社の下記URLを参照してください。

Operating system intermittently crashes with a “0x0000007E” Stop error message on a computer that is running Windows 7 or Windows Server 2008 R2

<http://support.microsoft.com/kb/2528614>

4. 7 装置出荷時のネットワーク設定について

（1）SNP（Scalable Networking Pack）の無効化

SNPは、以下に示す3つの機能からなり、TCPに関する処理をネットワークアダプター側で実施することにより、プロセッサの負荷を軽減させることを目的としています。

- TCP Chimney Offload
- Receive Side Scaling（RSS）
- Network Direct Memory Access（NetDMA）

ただし、Windows® 7においてSNPを有効のままシステムを運用した場合、ネットワーク処理が不安定になったり、特定のネットワーク操作でパフォーマンスが低下したりすることがあるため、この装置ではSNPを無効としています。なお、Windows Server® 2012 R2ではNetDMAの機能はサポートされていません。

（2）チェックサムオフロードの無効化

チェックサムオフロードは、TCPやIPのチェックサム算出をネットワークアダプター側で実施することによりプロセッサの負荷を軽減させることを目的としています。

ただし、Windows® 7においてチェックサムオフロードを有効のままシステムを運用した場合、ネットワークアダプターでのチェックサム処理に起因してネットワーク通信がハングアップする事例が発生しているため、この装置ではOSのチェックサムオフロードを無効としています（*）。

（*）チェックサムオフロードの設定は、OSとネットワークアダプターそれぞれにあります。ここではOSの設定を無効としています。なお、OSの設定が優先されるため、ネットワークアダプターの設定が有効の場合であっても、チェックサムオフロードとしては無効となります。

また、チェックサムオフロードを有効に変更したい場合は、以下の方法で実施してください。

- （a）チェックサムオフロードを有効にする
- （b）チェックサムオフロードを無効にする（一旦（a）によって有効にした後に無効に戻す場合）

以下に、各手順を示します。

(a) チェックサムオフロードを有効にする

- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② **「[スタート] ボタン」**をクリックし、スタートメニュー左下にある**「プログラムとファイルの検索」**ボックスに以下を入力して**「[Enter] キー」**を押します。

(Windows Server® 2012 R2の場合は**「[スタート] ボタン」**を右クリックし、表示されたメニューの**「ファイル名を指定して実行」**をクリックします。名前のボックスに以下を入力して**「[OK] ボタン」**をクリックします。)

C:¥HITACHI¥Settings¥CSOffload¥EnableOffload.reg

(または、C:¥HITACHI¥Settings¥CSOffload下にあるEnableOffload.regファイルをダブルクリックします。)

- ③ **「[ユーザー アカウント制御] 画面」**が表示された場合は、**「[はい] ボタン」**をクリックします。
- ④ レジストリ情報を変更することを警告するメッセージボックスが表示されますので**「[はい] ボタン」**をクリックします。
- ⑤ 正常に追加されたことを示すメッセージボックスが表示されますので、**「[OK] ボタン」**をクリックします。
- ⑥ システムを再起動します。

(b) チェックサムオフロードを無効にする

- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② **「[スタート] ボタン」**をクリックし、スタートメニュー左下にある**「プログラムとファイルの検索」**ボックスに以下を入力して**「[Enter] キー」**を押します。

(Windows Server® 2012 R2の場合は**「[スタート] ボタン」**を右クリックし、表示されたメニューの**「ファイル名を指定して実行」**をクリックします。名前のボックスに以下を入力して**「[OK] ボタン」**をクリックします。)

C:¥HITACHI¥Settings¥CSOffload¥DisableOffload.reg

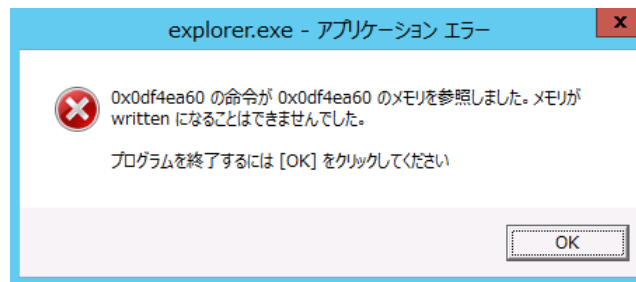
(または、C:¥HITACHI¥Settings¥CSOffload下にあるDisableOffload.regファイルをダブルクリックします。)

- ③ **「[ユーザー アカウント制御] 画面」**が表示された場合は、**「[はい] ボタン」**をクリックします。
- ④ レジストリ情報を変更することを警告するメッセージボックスが表示されますので**「[はい] ボタン」**をクリックします。
- ⑤ 正常に追加されたことを示すメッセージボックスが表示されますので、**「[OK] ボタン」**をクリックします。
- ⑥ システムを再起動します。

4. 8 シャットダウン時におけるアプリケーションエラーについて

Windows Server® 2012 R2では、[スタート] ボタンを右クリックし、表示されるメニューからシャットダウン（または再起動）を行った場合、以下に示す [explorer.exe - アプリケーション エラー] ダイアログボックスが表示されることがあります。したがって、シャットダウンは以下のいずれかの方法で行ってください。

- (1) [スタート] 画面からシャットダウンする
- (2) チャームからシャットダウンする

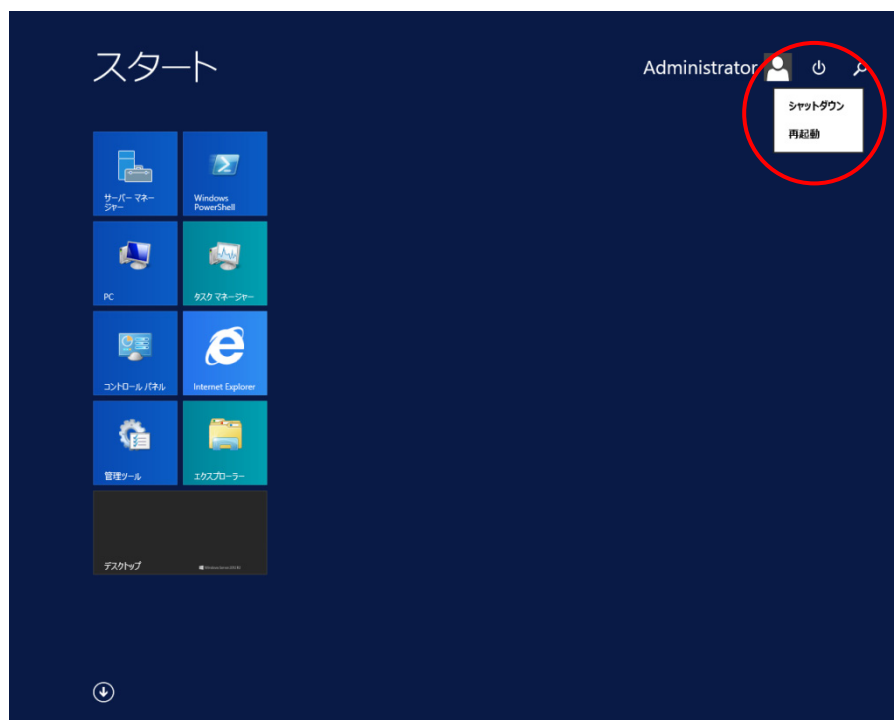


参照URL : <http://support.microsoft.com/kb/2929203/>

文章タイトル : Application error in Explorer.exe when you shut down or restart Windows

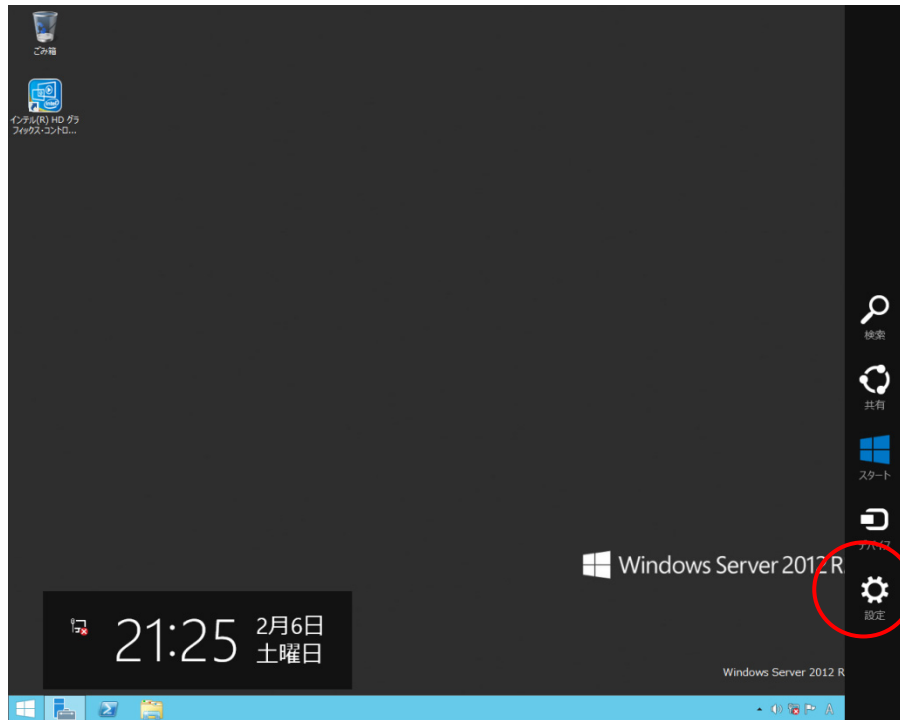
(1) [スタート] 画面からシャットダウンする

- ① [スタート] ボタンをクリックすると、[スタート] 画面が表示されます。
- ② [スタート] 画面右上の  ボタンをクリックし、シャットダウン（または再起動）をクリックします。

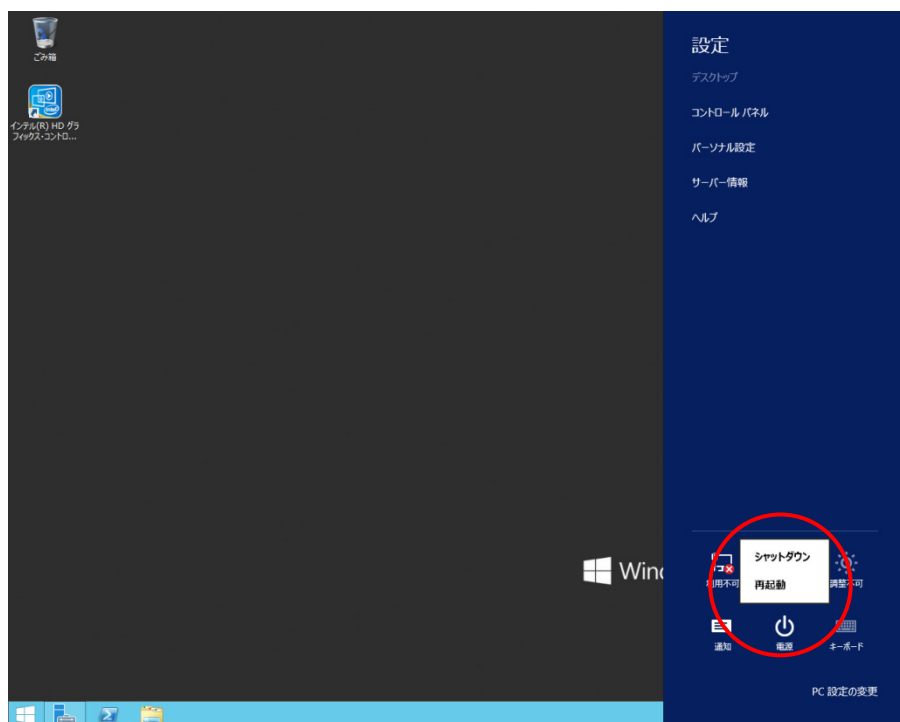


(2) チャームからシャットダウンする

- ① マウスポインターをデスクトップ画面の右隅上または右隅下に移動すると、[チャーム]が表示されます。
- ② [設定] をクリックすると、[設定] チャームが表示されます。



- ③ [設定] チャームから、 ボタンをクリックし、シャットダウン（または再起動）をクリックします。



このページは白紙です。

付録A Windows XP Modeを使用する場合のセットアップ手順 （Windows® 7の場合のみ）

ここでは、Windows XP Modeを使用する場合のセットアップ手順について説明します。このセットアップ手順は、以下の留意事項をよく読み、Windows XP Modeを使用する場合にだけ実施してください。

留意事項

- この製品のWindows® 7搭載モデルは、Windows XP Mode（ライセンス認証済みのWindows® XPをインストールした仮想環境）を格納しています。

Windows XP Modeは、Windows® 7で実行できないWindows® XP向けのアプリケーションを動作させるための機能であり、アプリケーションの互換性を確保するための最終手段として位置付けられています。そのため、アプリケーションの互換性の問題を解決できない場合にのみ使用してください。

- Windows XP Modeは、すべてのWindows® XP向けアプリケーションの動作を保証するものではありません。
 - Windows XP Modeを使用する場合、実装するメインメモリは下記の容量を満たしてください。
OSが32ビット版の場合：2GB以上
OSが64ビット版の場合：3GB以上
-

<Windows XP Modeを使用しない場合>

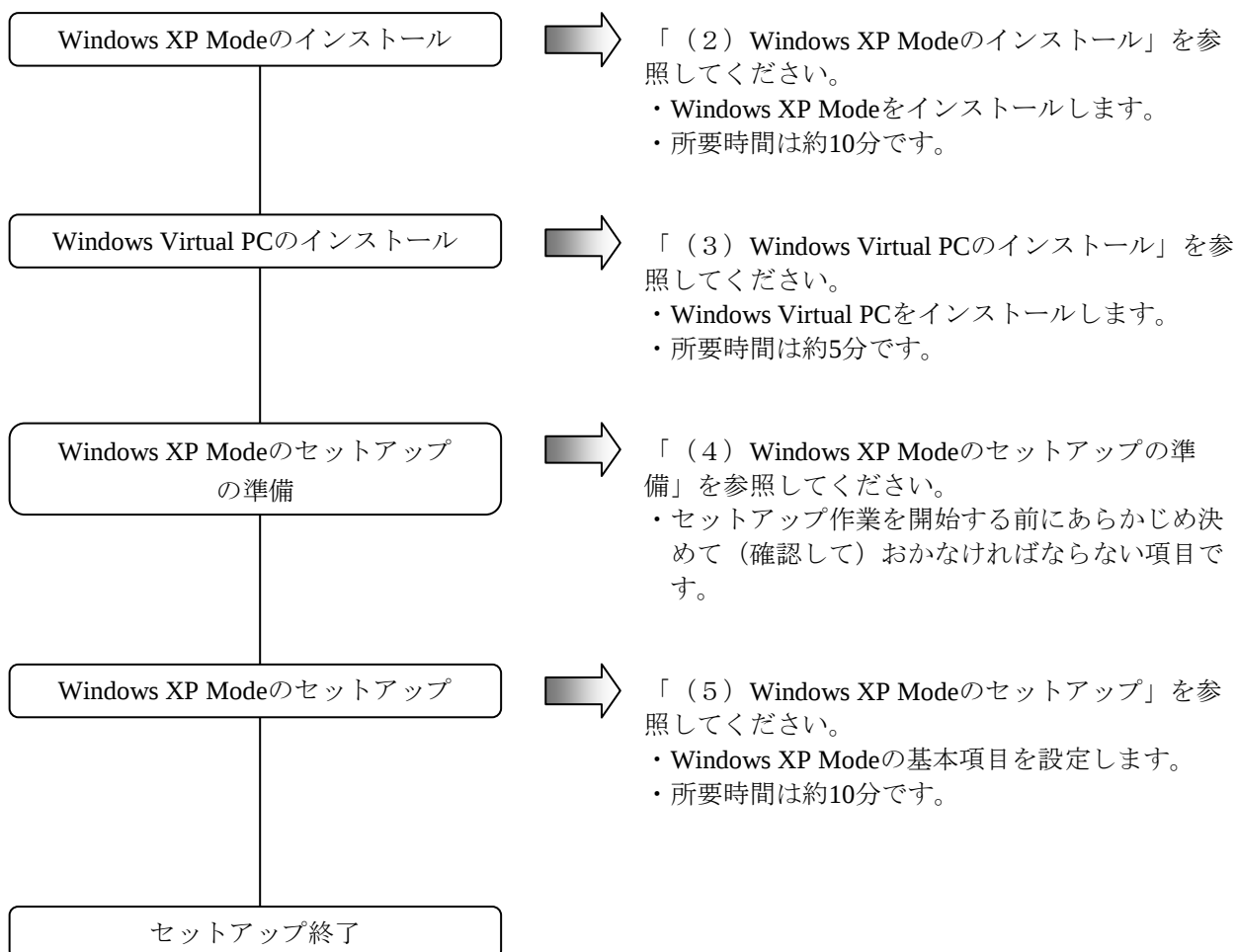
Windows XP Modeのセットアップに使用するファイルは、ゲストOS用の仮想ハードディスクファイルを含んでいるため、約700MBのディスク容量を占有します。そのため、Windows XP Modeを使用しない場合は、以下の手順に従い格納ディレクトリを削除することをお勧めします。

- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② コマンドプロンプトを起動します。
 - ・ [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] をポイントします。
 - ・ [アクセサリ] をクリックします。
 - ・ [コマンドプロンプト] を右クリックし、表示されるメニューから [管理者として実行] をクリックします。
(ログオンした管理者アカウントがビルトインAdministratorアカウントである場合は、[コマンドプロンプト] をクリックします。)
 - ・ [ユーザー アカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] ボタンをクリックします。
- ③ [コマンドプロンプト] 画面で以下を入力して [Enter] キーを押します。
`rmdir /s C:¥HITACHI¥XP_Mode`
- ④ 削除するディレクトリの確認を促されますので、“y”を入力して [Enter] キーを押します。

（1）セットアップ手順の概要

以下に、Windows XP Mode（ゲストOS：Microsoft® Windows® XP Professional）のセットアップ手順を示します。

以下に設定の概略フローを示します。



なお、Windows XP ModeおよびWindows Virtual PCをコンピュータから削除する手順については、「（6）Windows XP ModeおよびWindows Virtual PCのアンインストール」を参照してください。

留意事項

- Windows XP Modeは、仮想マシン上でMicrosoft® Windows® XP Professional SP3を動作させるため、Windows Virtual PCのインストールが必要になります。
 - Windows XP ModeおよびWindows Virtual PCのインストールは、最終的にこの製品を使用する方が行ってください。または、システムを構築する方がその代行として行ってください。
-

（2）Windows XP Modeのインストール

以下の手順でWindows XP Modeをインストールしてください。

- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② インストールプログラムを起動するため、コマンドプロンプトを起動します。
 - ・ [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] をポイントします。
 - ・ [アクセサリ] をクリックします。
 - ・ [コマンドプロンプト] を右クリックし、表示されるメニューから [管理者として実行] をクリックします。
（ログオンした管理者アカウントがビルトインAdministratorアカウントである場合は、[コマンドプロンプト] をクリックします。）
 - ・ [ユーザー アカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] ボタンをクリックします。



- ③ [コマンドプロンプト] 画面で以下を入力して [Enter] キーを押します。
`cd C:¥HITACHI¥XP_Mode`
- ④ 続けて以下を入力して [Enter] キーを押します。インストールを開始します。
`WXPMMode_install.bat`
- ⑤ インストールが完了すると、完了したことを示す以下のメッセージが表示されます。
`Installation completed.`

以上で、インストールは完了です。コマンドプロンプトを終了してください。

（3）Windows Virtual PCのインストール

以下の手順でWindows Virtual PCをインストールしてください。

- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。

- ② セットアッププログラムを起動します。

- ・ [スタート] ボタンをクリックし、スタートメニュー左下にある「プログラムとファイルの検索」ボックスに以下を入力して [Enter] キーを押します。

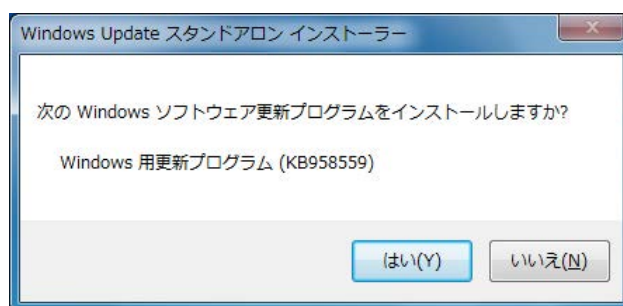
C:¥HITACHI¥XP_Mode¥Virtual-PC

- ・ エクスプローラ画面が表示されますので、格納されているセットアッププログラムをダブルクリックします。なお、セットアッププログラムは、OSのビット数の違いによって異なります。

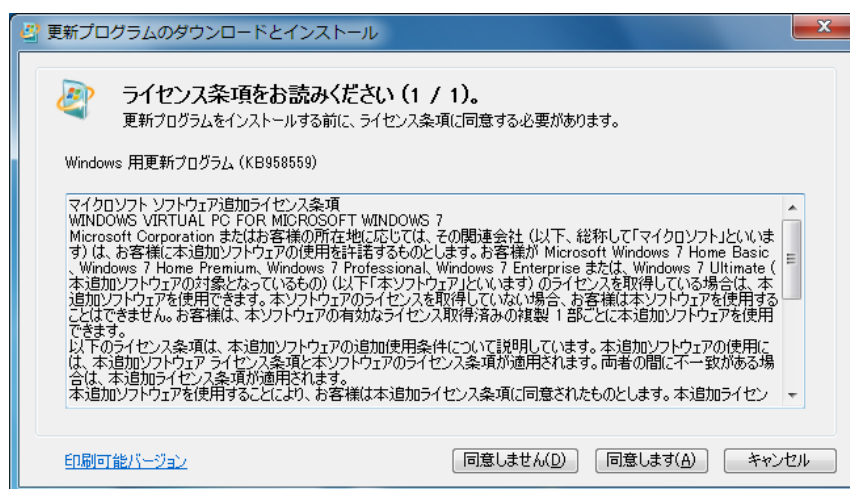
OSが32ビット版の場合：Windows6.1-KB958559-x86.msu

OSが64ビット版の場合：Windows6.1-KB958559-x64.msu

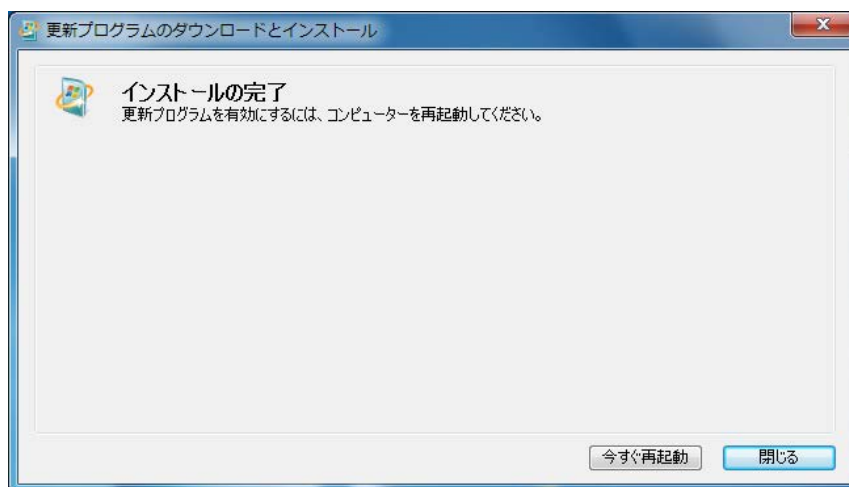
- ③ [Windows Update スタンドアロン インストーラー] 画面が表示されますので、[はい] ボタンをクリックします。



- ④ [更新プログラムのダウンロードとインストール] 画面が表示されますので、ライセンス条項をよく読んでから [同意します] ボタンをクリックします。インストールが開始されます。



- ⑤ インストール完了後、再起動を促す画面が表示されますので、**【今すぐ再起動】** ボタンをクリックしてください。再起動を開始します。



（４）Windows XP Modeのセットアップの準備

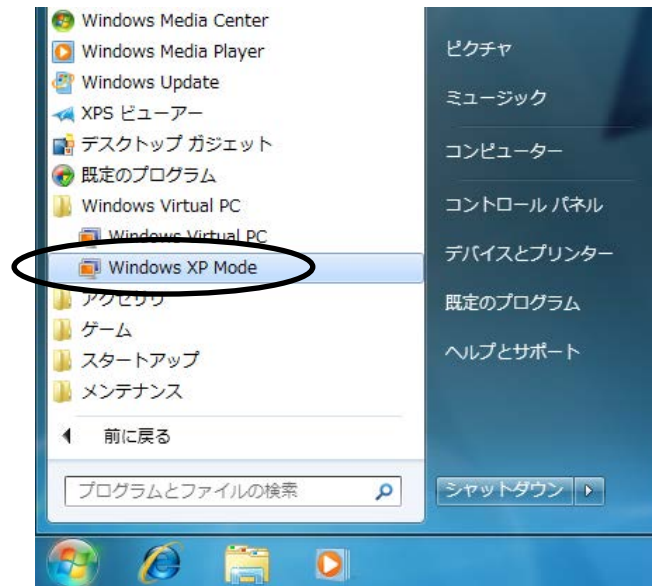
下記の項目は、Windows XP Modeのセットアップ作業中に必要となる項目です。セットアップ作業を開始する前にあらかじめ決めて（確認して）おいてください。

項目	内容
XPMUserのパスワード	XPMUser（コンピュータの管理者アカウント）のパスワード設定後に変更できます。

（5）Windows XP Modeのセットアップ

以下の手順でWindows XP Modeをセットアップしてください。

- ① [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] をポイントします。
- ② [Windows Virtual PC] — [Windows XP Mode] をクリックします。

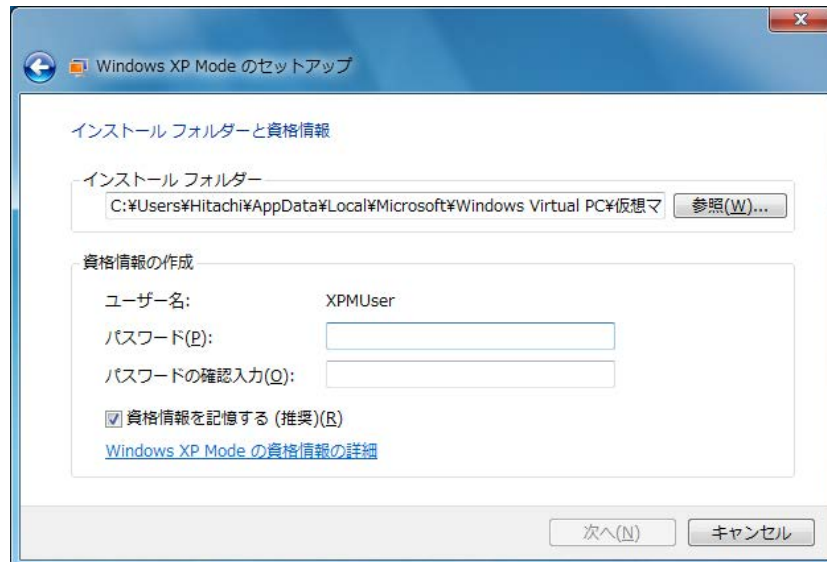


③ Windows XP Mode 使用許諾契約書が表示されます。

- ・使用許諾契約の内容をよく読んでから「ライセンス条項に同意する」チェックボックスをオンにして、[次へ] ボタンをクリックします。



- ④ インストール フォルダーと資格情報画面が表示されます。
- ・ [パスワード] および [パスワードの確認入力] にXPMUserのパスワードを入力します。
 - ・ [次へ] ボタンをクリックします。



- ⑤ 自動更新の設定画面が表示されます。
- ・ 「後で設定する」を選択して [次へ] ボタンをクリックします。

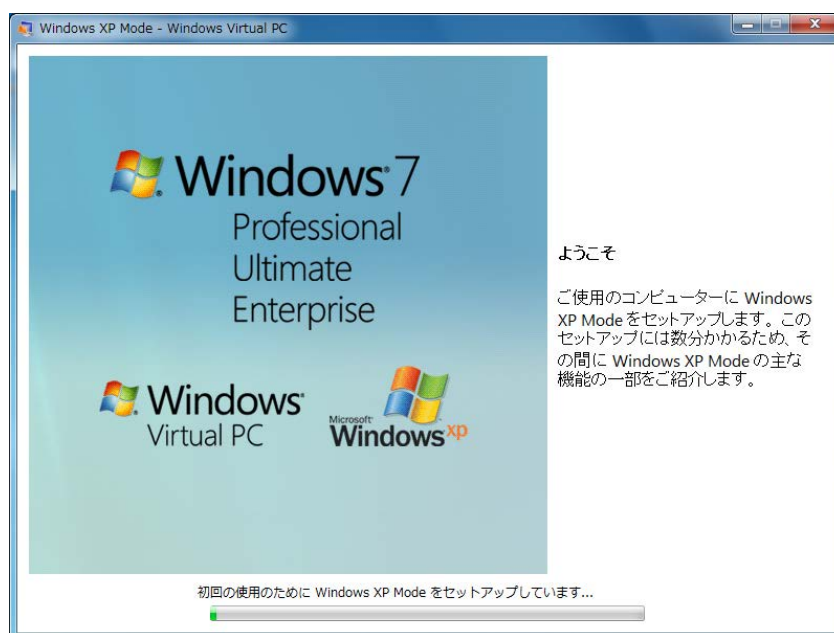


⑥ ドライブの共有をセットアップする画面が表示されます。

- ・ [セットアップの開始] ボタンをクリックします。



⑦ Windows XP Modeのセットアップを行っていることを示す画面が表示されます。



セットアップ終了後、仮想マシンを起動し、自動的にXPMUserでログオンします。

なお、初回のログオン後に以下のイベントログが記録されることがありますが、システムの動作に影響はありません。

ソース : Service Control Manager

イベントID : 7005

種類 : エラー

留意事項

Windows XP Modeセットアップ後の初回起動時において、Windows XP ModeのタイムゾーンがWindows® 7のタイムゾーンと一致しない場合があります。この場合は、Windows XP ModeのタイムゾーンをWindows® 7のタイムゾーンに一致するように手動で設定を変更してください。

（6）Windows XP ModeおよびWindows Virtual PCのアンインストール

Windows XP ModeおよびWindows Virtual PCをコンピュータから削除したい場合は、この節に示す手順に従い、アンインストール作業を行ってください。

留意事項

動作しているアプリケーションプログラムがある場合は、すべて終了してからアンインストール作業を行ってください。

（a）Windows XP Modeのアンインストール

以下の手順でWindows XP Modeをアンインストールしてください。

- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② アンインストールプログラムを起動するため、コマンドプロンプトを起動します。
 - ・ [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] をポイントします。
 - ・ [アクセサリ] をクリックします。
 - ・ [コマンドプロンプト] を右クリックし、表示されるメニューから [管理者として実行] をクリックします。
(ログオンした管理者アカウントがビルトインAdministratorアカウントである場合は、[コマンドプロンプト] をクリックします。)
 - ・ [ユーザー アカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] ボタンをクリックします。



- ③ [コマンドプロンプト] 画面で以下を入力して [Enter] キーを押します。

cd "C:¥HITACHI¥XP_Mode¥Windows XP Mode"

- ④ 続けて以下を入力して [Enter] キーを押します。

WXPMode_uninst.bat

- ⑤ アンインストールの最初に「Do you want to uninstall Windows XP Mode? (y/n):」とメッセージが表示されます。

アンインストールを行う場合は、“y”を入力した後、[Enter] キーを押します。

アンインストールを行わない場合は、“n”を入力した後、[Enter] キーを押します。アンインストールが中止されます。

- ⑥ アンインストールが完了すると、完了したことを示す以下のメッセージが表示されます。

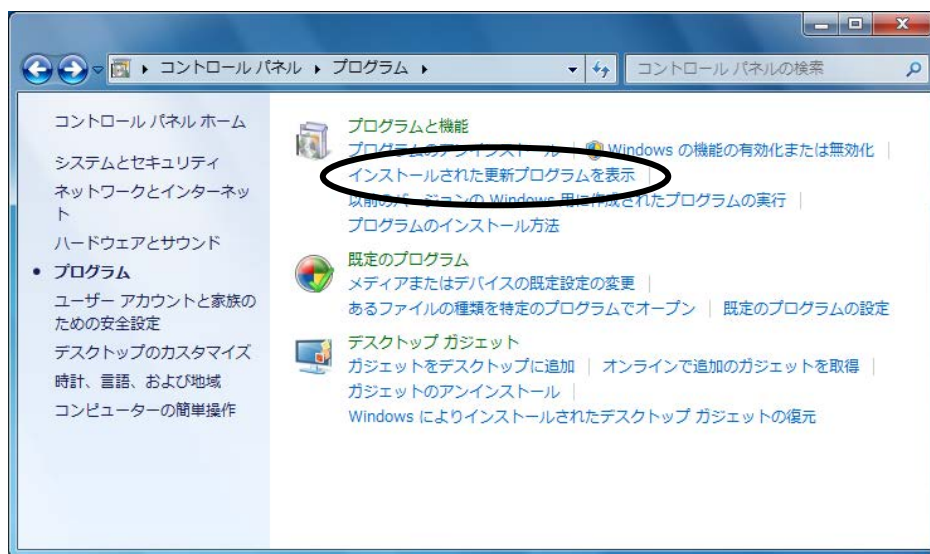
Uninstallation completed.

以上で、Windows XP Modeのアンインストールは完了です。コマンドプロンプトを終了後、Windows Virtual PCのアンインストールを実施してください。

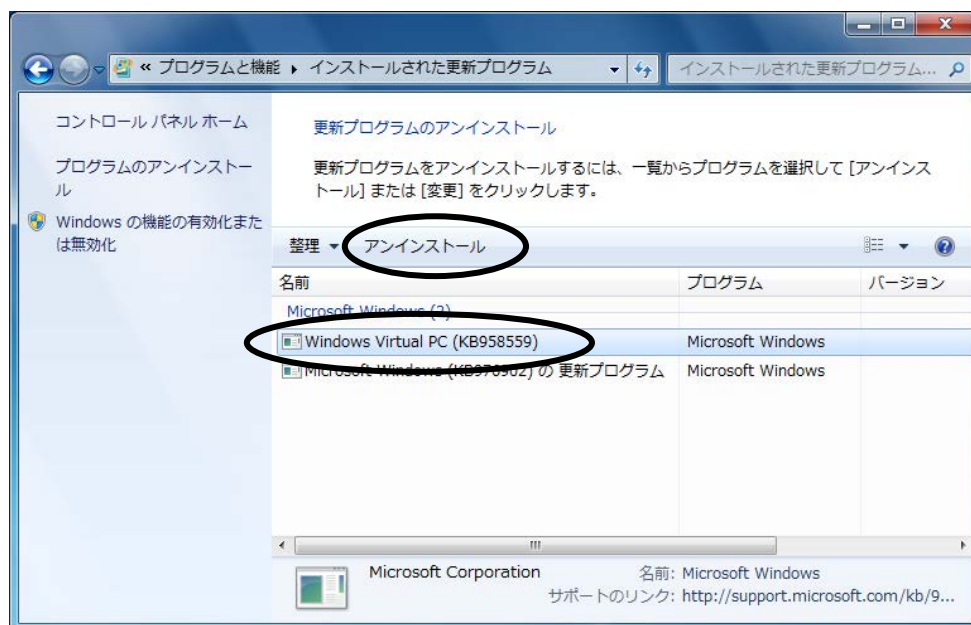
（b）Windows Virtual PCのアンインストール

以下の手順でWindows Virtual PCをアンインストールしてください。

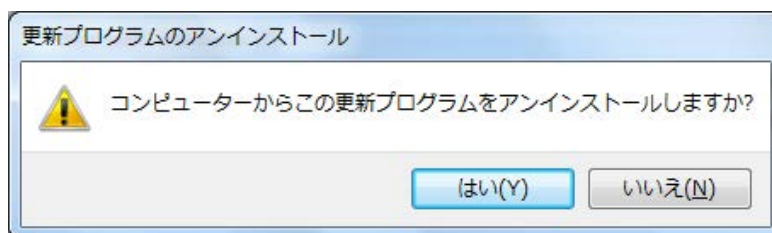
- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- ③ [プログラム] をクリックします。
- ④ [プログラムと機能] にある [インストールされた更新プログラムを表示] をクリックします。



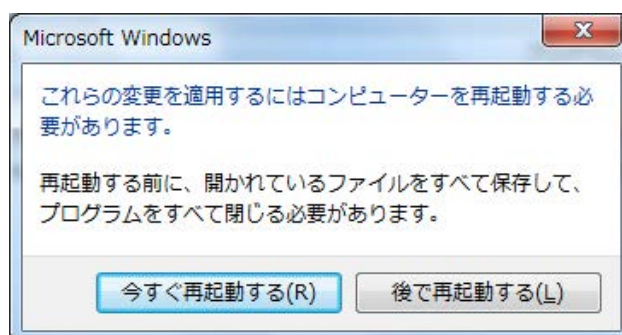
- ⑤ [インストールされた更新プログラム] 画面が表示されますので、一覧から“Windows Virtual PC (KB958559)”を選択して [アンインストール] をクリックします。



- ⑥ 「更新プログラムのアンインストール」画面が表示されますので、「はい」ボタンをクリックします。



- ⑦ アンインストール完了後、再起動を促す画面が表示されますので、「今すぐ再起動する」ボタンをクリックして再起動してください。



以上で、Windows Virtual PCのアンインストールは完了です。

留意事項

再びWindows XP Modeを使用する場合は、付録Aの「（2）Windows XP Modeのインストール」から「（5）Windows XP Modeのセットアップ」を実施してください。このとき、Windows XP Modeのセットアップにおいて以下のダイアログボックスが表示される場合があります。この場合は、「新規作成」ボタンをクリックするとセットアップ処理が継続されます。



付録B 仮想環境を構築する場合のセットアップ手順 （Windows Server® 2008 R2の場合）

Windows Server® 2008 R2にはゲストOS用のライセンスが1つ付属しており、この製品では、ゲストOSとしてWindows Server® 2008 R2をインストールした仮想環境を提供しています。

ここでは、仮想環境を構築する場合のセットアップ手順について説明します。このセットアップ手順は、以下の留意事項をよく読み、仮想環境を構築する場合にだけ実施してください。

留意事項

仮想マシンにインストールされているゲストOS（Windows Server® 2008 R2 Standard）を使用する場合、ライセンス認証手続きをする必要があります。なお、このライセンス認証の方法とマイクロソフト社のプライバシーポリシーの詳細については、仮想環境の最初の起動時に表示されます。

<仮想環境を構築しない場合>

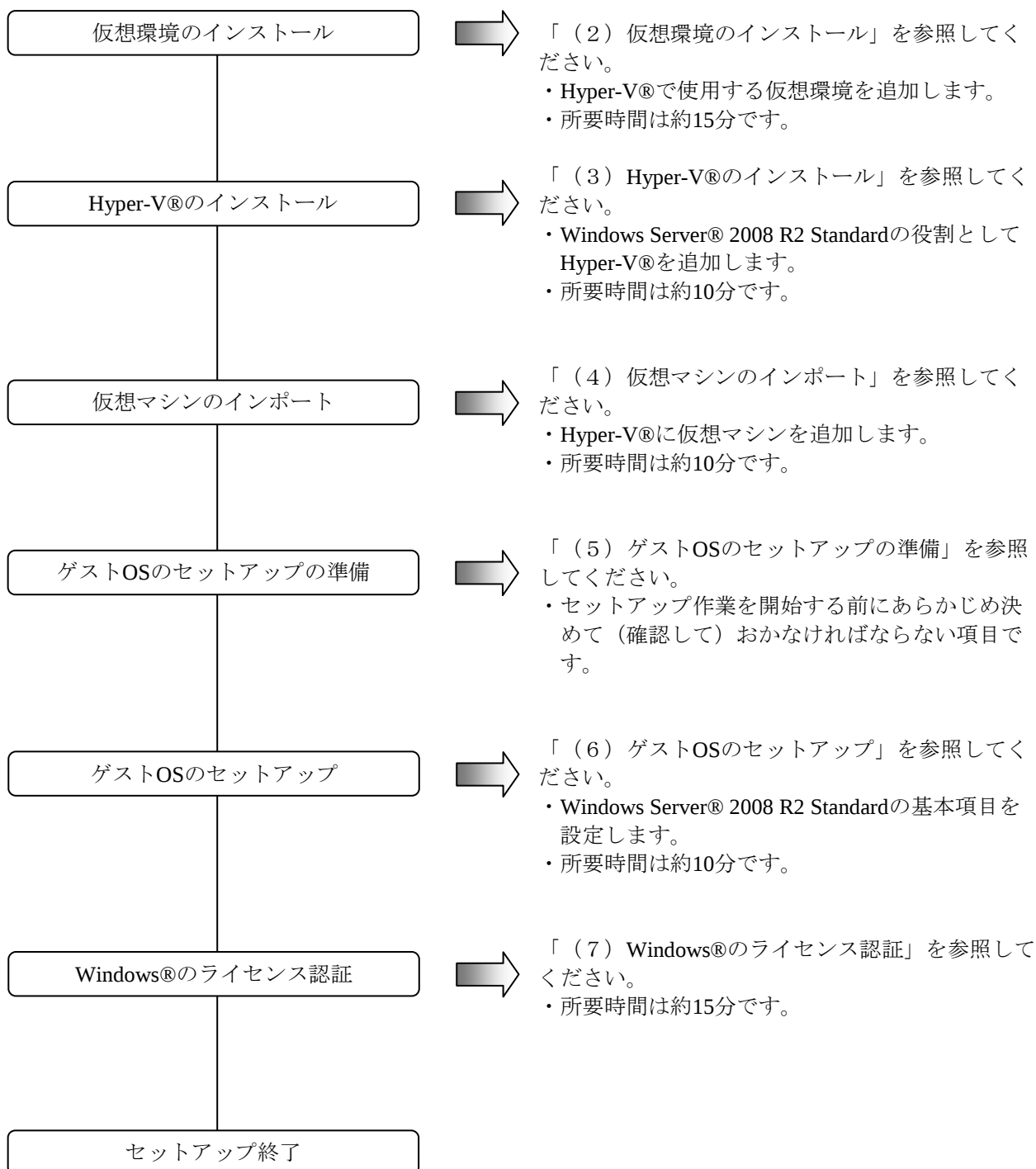
仮想環境のセットアップに使用するファイルは、ゲストOS用の仮想ハードディスクファイルを含んでいるため、約3GBのディスク容量を占有します。そのため、仮想環境を構築しない場合は、以下の手順に従い格納ディレクトリを削除することをお勧めします。

- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② コマンドプロンプトを起動します。
 - ・ [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] をポイントします。
 - ・ [アクセサリ] をクリックします。
 - ・ [コマンドプロンプト] を右クリックし、表示されるメニューから [管理者として実行] をクリックします。
(ログオンした管理者アカウントがビルトインAdministratorアカウントである場合は、[コマンドプロンプト] をクリックします。)
 - ・ [ユーザー アカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] ボタンをクリックします。
- ③ [コマンドプロンプト] 画面で以下を入力して [Enter] キーを押します。
`rmdir /s C:¥HITACHI¥Hyper-V_Image`
- ④ 削除するディレクトリの確認を促されますので、“y”を入力して [Enter] キーを押します。

（1）セットアップ手順の概要

以下に、プレインストールされた仮想マシン（ゲストOS：Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard）のセットアップ手順を示します。

以下に設定の概略フローを示します。



（２）仮想環境のインストール

以下の手順で仮想環境をインストールしてください。

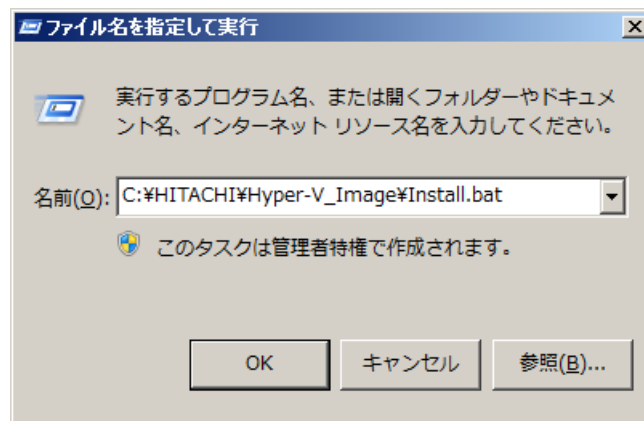
留意事項

“C:¥Virtual Machine¥WS08R2” 以下に仮想環境をインストールします。

既にHyper-V®で“C:¥Virtual Machine¥WS08R2” 以下のファイルを仮想マシンとして構築し使用している場合、このインストール作業によって上書きしますので、必要に応じてバックアップを取得してください。

- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② セットアッププログラムを起動します。
 - ・ **［スタート］ ボタン**をクリックし、表示されるメニューから **［ファイル名を指定して実行］** をクリックします。
 - ・ 名前前のボックスに以下を入力して **［OK］ ボタン**をクリックします。

C:¥HITACHI¥Hyper-V_Image¥Install.bat

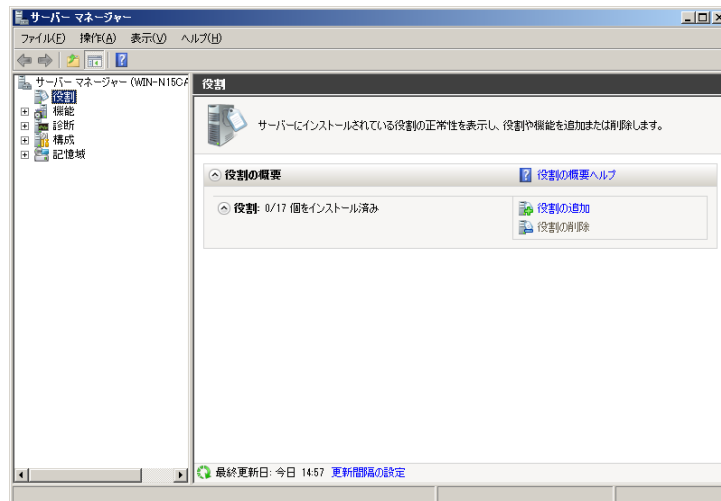


- ③ インストール確認のダイアログボックスが表示されますので、**［OK］ ボタン**をクリックします。
- ④ インストールが完了すると、完了したことを示すメッセージが表示されますので、何かキーを押してください。ウィンドウが閉じ、インストールは完了です。

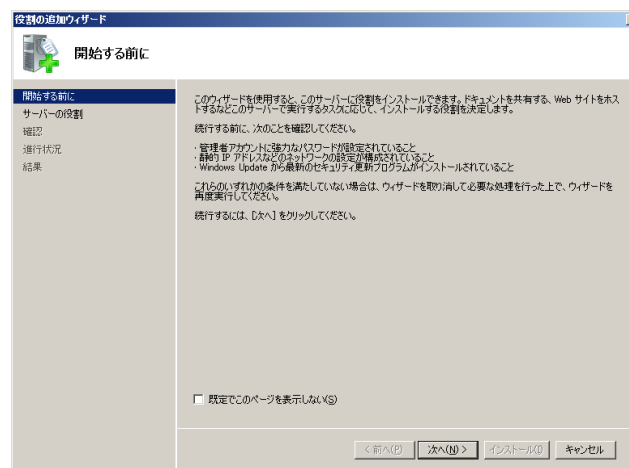
（3）Hyper-V®のインストール

以下の手順でHyper-V®インストールしてください。

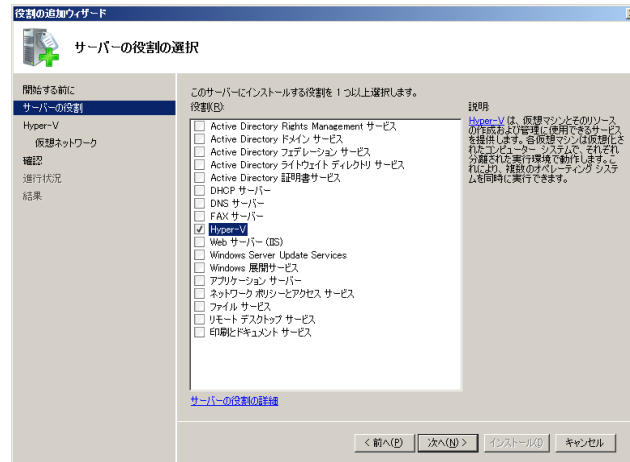
- ① 「[スタート] ボタン」をクリックし、「[管理ツール]」－「[サーバーマネージャー]」をクリックします。
- ② 「[役割]」をクリックし、表示された画面内の「[役割の追加]」をクリックします。



- ③ 「[役割の追加ウィザード]」の「[開始する前に]」画面が表示されますので、「[次へ]」ボタンをクリックします。



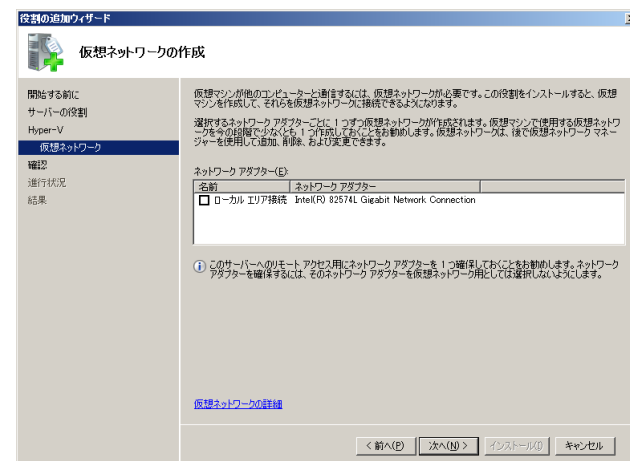
- ④ 「サーバーの役割の選択」画面が表示されますので、「Hyper-V」チェックボックスをオンにして「次へ」ボタンをクリックします。



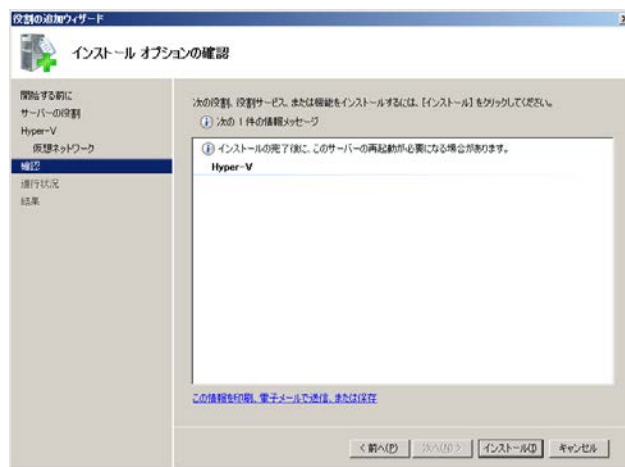
- ⑤ 「Hyper-V」画面が表示されますので、「次へ」ボタンをクリックします。



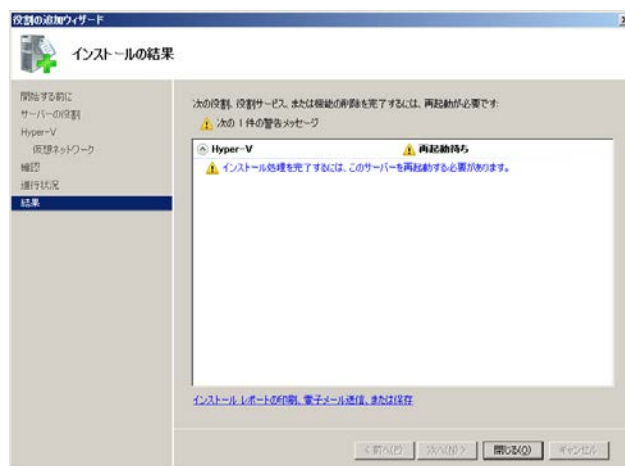
- ⑥ 「仮想ネットワークの作成」画面が表示されますので、仮想マシンが他のコンピュータと通信する場合は仮想ネットワーク用に使用するネットワークアダプターのチェックボックスをオンにして「次へ」ボタンをクリックします。



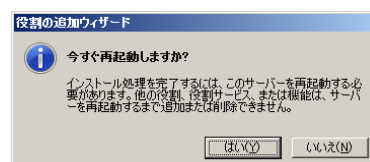
- ⑦ 「インストール オプションの確認」画面が表示されますので、「インストール」ボタンをクリックします（インストール処理が開始されます）。



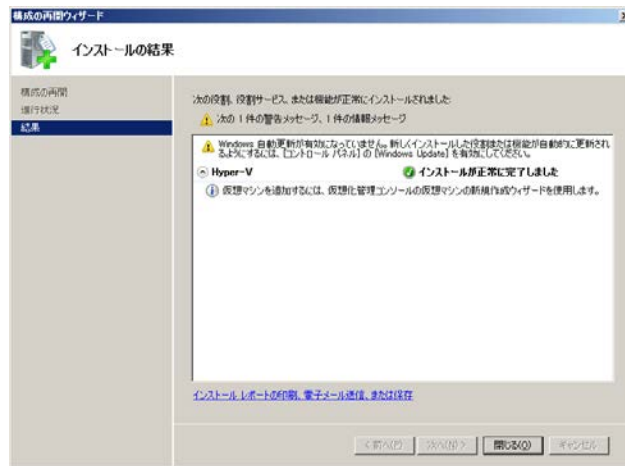
- ⑧ 「インストールの結果」画面が表示されますので、「閉じる」ボタンをクリックします。



- ⑨ 再起動を促すメッセージダイアログボックスが表示されますので、「はい」ボタンをクリックして再起動してください（インストールが完了するまで再起動を数回繰り返します）。



- ⑩ 再起動後、[インストールの結果] 画面が表示されますので、[閉じる] ボタンをクリックします。



留意事項

[インストールの結果] 画面が表示されるまで数分かかる場合がありますが、キーボードおよびマウスなどの操作を行わずにそのままお待ちください。

- ⑪ インストール完了後、[サーバー マネージャー] に [Hyper-V マネージャー] が追加されます。



- ⑫ [サーバー マネージャー] 画面右上の [×] ボタンをクリックして画面を終了します。

（4）仮想マシンのインポート

以下の手順で仮想マシンをインポートしてください。

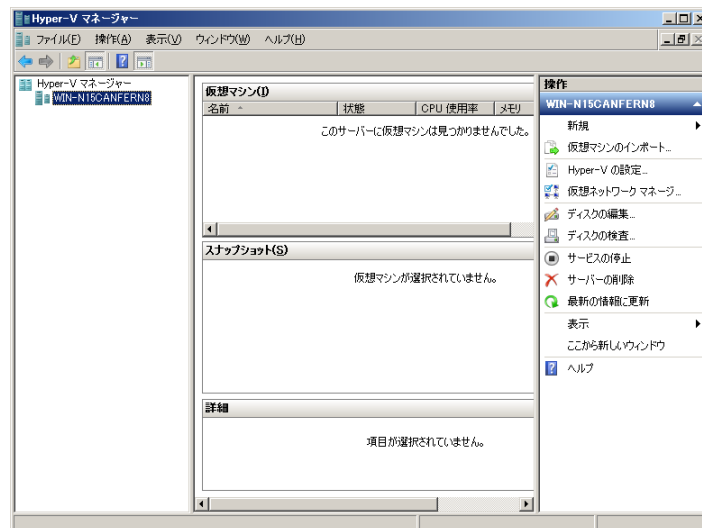
留意事項

既に構築していた仮想環境を破棄して新たに仮想環境を構築する場合、Hyper-Vマネージャーからインポート済みの仮想マシンを削除した後に仮想マシンをインポートしてください。

仮想マシンを削除する際は、仮想ハードディスクファイルも必ず削除してください。仮想ハードディスクファイルは、デフォルトでは以下のファイルです。

“C:¥Users¥Public¥Documents¥Hyper-V¥Virtual Hard Disks¥HITACHI_VM_WS08R2.vhd”

- ① 「スタート」ボタンをクリックし、「管理ツール」－「Hyper-V マネージャー」をクリックします。
- ② 「操作」の「仮想マシンのインポート」をクリックします。

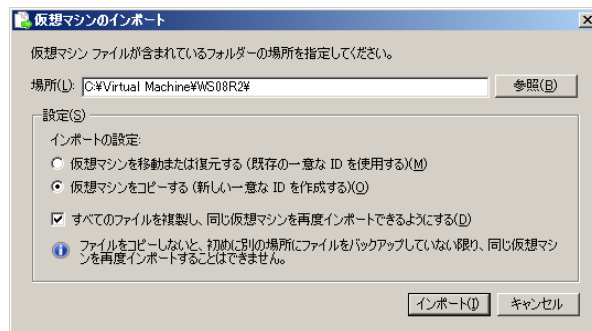


- ③ 「仮想マシンのインポート」ダイアログボックスが表示されますので、「場所」および「設定」を以下の設定に変更して「インポート」ボタンをクリックします。

場所：“C:\Virtual Machine\WS08R2”

設定：「仮想マシンをコピーする（新しい一意なIDを作成する）」ラジオボタンを選択する。

「すべてのファイルを複製し、同じ仮想マシンを再度インポートできるようにする」チェックボックスをオンにする。

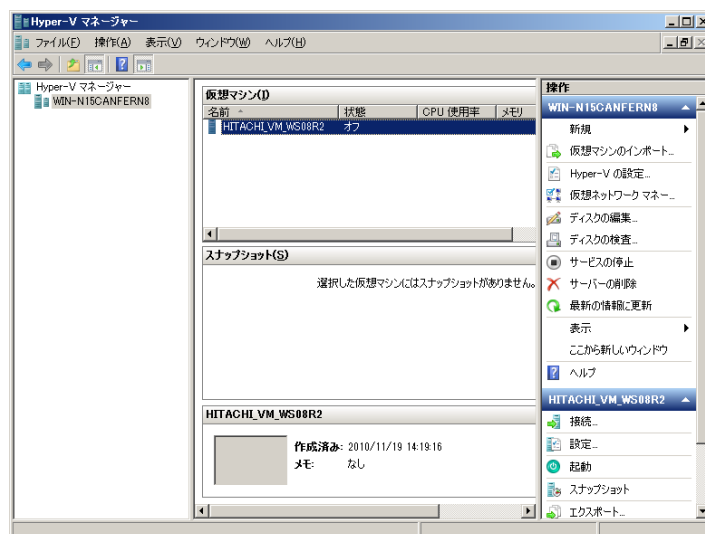


留意事項

「すべてのファイルを複製し、同じ仮想マシンを再度インポートできるようにする」チェックボックスをオンにしないで仮想マシンのインポートを行った場合、「場所」で指定したフォルダー以下のファイルが直接使用されます。

“C:\Virtual Machine\WS08R2”以下のファイルをバックアップしていない場合、仮想マシンを初期状態に戻すことができなくなりますので、「すべてのファイルを複製し、同じ仮想マシンを再度インポートできるようにする」チェックボックスをオンに設定してインポートすることを推奨します。

- ④ インポート終了後、[Hyper-V マネージャー] に仮想マシン “HITACHI_VM_WS08R2” が追加されます。



留意事項

インポートした仮想マシンの設定はすべてデフォルトの設定になっています。そのため、使用する環境に応じて仮想マシンの設定を変更してください。

- ⑤ [Hyper-V マネージャー] 画面右上の [×] ボタンをクリックして画面を終了します。

（5）ゲストOSのセットアップの準備

下記の項目は、ゲストOSのセットアップ作業中に必要となる項目です。セットアップ作業を開始する前にあらかじめ決めて（確認して）おいてください。

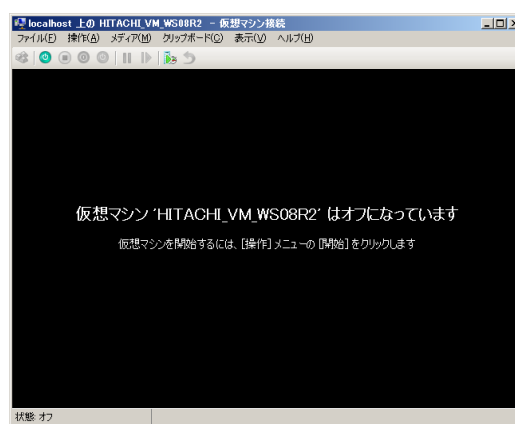
項目	内容
ライセンス証書	HF-W本体にライセンス証書が貼り付いていることを確認してください。 ライセンス証書に記載の“Virtual Key”が示すプロダクトキーを確認してください。
Administratorのパスワード	Administratorのパスワード 設定後に変更できます。

（6）ゲストOSのセットアップ

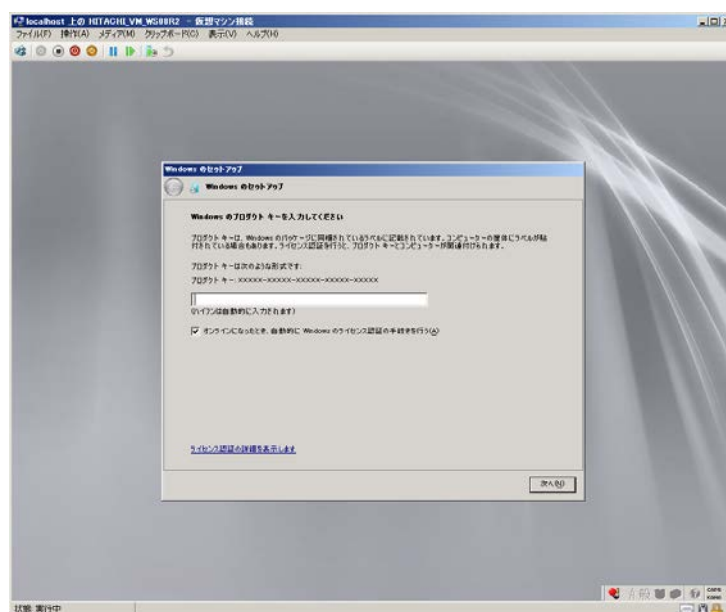
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standardをセットアップします。

以下の手順で仮想マシンを起動、および基本環境を設定してください。

- ① **【スタート】ボタン**をクリックし、**【管理ツール】**－**【Hyper-V マネージャー】**をクリックします。
- ② 仮想マシン“HITACHI_VM_WS08R2”を右クリックし、表示されたメニューから**【接続】ボタン**をクリックします。
- ③ 仮想マシン接続画面が表示されますので、**【操作】メニューの【開始】**をクリックします。
Windows Server® 2008 R2 Standardのセットアップが自動で開始されます。



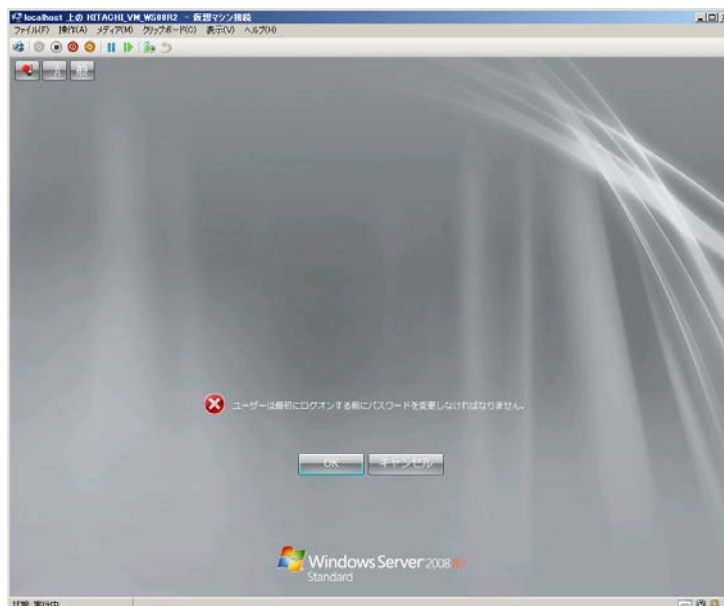
- ④ プロダクトキー入力画面が表示されますので、ライセンス証書記載のプロダクトキーを入力して**【次へ】**ボタンをクリックします。



- ⑤ ライセンス契約画面が表示されますので、契約内容をよく読んでから「**ライセンス条項に同意します**」チェックボックスをオンにして、**〔開始〕** ボタンをクリックします。



- ⑥ Administratorのパスワード変更を要求する画面が表示されますので、**〔OK〕** ボタンをクリックします。

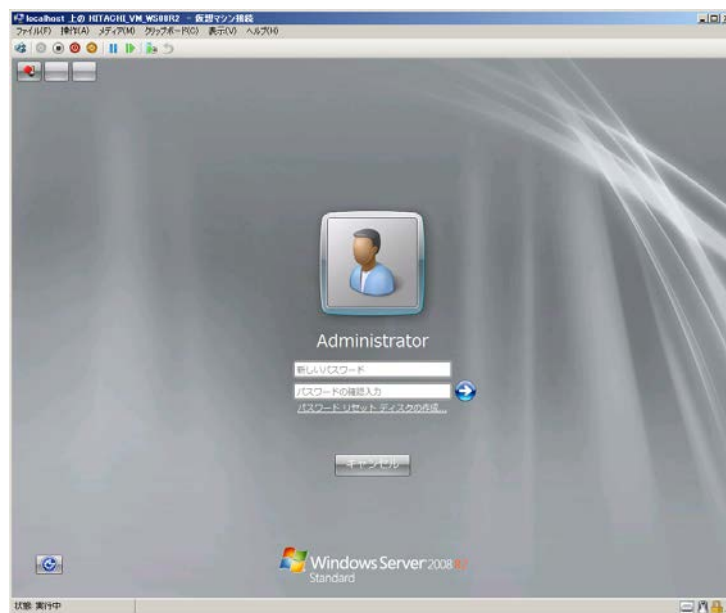


- ⑦ パスワードの入力画面が表示されますので、**【新しいパスワード】** および **【パスワードの確認入力】** にパスワードを入力して **【Enter】** キーを押すか **【→】** をクリックします。

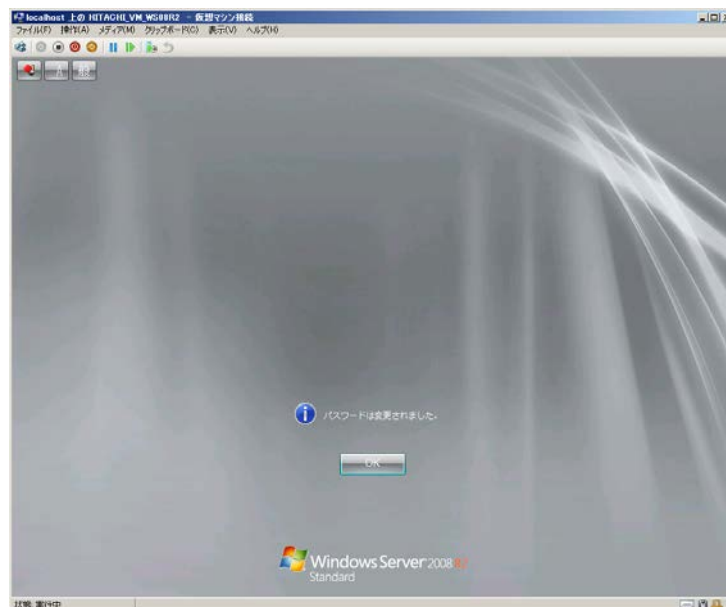
留意事項

Administratorのパスワードを設定する際、以下の条件を満たす必要があります。

- ・ 6文字以上であること。
 - ・ 半角英文字の大文字および小文字、数字、記号の4種類から3種類以上を使用すること。
 - ・ ユーザーアカウント名やユーザー名として使用されている3文字以上連続する文字列を使用しないこと。
-



- ⑧ パスワード変更完了画面が表示されますので、**【OK】** ボタンをクリックします。
その後、自動的にログオンします。



- ⑨ ログオン後、初期構成タスク画面が表示されますので、画面右上の【×】ボタンをクリックして画面を終了し、次ページ以降のセットアップを続行します。

次回起動時にこの画面を表示させない場合は、「ログオン時にこのウィンドウを表示しない」チェックボックスをオンにして、画面右上の【×】ボタンをクリックして画面を終了します。

（7）Windows®のライセンス認証

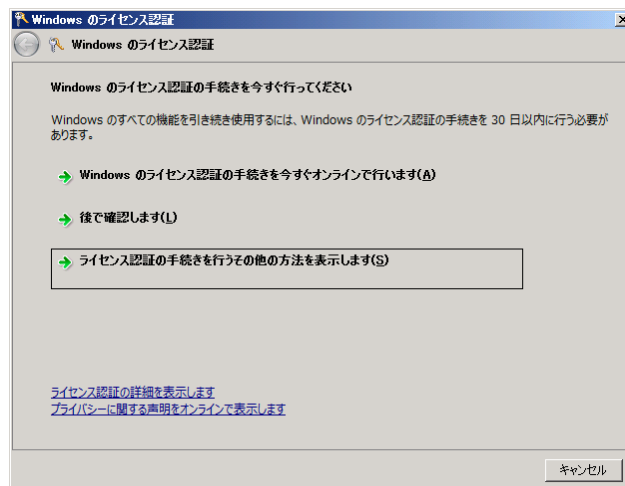
仮想マシンにインストールされているゲストOS（Windows Server® 2008 R2 Standard）にはプロダクトアクティベーションと呼ばれる不正コピー防止技術が実装されており、ユーザーはWindows Server® 2008 R2 Standardを使用するにあたりマイクロソフト社に対してライセンス認証手続きをする必要があります。ライセンス認証は電話で行う方法とインターネット経由で行う方法がありますので、以下に示すいずれかの方法で実施してください。

（a）電話でライセンス認証する場合

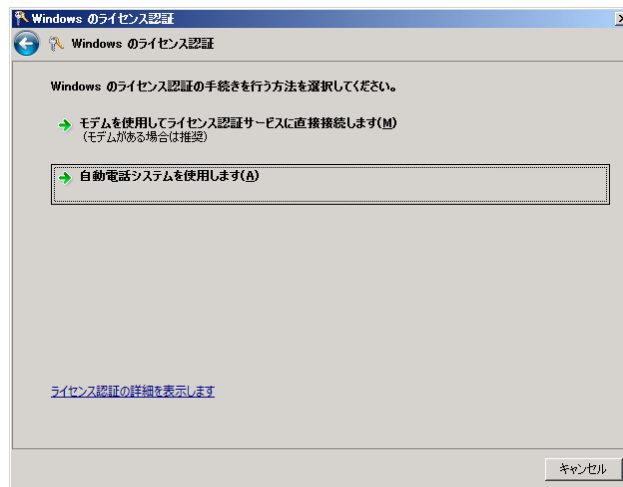
- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- ③ [システムとセキュリティ] をクリックし、[システム] をクリックします。
- ④ 「Windows ライセンス認証」の「自動ライセンス認証が始まるまで3日です。今すぐ行う場合はここをクリックしてください」をクリックします（下線部の内容はライセンスの状態によって変わります）。



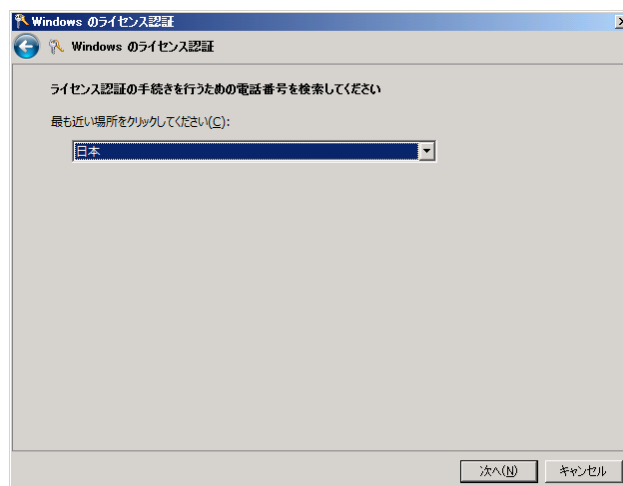
- ⑤ 「ライセンス認証の手続きを行うその他の方法を表示します」をクリックします。



- ⑥ 「自動電話システムを使用します」をクリックします。



- ⑦ 最も近い場所をクリックしてくださいと表示されているプルダウンメニューより「日本」を選択して、[次へ] ボタンをクリックします。



- ⑧ ステップ1にライセンス認証専用窓口の電話番号が表示されますので、いずれかの電話番号に電話を掛けます。

Windows のライセンス認証

Windows のライセンス認証

Windows のライセンス認証の手続きを今すぐ行ってください

ステップ 1: 確認 ID を入手するには、次の電話番号に電話します:

(無料電話番号)

(有料電話番号)

(SMS)

ステップ 2: 電話システムの指示に従って、インストール ID を入力します:

1 2 3 4 5 6 7 8 9

ステップ 3: 電話システムによって指定された確認 ID を入力します(3):

A B C D E F G H

次へ(N) キャンセル

- ⑨ 音声の案内に従い、ステップ2に記載されているインストールIDを電話機の数字ボタンを使って入力します。

認証手続きが完了すると、確認IDが応答されますのでこのIDをメモに書き留めます。

Windows のライセンス認証

Windows のライセンス認証

Windows のライセンス認証の手続きを今すぐ行ってください

ステップ 1: 確認 ID を入手するには、次の電話番号に電話します:

(無料電話番号)

(有料電話番号)

(SMS)

ステップ 2: 電話システムの指示に従って、インストール ID を入力します:

1 2 3 4 5 6 7 8 9

ステップ 3: 電話システムによって指定された確認 ID を入力します(3):

A B C D E F G H

次へ(N) キャンセル

- ⑩ ⑨でメモに書き留めた確認IDをステップ3に入力し、**〔次へ〕** ボタンをクリックします。

The screenshot shows the 'Windows のライセンス認証' (Windows Activation) window. It is at Step 3: '電話システムによって指定された確認 ID を入力します(3):' (Enter the confirmation ID specified by the telephone system (3):). The window displays a grid of input boxes for the confirmation ID, organized by columns labeled A through H. The first row of boxes is highlighted with a thick black border. At the bottom right, there are two buttons: '次へ(N)' (Next) and 'キャンセル' (Cancel).

- ⑪ ライセンス認証に成功しましたの画面が表示されますので、**〔閉じる〕** ボタンをクリックして画面を終了してください。

The screenshot shows the 'Windows のライセンス認証' (Windows Activation) window after successful activation. The message reads: 'ライセンス認証に成功しました' (Activation successful). Below this, it states: 'ライセンス認証は、お使いの Windows が正規品であることを検証するのに役立ちます。正規の Windows Server 2008 R2 では、利用可能なすべての更新プログラムおよび製品サポートを Microsoft から受け取ることができます。' (Activation helps verify that the Windows you are using is genuine. In genuine Windows Server 2008 R2, you can get all available updates and product support from Microsoft.) There is a link: 'オンラインで正規の Windows の利点の詳細を表示' (View details about the benefits of genuine Windows online). A 'ask for genuine Microsoft software' logo is also present. At the bottom right, there is a button labeled '閉じる' (Close).

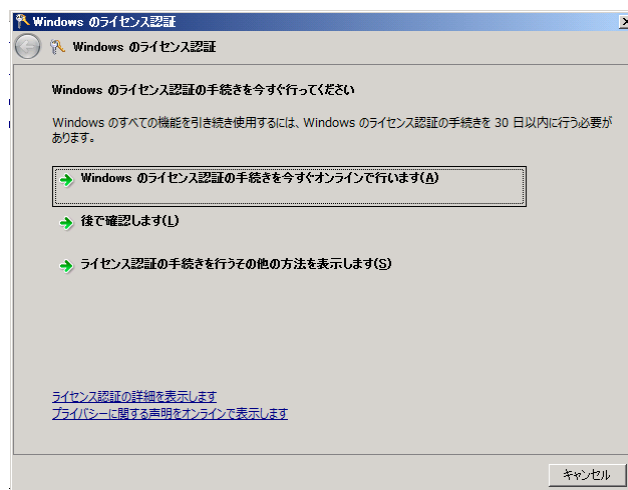
これで電話によるライセンス認証は完了です。

（b）インターネット経由でライセンス認証する場合

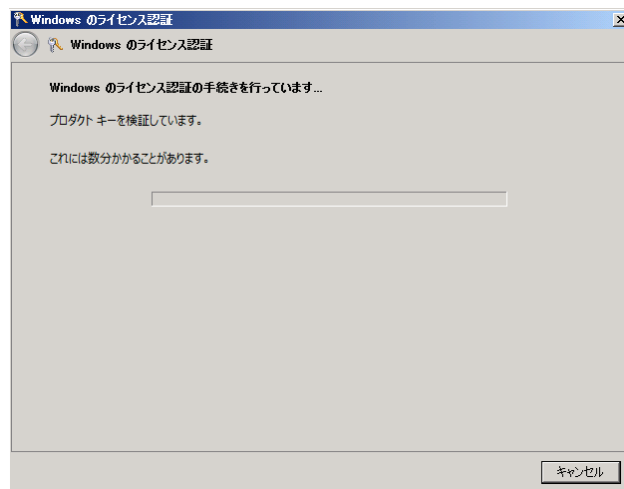
- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- ③ [システムとセキュリティ] をクリックし、[システム] をクリックします。
- ④ 「Windows ライセンス認証」の「自動ライセンス認証が始まるまで3日です。今すぐ行う場合はここをクリックしてください」をクリックします（下線部の内容はライセンスの状態によって変わります）。



- ⑤ 「Windowsのライセンス認証の手続きを今すぐオンラインで行います」をクリックします。



- ⑥ プロダクトキーの検証をしていますの画面が表示され、ライセンスの認証が実行されます。



- ⑦ ライセンス認証に成功しましたの画面が表示されますので、[閉じる] ボタンをクリックして画面を終了してください。



これでインターネット経由によるライセンス認証は完了です。

このページは白紙です。

付録C 仮想環境を構築する場合のセットアップ手順 (Windows Server® 2012 R2の場合)

Windows Server® 2012 R2にはゲストOS用のライセンスが1つ付属しており、この製品では、ゲストOSとしてWindows Server® 2012 R2をインストールした仮想環境を提供しています。

ここでは、仮想環境を構築する場合のセットアップ手順について説明します。このセットアップ手順は、以下の留意事項をよく読み、仮想環境を構築する場合にだけ実施してください。

留意事項

仮想マシンにインストールされているゲストOS (Windows Server® 2012 R2 Standard) を使用する場合、ライセンス認証手続きをする必要があります。なお、このライセンス認証の方法とマイクロソフト社のプライバシーポリシーの詳細については、仮想環境の最初の起動時に表示されます。

<仮想環境を構築しない場合>

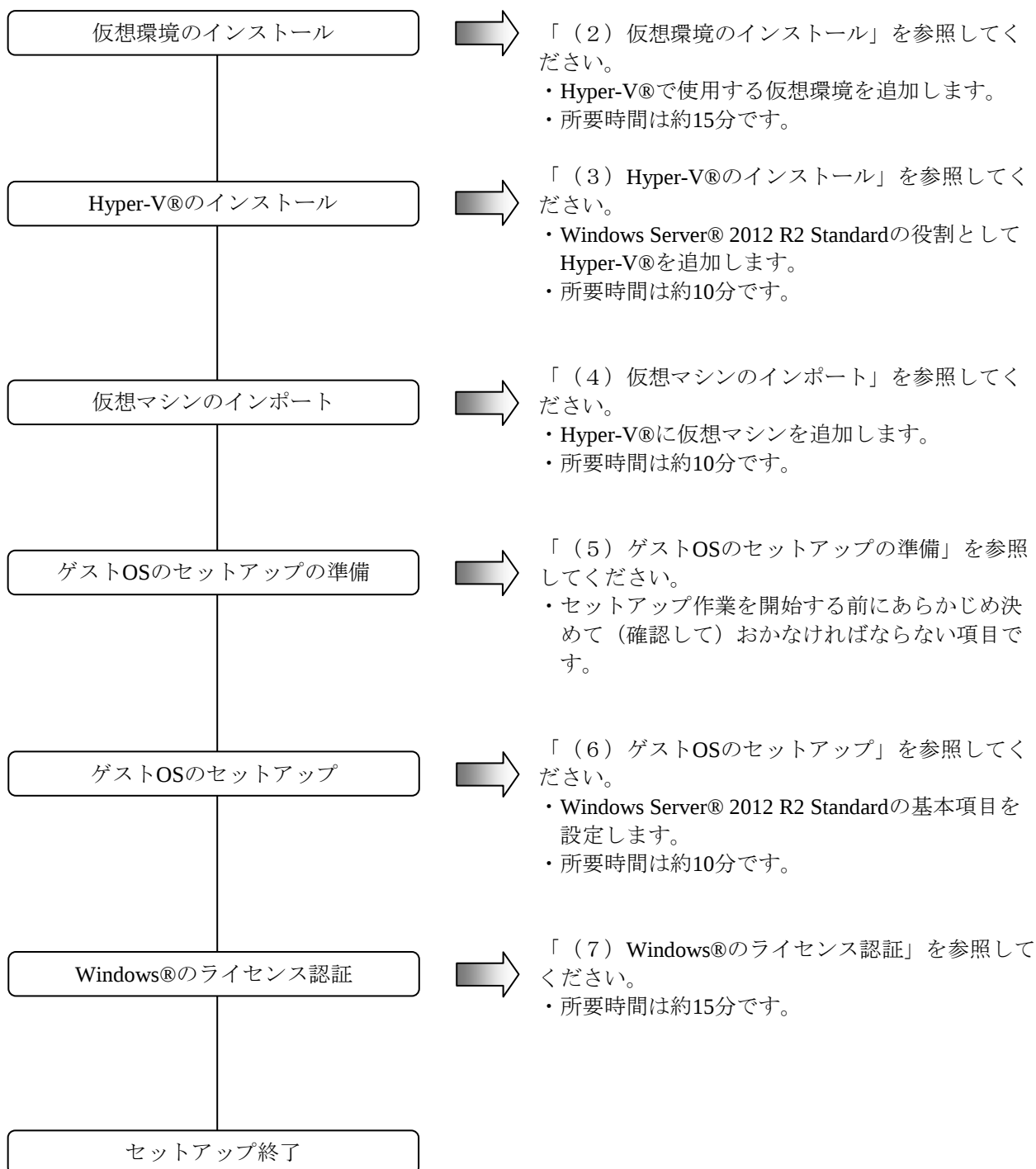
仮想環境のセットアップに使用するファイルは、ゲストOS用の仮想ハードディスクファイルを含んでいるため、約4GBのディスク容量を占有します。そのため、仮想環境を構築しない場合は、以下の手順に従い格納ディレクトリを削除することをお勧めします。

- ① コンピュータの管理者アカウントでサインインしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでサインインします。
- ② コマンドプロンプトを起動します。
 - ・ [スタート] ボタンを右クリックし、表示されるメニューから [コマンド プロンプト(管理者)] をクリックします。
(サインインした管理者アカウントがビルトインAdministratorアカウントである場合は、[コマンドプロンプト] をクリックします。)
 - ・ [ユーザー アカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] ボタンをクリックします。
- ③ [コマンドプロンプト] 画面で以下を入力して [Enter] キーを押します。
`rmdir /s C:¥HITACHI¥Hyper-V_Image`
- ④ 削除するディレクトリの確認を促されますので、“y”を入力して [Enter] キーを押します。

（1）セットアップ手順の概要

以下に、プレインストールされた仮想マシン（ゲストOS：Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard）のセットアップ手順を示します。

以下に設定の概略フローを示します。



（2）仮想環境のインストール

以下の手順で仮想環境をインストールしてください。

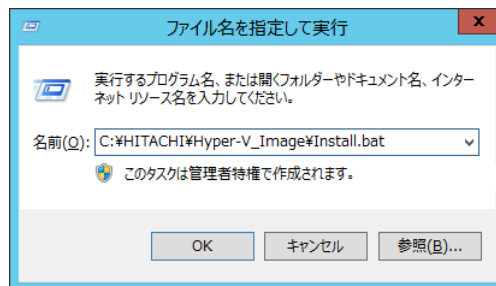
留意事項

“C:¥Virtual Machine¥WS12R2” 以下に仮想環境をインストールします。

既にHyper-V®で“C:¥Virtual Machine¥WS12R2” 以下のファイルを仮想マシンとして構築し使用している場合、このインストール作業によって上書きしますので、必要に応じてバックアップを取得してください。

- ① コンピュータの管理者アカウントでサインインしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでサインインします。
- ② セットアッププログラムを起動します。
 - ・ **［スタート］ ボタン**を右クリックし、表示されるメニューから**［ファイル名を指定して実行］**をクリックします。
 - ・ 名前のボックスに以下を入力して **［OK］ ボタン**をクリックします。

C:¥HITACHI¥Hyper-V_Image¥Install.bat



- ③ インストール確認のダイアログボックスが表示されますので、**［OK］ ボタン**をクリックします。
- ④ インストールが完了すると、完了したことを示すメッセージが表示されますので、何かキーを押してください。ウィンドウが閉じ、インストールは完了です。

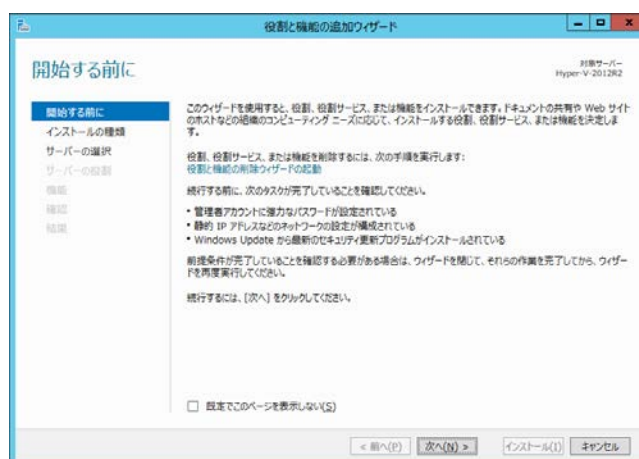
（3）Hyper-V®のインストール

以下の手順でHyper-V®インストールしてください。

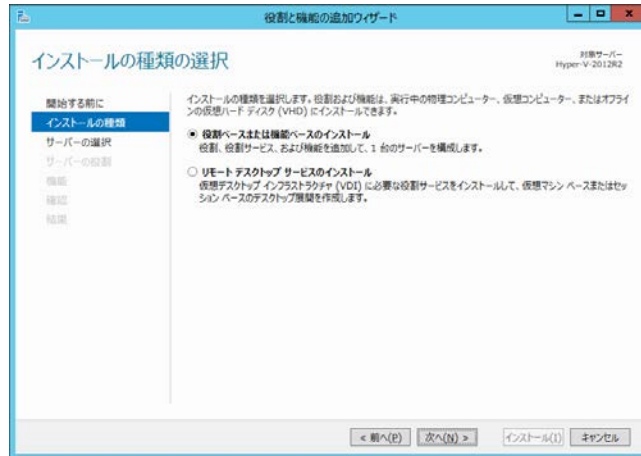
- ① [スタート] ボタンをクリックし、表示された [スタート] 画面の [サーバー マネージャー] をクリックします。
- ② [サーバー マネージャー] 画面が表示されますので、「サーバーマネージャーへようこそ」の [役割と機能の追加] をクリックします。



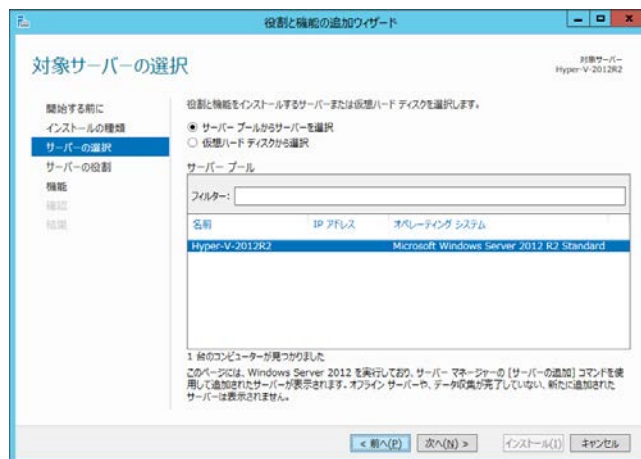
- ③ 「役割と機能の追加ウィザード」の [開始する前に] 画面が表示されますので、[次へ] ボタンをクリックします。



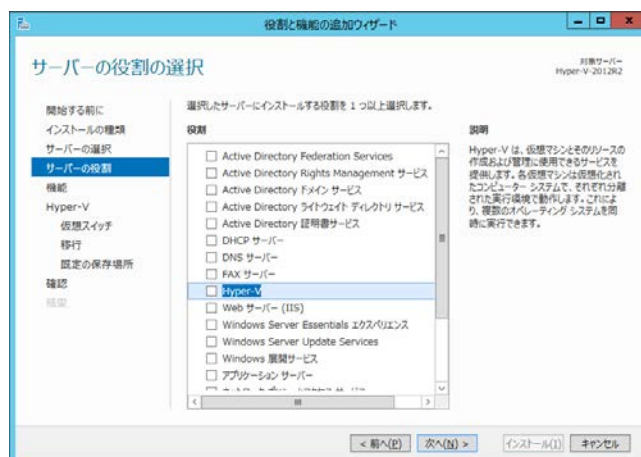
- ④ 「インストールの種類を選択」画面が表示されますので、「役割ベースまたは機能ベースのインストール」を選択して「次へ」ボタンをクリックします。



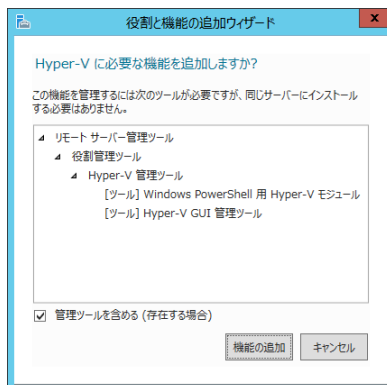
- ⑤ 「対象サーバーの選択」画面が表示されますので、「サーバープールからサーバーを選択」を選択して「次へ」ボタンをクリックします。



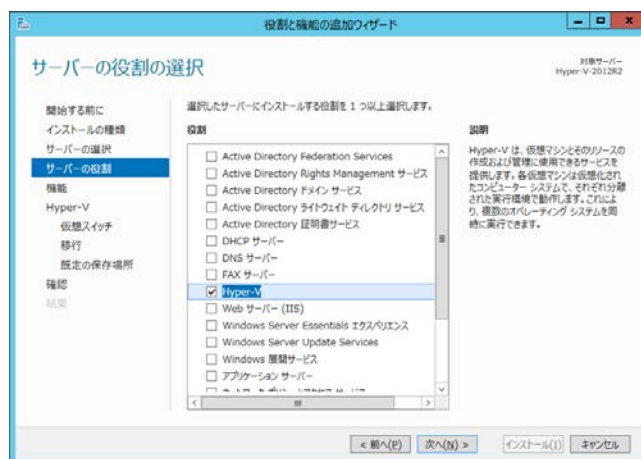
- ⑥ 「サーバーの役割の選択」画面が表示されますので、「Hyper-V」チェックボックスをオンにします。



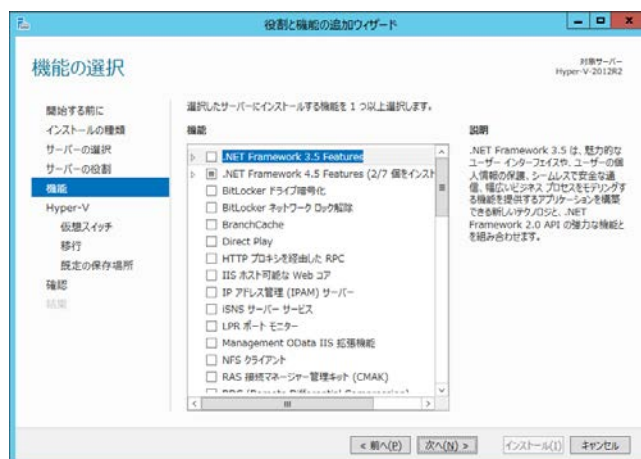
- ⑦ 「Hyper-Vに必要な機能を追加しますか？」画面が表示されますので、「機能の追加」ボタンをクリックします。



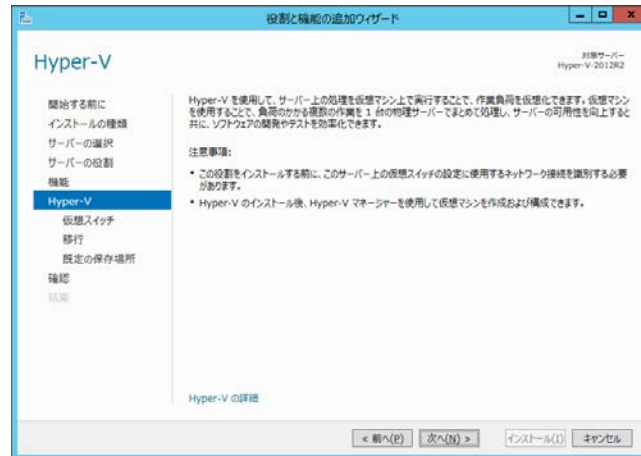
- ⑧ 「サーバーの役割の選択」画面に戻りますので、「次へ」ボタンをクリックします。



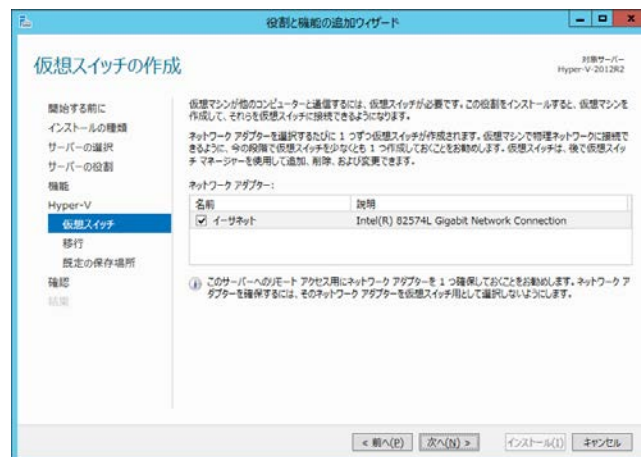
- ⑨ 「機能の選択」画面が表示されますので、「次へ」ボタンをクリックします。



- ⑩ [Hyper-V] 画面が表示されますので、[次へ] ボタンをクリックします。



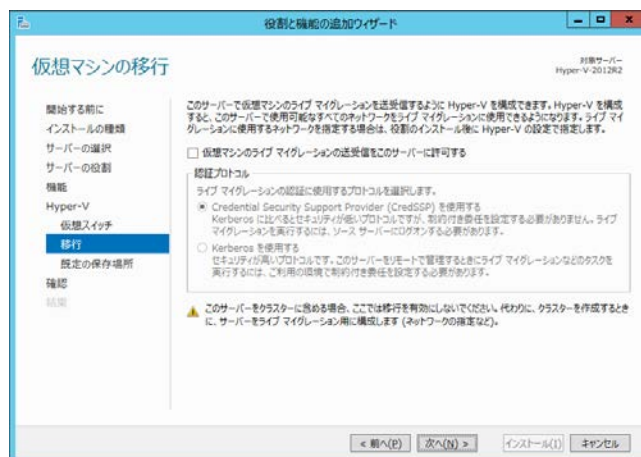
- ⑪ [仮想スイッチの作成] 画面が表示されますので、仮想マシンが他のコンピュータと通信する場合は、仮想スイッチ用に使用するネットワークアダプターのチェックボックスをオンにして [次へ] ボタンをクリックします。



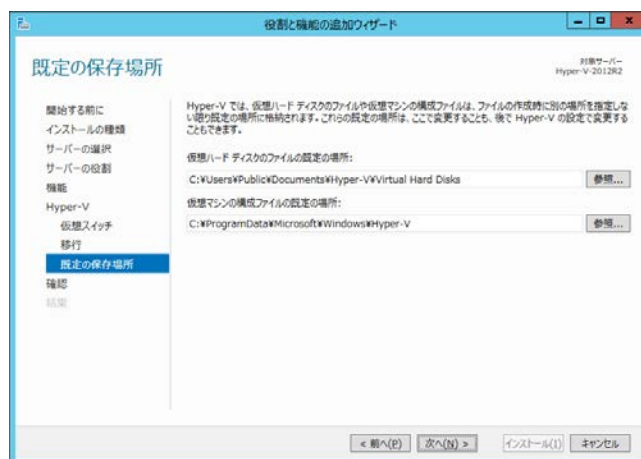
留意事項

- ネットワーク接続をしていない場合、ネットワークアダプターは表示されません。
- 仮想スイッチは後から仮想スイッチ マネージャーで作成することができます。

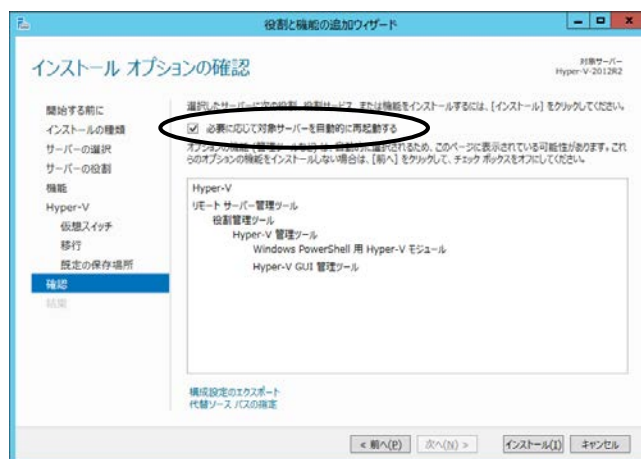
- ⑫ 「仮想マシンの移行」画面が表示されますので、「次へ」ボタンをクリックします。



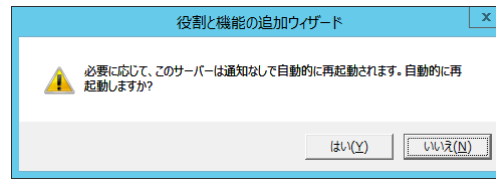
- ⑬ 「既定の保存場所」画面が表示されますので、「次へ」ボタンをクリックします。



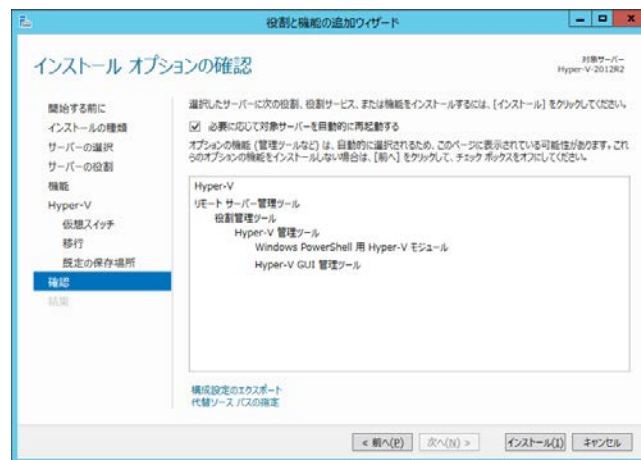
- ⑭ 「インストール オプションの確認」画面が表示されますので、「必要に応じて対象サーバーを自動的に再起動する」チェックボックスをオンにします。



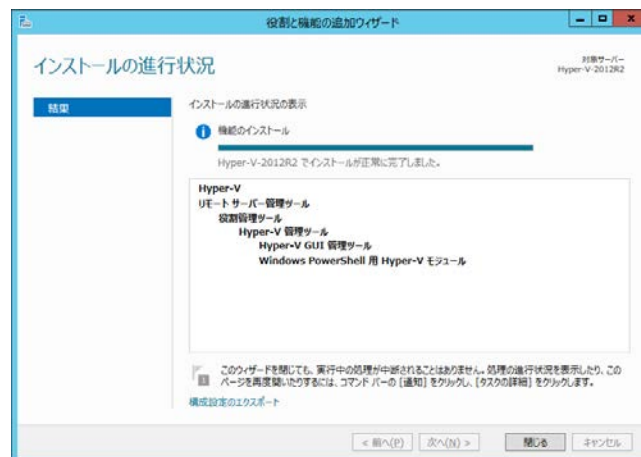
- ⑮ 必要に応じて自動的に再起動を行うかどうかを確認するメッセージダイアログボックスが表示されますので、**「はい」ボタン**をクリックします。



- ⑯ **「インストール オプションの確認」**画面に戻りますので、**「インストール」**ボタンをクリックします。インストール処理が開始され、必要に応じて再起動が行われます。



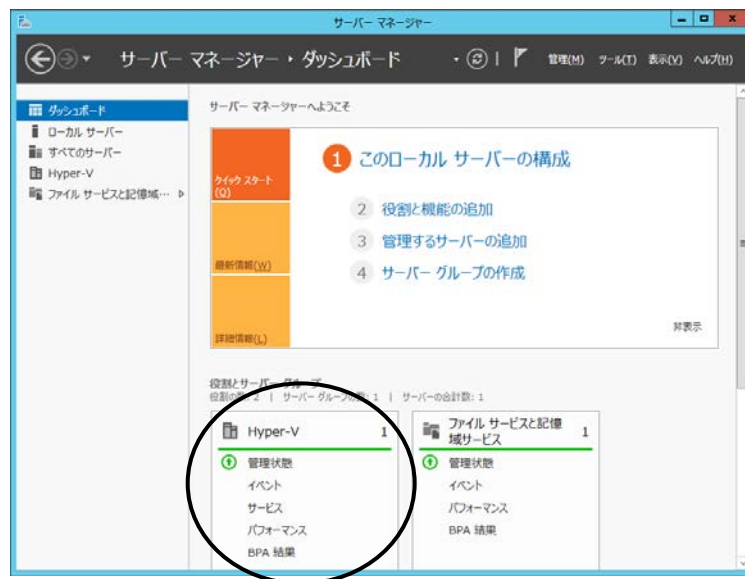
- ⑰ 再起動後にサインインすると、**「インストールの進行状況」**画面が表示されます。インストールが正常に完了したことを確認し、**「閉じる」**ボタンをクリックします。



留意事項

「インストールの進行状況」画面が表示されるまで数分かかる場合がありますが、キーボードおよびマウスなどの操作を行わずにそのままお待ちください。

- ⑱ インストール完了後、[サーバー マネージャー] 画面に [Hyper-V マネージャー] が追加されます。



- ⑲ [サーバー マネージャー] 画面右上の [×] ボタンをクリックして画面を終了します。

（4）仮想マシンのインポート

以下の手順で仮想マシンをインポートしてください。

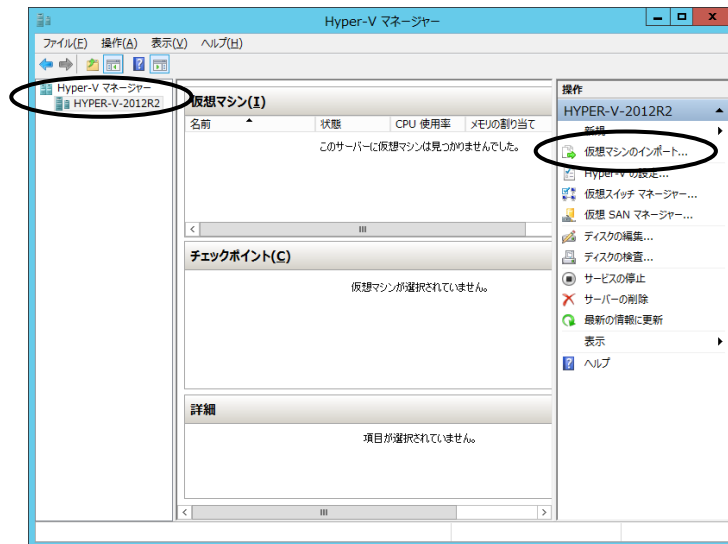
留意事項

既に構築していた仮想環境を破棄して新たに仮想環境を構築する場合、Hyper-Vマネージャーからインポート済みの仮想マシンを削除した後に仮想マシンをインポートしてください。

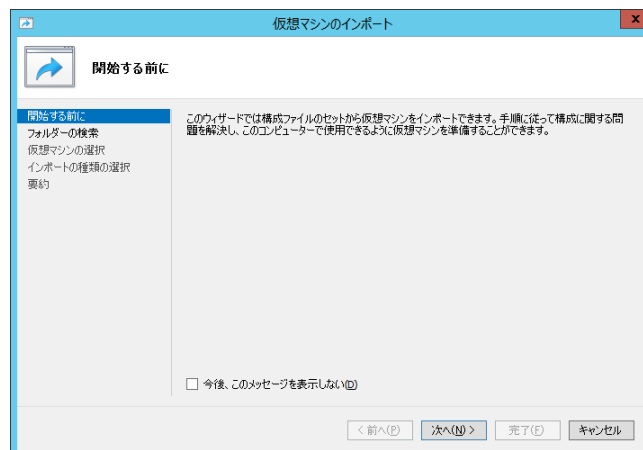
仮想マシンを削除する際は、仮想ハードディスクファイルも必ず削除してください。仮想ハードディスクファイルは、デフォルトでは以下のファイルです。

“C:\Users¥Public¥Documents¥Hyper-V¥Virtual Hard Disks¥HITACHI_VM_WS12R2.vhd”

- ① [スタート] ボタンをクリックし、表示された [スタート] 画面の [サーバー マネージャー] をクリックします。
- ② [サーバー マネージャー] 画面が表示されますので、[ツール] メニューから [Hyper-V マネージャー] をクリックします。
- ③ 左側のペインからHyper-V®をインストールした仮想化サーバーをクリックし、[操作] 欄に表示されるメニューから [仮想マシンのインポート] をクリックします。

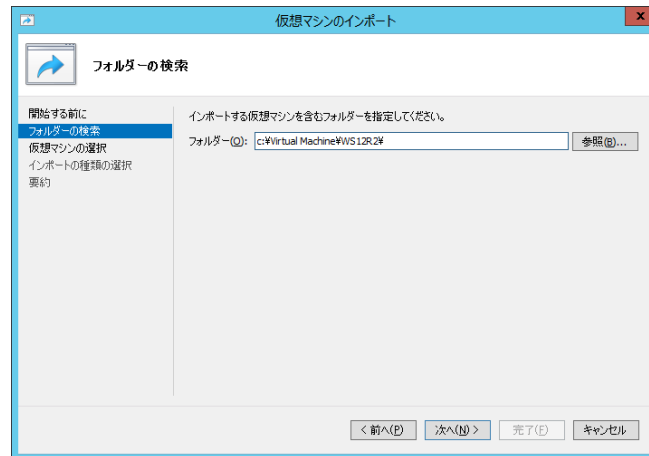


- ④ 「仮想マシンのインポート」の [開始する前に] 画面が表示されますので、[次へ] ボタンをクリックします。

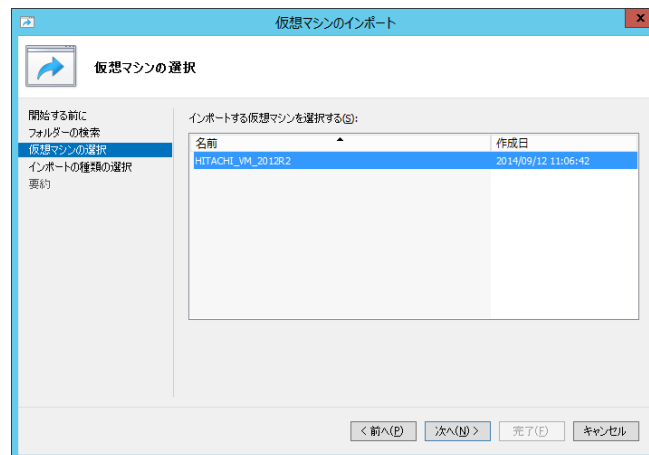


- ⑤ 「フォルダーの検索」画面が表示されますので、「フォルダー」欄に以下を入力し、「次へ」ボタンをクリックします。

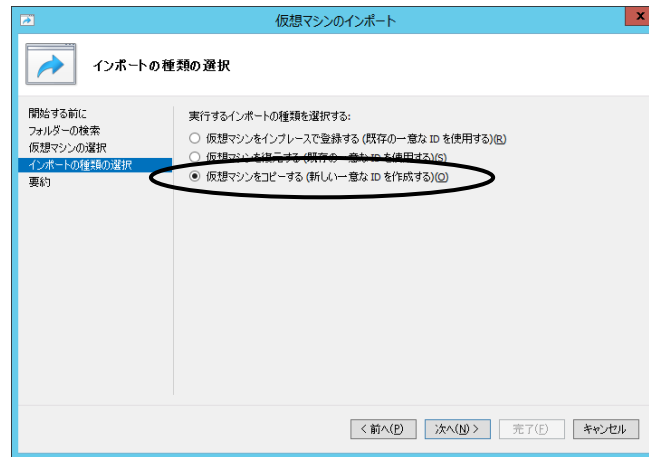
C:\Virtual Machine\WS12R2\



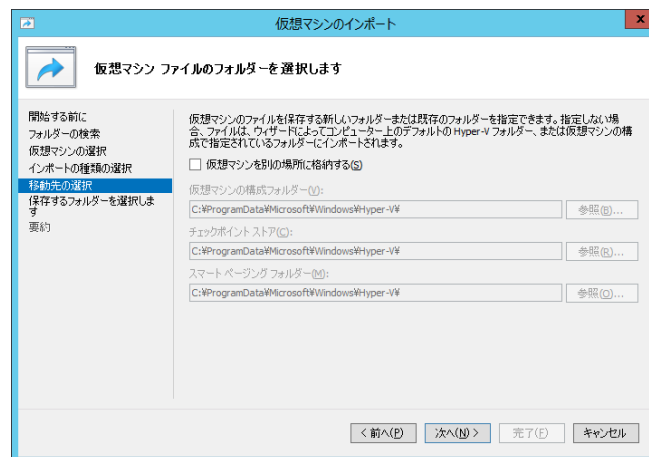
- ⑥ 「仮想マシンの選択」画面が表示されますので、「次へ」ボタンをクリックします。



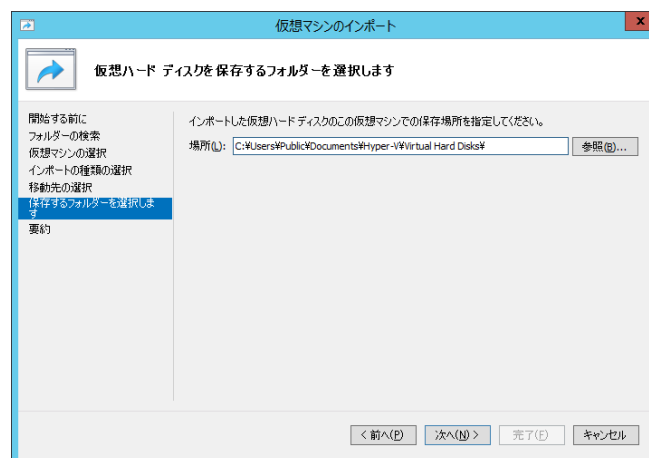
- ⑦ 「インポートの種類を選択」画面が表示されますので、「仮想マシンをコピーする（新しい一意なIDを作成する）」ラジオボタンを選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



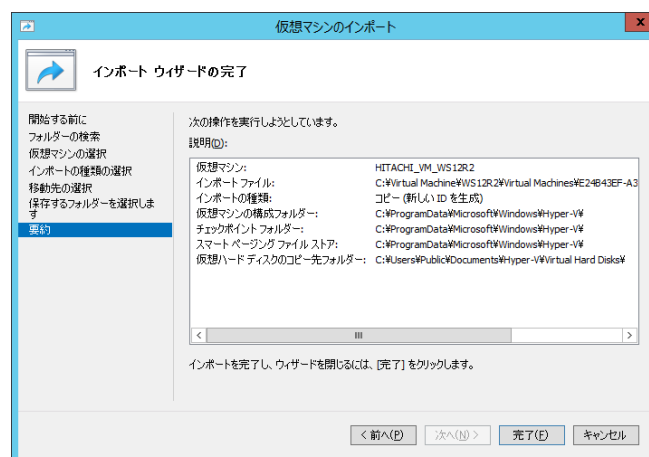
- ⑧ 「移動先の選択」画面が表示されますので、フォルダーを指定して「次へ」ボタンをクリックします。



- ⑨ 「保存するフォルダーを選択します」画面が表示されますので、保存場所を指定して「次へ」ボタンをクリックします。



- ⑩ 「要約」画面が表示されますので、表示されている内容を確認し正しければ「完了」ボタンをクリックします。



- ⑪ インポート終了後、「Hyper-V マネージャー」画面の「仮想マシン」欄に“HITACHI_VM_WS12R2”が追加されます。「Hyper-V マネージャー」画面右上の「×」ボタンをクリックして画面を終了します。

留意事項

インポートした仮想マシンの設定はすべてデフォルトの設定になっています。そのため、使用する環境に応じて仮想マシンの設定を変更してください。

（5）ゲストOSのセットアップの準備

下記の項目は、ゲストOSのセットアップ作業中に必要となる項目です。セットアップ作業を開始する前にあらかじめ決めて（確認して）おいてください。

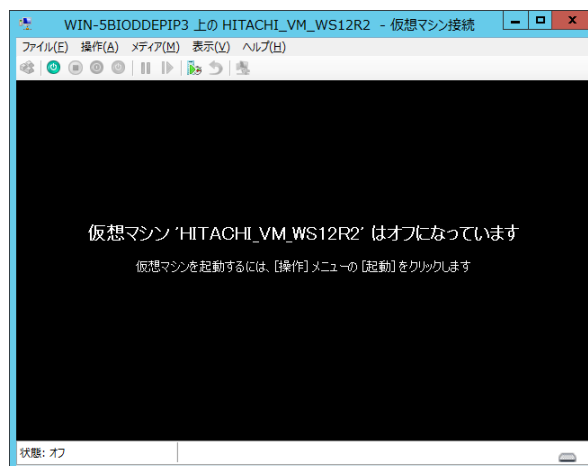
項目	内容
ライセンス証書	HF-W本体にライセンス証書が貼り付いていることを確認してください。 ライセンス証書に記載の“Product Key”が示すプロダクトキーを確認してください。
Administratorのパスワード	Administratorのパスワード 設定後に変更できます。

（6）ゲストOSのセットアップ

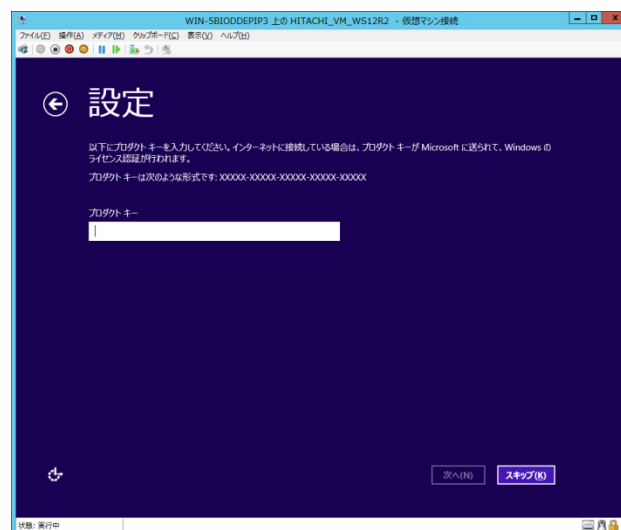
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standardをセットアップします。

以下の手順で仮想マシンを起動し、基本環境を設定してください。

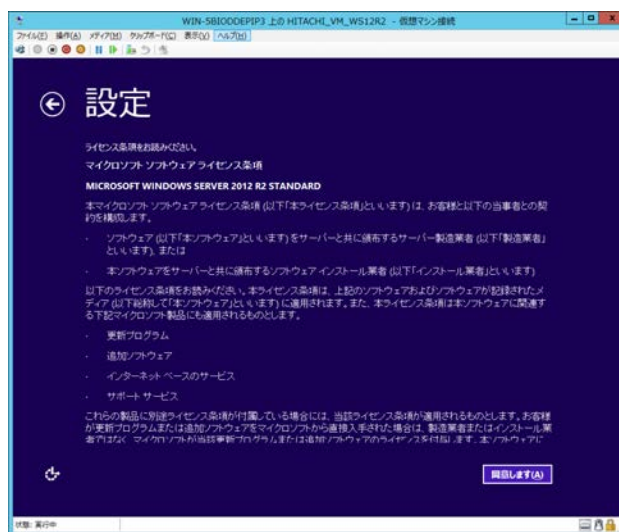
- ① [スタート] ボタンをクリックし、表示された [スタート] 画面の [サーバー マネージャー] をクリックします。
- ② [サーバー マネージャー] 画面が表示されますので、[ツール] メニューから [Hyper-V マネージャー] をクリックします。
- ③ [仮想マシン] 欄の “HITACHI_VM_WS12R2” を右クリックし、表示されたメニューから [接続] をクリックします。
- ④ [仮想マシン接続] 画面が表示されますので、[操作] メニューから [起動] をクリックします。Windows Server® 2012 R2 Standardのセットアップが自動で開始されます。



- ⑤ プロダクトキーの入力画面が表示されますので、ライセンス証書に記載のプロダクトキーを入力して [次へ] ボタンをクリックします。



- ⑥ ライセンス契約画面が表示されますので、契約内容をよく読んでから「同意します」ボタンをクリックします。

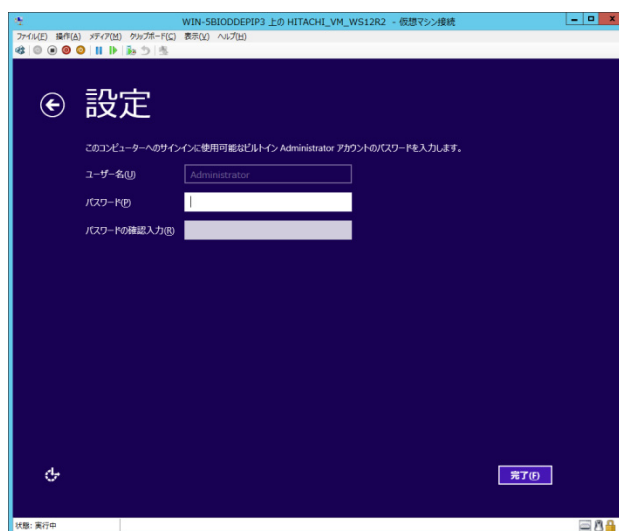


- ⑦ Administratorのパスワードを入力する画面が表示されますので、「パスワード」および「パスワードの確認入力」にパスワードを入力して「完了」ボタンをクリックします。

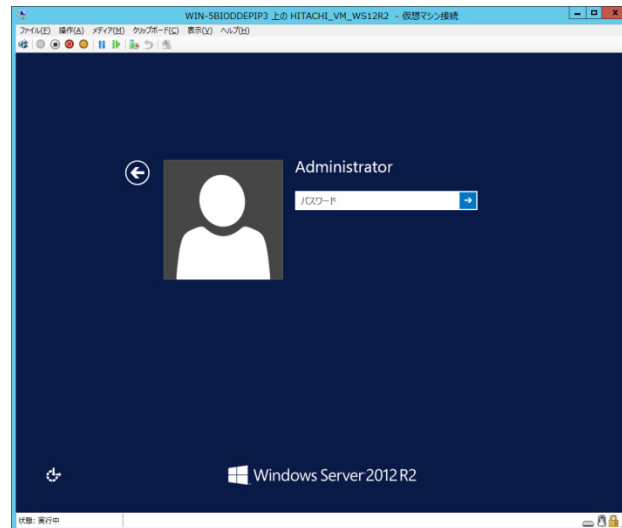
留意事項

Administratorのパスワードを設定する際、以下の条件を満たす必要があります。

- ・ 6文字以上であること。
- ・ 半角英文字の大文字および小文字、数字、記号の4種類から3種類以上を使用すること。
- ・ ユーザーアカウント名やユーザー名として使用されている3文字以上連続する文字列を使用しないこと。



- ⑧ サインイン画面が表示されますので、[Ctrl] + [Alt] + [End] キーを押します。
（注）画面には、「サインインするにはCtrl+Alt+Delキーを押してください。」と表示されますが、[Ctrl] + [Alt] + [End] キーを押してください。
- ⑨ パスワードを入力する画面が表示されますので、[パスワード] にパスワードを入力して[Enter] キーを押すか [→] をクリックすると、Windows®にサインインします。



以上でセットアップは完了です。

（7）Windows®のライセンス認証

仮想マシンにインストールされているゲストOS（Windows Server® 2012 R2 Standard）にはプロダクトアクティベーションと呼ばれる不正コピー防止技術が実装されており、ユーザーはWindows Server® 2012 R2 Standardを使用するにあたりマイクロソフト社に対してライセンス認証手続きをする必要があります。ライセンス認証は以下の方法で実施してください。

- ① コンピュータの管理者アカウントでサインインしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでサインインします。
- ② **【スタート】ボタン**を右クリックし、表示されたメニューから**【システム】**をクリックします。
- ③ 画面右下にある**【Windowsのライセンス認証】**をクリックします。
 - ・ **【Windowsのライセンス認証】画面**が表示されます。
 - ・ 画面の指示に従って認証を行ってください。

このページは白紙です。